

島本町の地域福祉に関する アンケート調査報告書

令和6（2024）年3月

島本町

目次

1. 調査の概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査期間と調査方法.....	1
3. 調査対象と回収状況.....	1
4. 報告書の見方.....	1
2. 調査結果.....	2
1 あなた及び世帯のことについて.....	2
2 悩み・相談について.....	6
3 あなたの暮らしや近所づきあいについて.....	17
4 まちの安心や幸せにつながる活動について.....	40
5 生活困窮者の支援について.....	59
6 緊急時・災害時の対応について.....	64
7 こころの健康づくりについて.....	73
8 再犯防止対策、成年後見制度について.....	80
3. 資料（アンケート調査票）.....	106

1. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、「第4期島本町地域福祉計画」「第1期島本町自殺対策計画」の見直し（次期計画の策定）にあたり、町内の15歳以上の住民の方を対象に、近所づきあいや地域活動の状況や意識などを把握することを目的として実施しました。

また、次期計画においては、再犯防止推進計画、成年後見制度利用促進計画も一体的に策定することから、関連する意識や考え方についても調査を実施しました。

2. 調査期間と調査方法

- ・調査期間：令和6年2月2日～2月20日（3月7日回収分まで反映）
- ・調査方法：郵送により配布・回収。またはインターネット回答（調査票にインターネット回答用ID・パスワードを貼付。郵送・インターネット回答ともに無記名で回答）

3. 調査対象と回収状況

	配布数	回収数	回収率
島本町の地域福祉に関する アンケート調査	1,500人	729人 (190人)	48.6% (12.7%)

（ ）内はインターネット回答の数

4. 報告書の見方

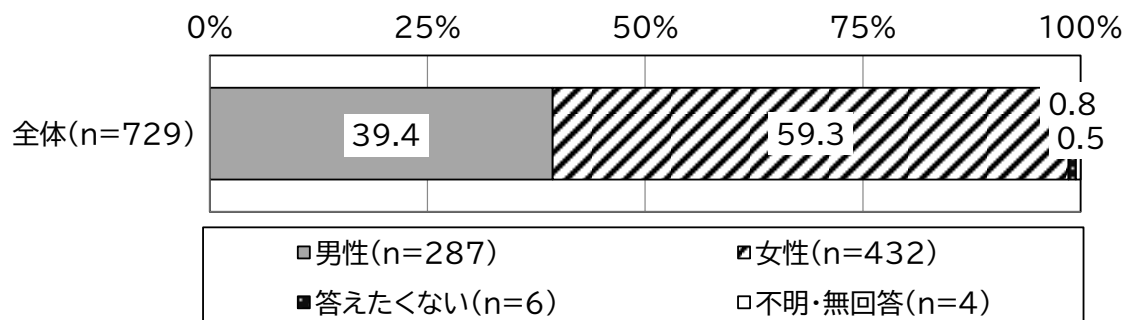
- 集計結果はすべて、小数点第2位を四捨五入しているため、比率（％）の合計が100％にならないことがあります。
- 図表及び解説文では、回答の選択肢の文言を短縮している場合があります。
- 階層集計の比率（％）は、すべて階層ごとの該当対象者数を100として算出しています。
- 回答比率（％）は、その質問の回答者数を基数として算出した。2つ以上の回答を求める設問では、比率（％）の合計は100％を超えています。
- 図表中の「n（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- 文章で回答いただいた内容については、原則として原文のまま掲載しています。なお、明らかな誤字・脱字は訂正するとともに、特定の個人や団体等が判別でき、その権利や利益を侵害する恐れがあるなど、公表することが適切でないと判断した表現については一部修正している場合があります。
- クロス集計表は回答の多い上位2項目に網掛け（「その他」「不明・無回答」等を除く）を行っています。また、各回答について「不明・無回答」及び性別を「答えたくない」と回答された方、居住する「小学校区がわからない」と回答された方の結果については、クロス集計表には記載していません。

2. 調査結果

1 あなた及び世帯のことについて

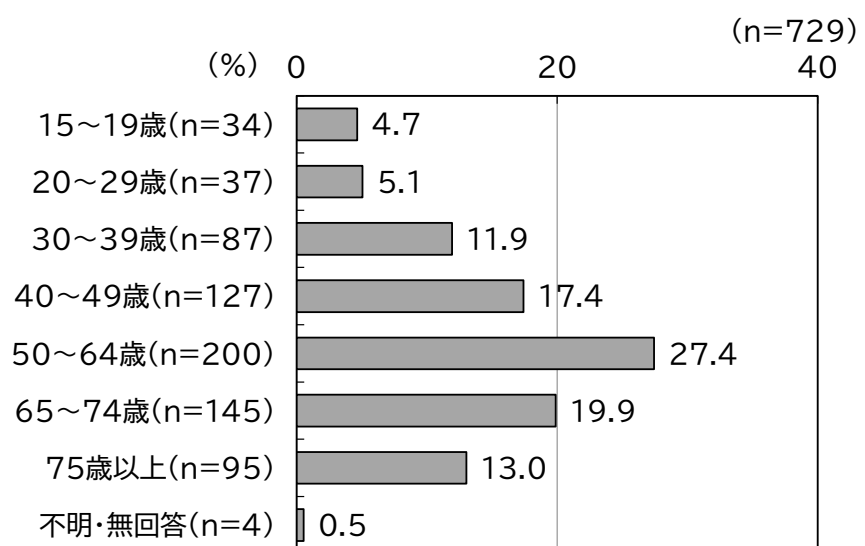
問1 あなたの性別は。あてはまる番号に○をつけてください。社会生活上の性別でご記入ください。(ひとつだけに○)

「男性」が39.4%に対し、「女性」が59.3%となっています。



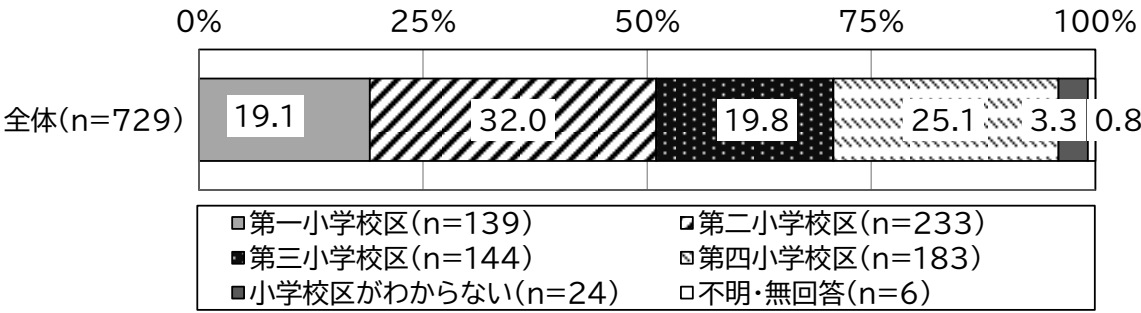
問2 あなたの年齢をお答えください。(数字を記入)

「50～64歳」が27.4%で最も高く、次いで「65～74歳」が19.9%となっています。また、「15～19歳」からの回答は4.7%となっています。



問3 あなたはどこの小学校区にお住まいですか。(ひとつだけに○)

「第二小学校区」が32.0%で最も高く、次いで「第四小学校区」が25.1%、「第三小学校区」が19.8%、「第一小学校区」が19.1%となっています。



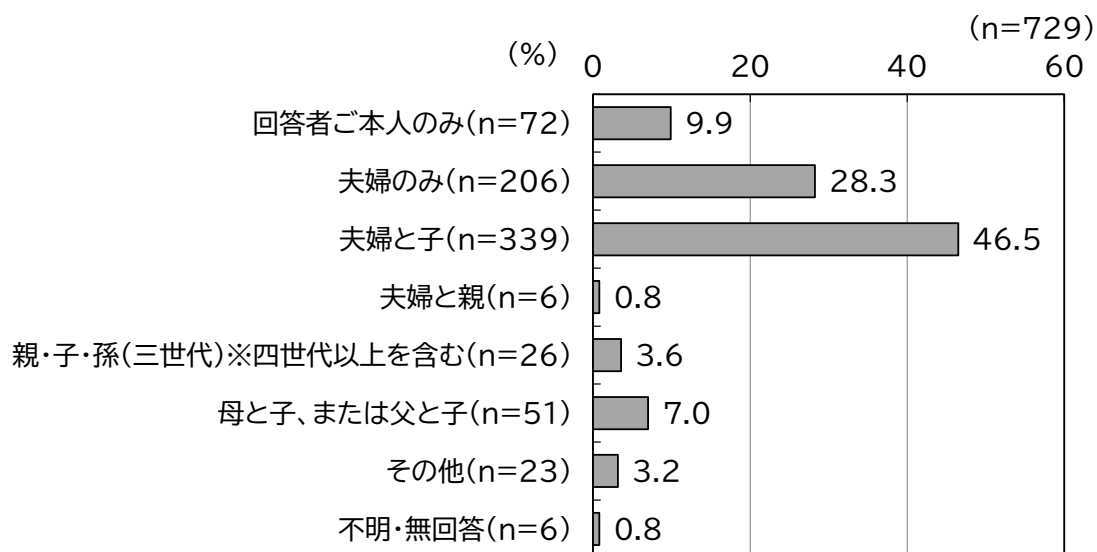
小学校区別に回答者の年齢についてみると、いずれの区分においても「50～64 歳」に次いで「65～74 歳」が高くなっています。

【クロス集計】 問3：居住小学校区

		(n)	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～64歳	65～74歳	75歳以上
全体		729	4.7	5.1	11.9	17.4	27.4	19.9	13.0
小学校区別	第一小学校区	139	2.2	5.0	13.7	19.4	23.0	22.3	13.7
	第二小学校区	233	6.9	4.3	8.6	18.0	28.3	18.5	15.5
	第三小学校区	144	4.2	8.3	11.1	16.7	29.2	18.1	12.5
	第四小学校区	183	4.4	4.4	15.8	16.9	29.5	20.8	8.2

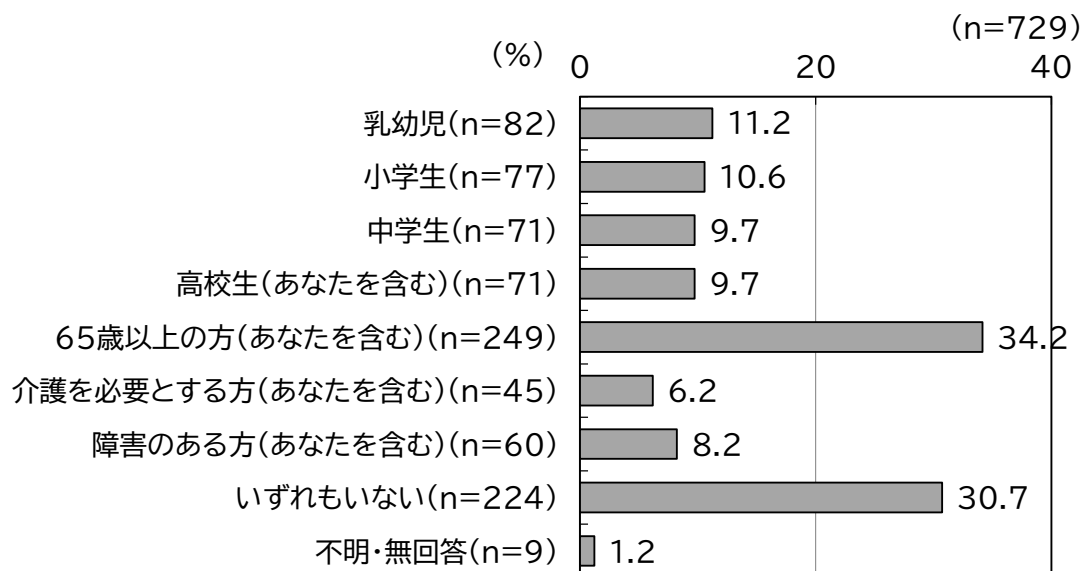
問4 あなたの世帯の家族構成について、お答えください。(ひとつだけに○)

「夫婦と子」が46.5%で最も高く、次いで「夫婦のみ」が28.3%となっています。



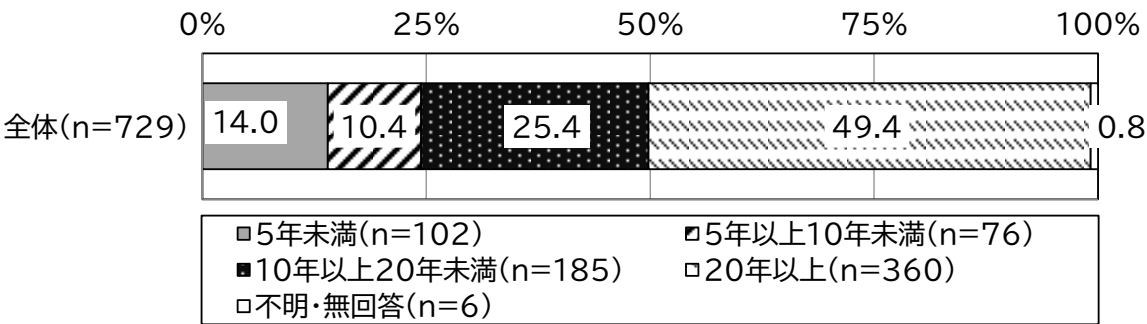
問5 あなたの家族の中で、次のような方(あなた自身を含みます)はいますか。(あてはまるすべてに○)

「65歳以上の方(あなたを含む)」が34.2%で最も高く、次いで「いずれもいない」が30.7%となっています。



問6 あなたは、現在の小学校区に住むようになってからどのくらいになりますか。(ひとつだけに○)

「20 年以上」が 49.4%で最も高く、次いで「10 年以上 20 年未満」が 25.4%となっています。



小学校区別にみると、いずれの区分においても「20 年以上」が最も高く、次いで「10 年以上 20 年未満」となっています。また、第一小学校区では「10 年以上 20 年未満」と同率で「5 年未満」が2番目に高くなっています。

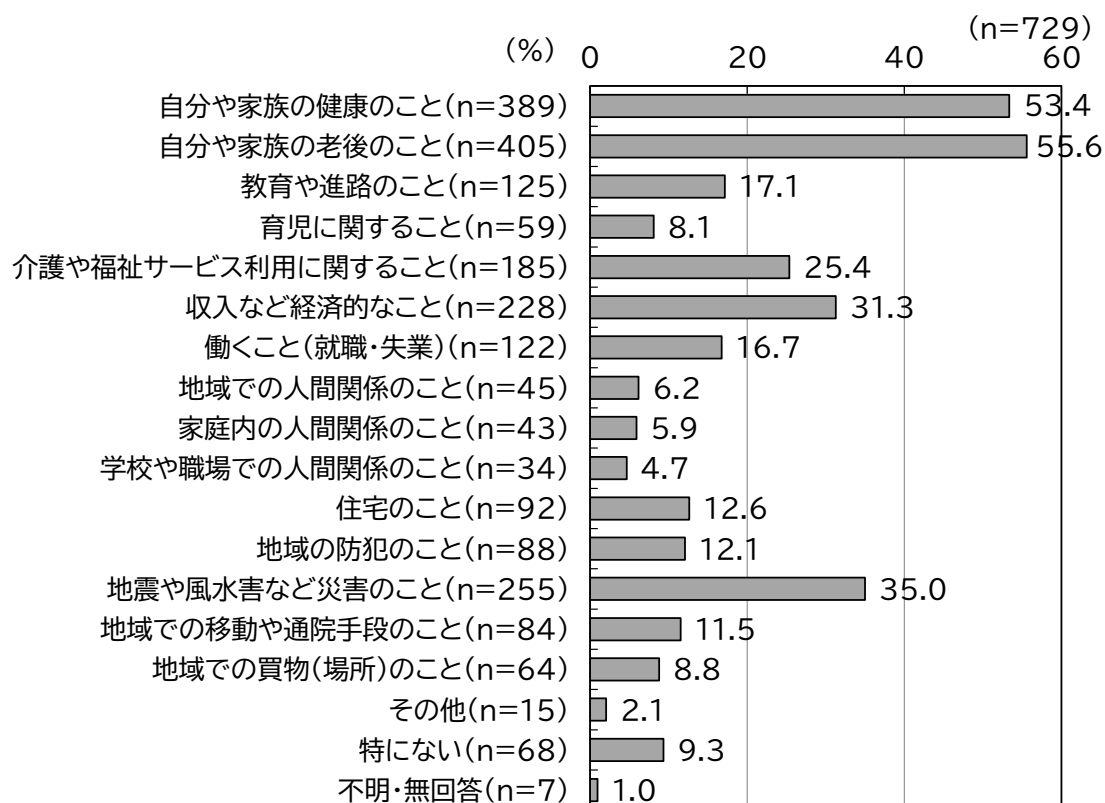
【クロス集計】 問6：地区居住年数

		(n)	5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上
全体		729	14.0	10.4	25.4	49.4
小学校区別	第一小学校区	139	18.7	10.8	18.7	51.8
	第二小学校区	233	7.3	9.0	27.5	56.2
	第三小学校区	144	11.1	12.5	20.8	54.9
	第四小学校区	183	19.1	10.9	32.2	37.7

2 悩み・相談について

問7 日頃の生活で、あなたがとくに不安を感じていることや悩みは何ですか。
(あてはまるすべてに○)

全体では「自分や家族の老後のこと」が 55.6%で最も高く、次いで「自分や家族の健康のこと」が 53.4%となっています。



◇日常生活の不安や悩み「その他」の回答

内 容
街灯が少なく怖い
交通量の増加、歩行者（特に高齢者）の安全
タクシーが前のように電話で呼べなくなった
緊急の用の時、タクシーが、なかなか連絡が取れず困っている。車のない高齢者は、皆、困って、悩んでいる現実です。通院する時が特に困る
病院・スーパー等へ移動方法（現在は自転車）
自家の墓の管理や墓じまいのこと
子どもが結婚してほしい
障害のある義姉も同居しているが、親が亡くなった後自立できるかどうか
小学校や町の体育館の状態。特に床がすべり易く、ワックスがけがされていない。生徒は大丈夫？また、高槻市の安満遺跡公園のような、広くキレイで安全な公園や施設が無い
通学路について、スケボーについて
ボールを使える広場が少ない
公共施設において、静かに、一人用に区切られた学習スペースがない

年齢別にみると、15～19 歳では「教育や進路のこと」、20～29 歳では「収入など経済的なこと」が最も高いなどの特徴がみられます。

性別・小学校区別・地区居住年数別にみると、いずれの区分においても「自分や家族の健康のこと」「自分や家族の老後のこと」の割合が高くなっています。

世帯区分別にみると、乳幼児のいる世帯では「育児に関すること」、小中高生のいる世帯では「教育や進路のこと」、高齢者のいる世帯では「自分や家族の健康のこと」、介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯では「自分や家族の老後のこと」が最も高くなっています。

【クロス集計】問7：日常生活の不安や悩み①

		(n)	自分や家族の健康のこと	自分や家族の老後のこと	教育や進路のこと	育児に関すること	介護や福祉サービス利用に関すること	収入など経済的なこと	働くこと(就職・失業)	地域での人間関係のこと	家庭内の人間関係のこと
全体		729	53.4	55.6	17.1	8.1	25.4	31.3	16.7	6.2	5.9
年齢別	15～19 歳	34	23.5	17.6	50.0	2.9	11.8	23.5	35.3	0.0	8.8
	20～29 歳	37	35.1	32.4	5.4	5.4	5.4	48.6	35.1	0.0	2.7
	30～39 歳	87	47.1	47.1	39.1	39.1	9.2	43.7	26.4	3.4	9.2
	40～49 歳	127	49.6	53.5	39.4	13.4	13.4	37.8	22.8	7.9	7.9
	50～64 歳	200	58.0	70.0	11.0	1.5	29.5	33.0	17.5	8.0	6.5
	65～74 歳	145	63.4	57.9	0.0	1.4	37.2	19.3	4.1	9.0	4.1
	75 歳以上	95	57.9	55.8	0.0	0.0	43.2	22.1	3.2	2.1	1.1
性別	男性	287	53.0	53.7	12.2	6.3	26.5	30.3	14.6	6.6	2.8
	女性	432	53.9	56.9	20.8	9.5	24.5	31.7	18.3	5.8	7.6
小学校区別	第一小学校区	139	53.2	54.0	18.0	10.8	24.5	38.8	20.9	7.9	10.8
	第二小学校区	233	52.4	58.4	17.6	6.4	25.3	26.2	15.5	6.9	4.7
	第三小学校区	144	47.9	54.9	14.6	9.7	28.5	25.7	16.0	4.2	2.8
	第四小学校区	183	59.0	53.6	19.7	7.7	23.0	37.2	16.9	5.5	6.0
地区居住年数別	5 年未満	102	57.8	44.1	27.5	24.5	15.7	38.2	25.5	5.9	11.8
	5～9 年	76	43.4	51.3	35.5	25.0	17.1	31.6	19.7	2.6	5.3
	10～19 年	185	48.1	53.5	30.3	4.3	21.6	35.1	22.7	9.7	8.1
	20 年以上	360	57.8	61.4	3.6	1.9	31.9	27.8	10.8	5.3	3.3
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	50.0	42.7	43.9	51.2	9.8	42.7	20.7	4.9	7.3
	小中高生のいる世帯	168	39.9	42.9	53.6	11.3	13.1	33.3	23.8	5.4	7.7
	高齢者のいる世帯	249	62.7	61.4	2.0	0.4	34.5	25.3	8.4	6.0	4.0
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	64.5	66.7	7.5	5.4	52.7	32.3	20.4	5.4	9.7

2. 調査結果

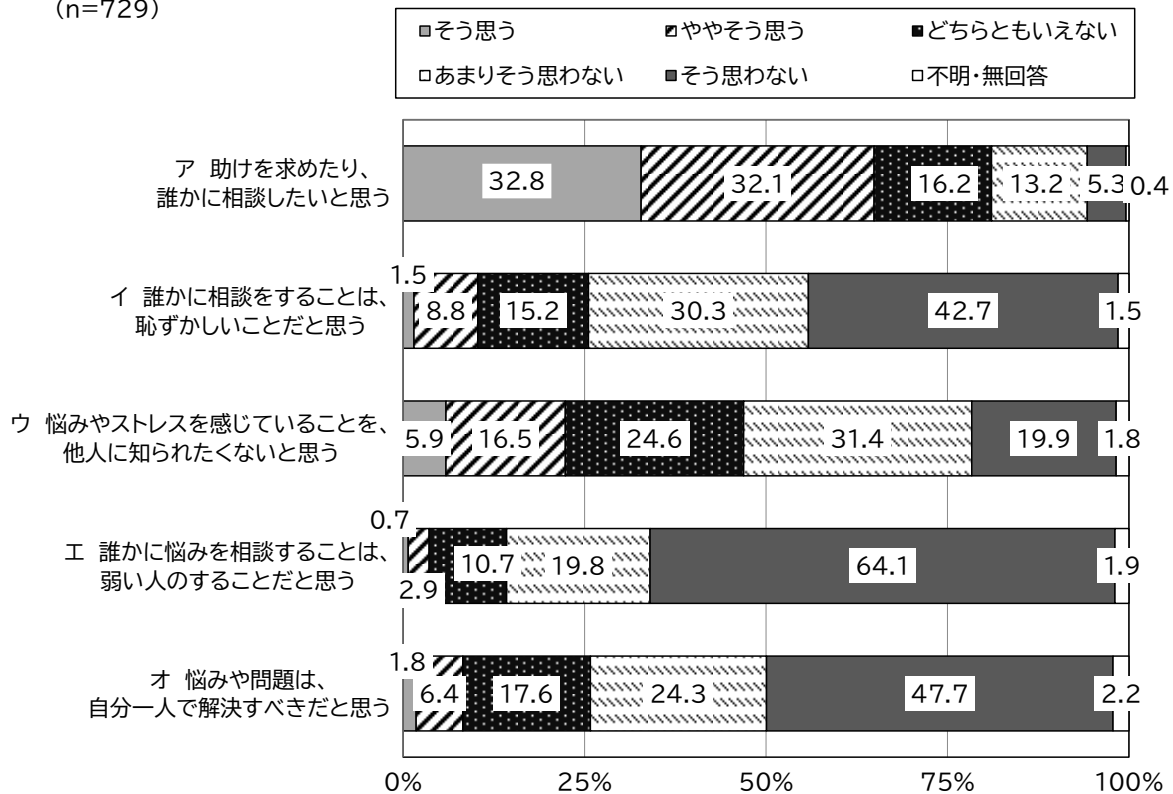
【クロス集計】問7：日常生活の不安や悩み②

		(n)	学校や職場での人間関係のこと	住宅のこと	地域の防犯のこと	地震や風水害など災害のこと	地域での移動や通院手段のこと	地域での買物（場所）のこと	その他	特にな
	全体	729	4.7	12.6	12.1	35.0	11.5	8.8	2.1	9.3
年齢別	15～19 歳	34	8.8	5.9	8.8	20.6	0.0	5.9	2.9	8.8
	20～29 歳	37	16.2	8.1	16.2	18.9	0.0	8.1	0.0	16.2
	30～39 歳	87	8.0	10.3	21.8	32.2	12.6	13.8	2.3	10.3
	40～49 歳	127	6.3	18.9	11.0	40.2	8.7	5.5	1.6	8.7
	50～64 歳	200	5.0	15.0	12.0	38.5	7.0	6.0	1.0	8.5
	65～74 歳	145	0.0	11.7	9.0	40.0	18.6	7.6	4.1	8.3
	75 歳以上	95	0.0	7.4	9.5	28.4	22.1	17.9	2.1	10.5
性別	男性	287	4.5	11.1	13.2	36.2	9.1	7.7	3.1	13.6
	女性	432	4.9	13.2	10.9	34.3	13.0	9.3	1.4	6.5
小学校区別	第一小学校区	139	5.0	13.7	13.7	35.3	10.8	7.2	5.8	6.5
	第二小学校区	233	3.9	11.6	10.3	32.6	15.9	13.7	0.4	7.3
	第三小学校区	144	5.6	13.9	10.4	34.7	9.0	5.6	0.7	12.5
	第四小学校区	183	4.9	12.6	14.2	39.9	8.7	5.5	2.7	12.6
地区居住年数別	5 年未満	102	2.0	16.7	13.7	27.5	9.8	13.7	3.9	7.8
	5～9 年	76	7.9	7.9	17.1	31.6	11.8	9.2	0.0	13.2
	10～19 年	185	9.2	12.4	15.1	39.5	5.9	6.5	1.6	9.2
	20 年以上	360	2.5	12.8	9.2	35.8	15.0	8.6	2.2	9.2
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	4.9	11.0	25.6	32.9	11.0	14.6	1.2	9.8
	小中高生のいる世帯	168	6.5	9.5	9.5	33.9	5.4	4.8	3.0	8.9
	高齢者のいる世帯	249	1.6	14.5	8.4	38.2	16.5	9.2	3.6	8.0
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	2.2	14.0	10.8	32.3	23.7	8.6	4.3	3.2

問8 あなたは悩みやストレスを感じたときに、どう考えますか。(ひとつだけに○)

悩みやストレスを感じたときの考えについては、「そう思う」は【ア 助けを求めたり、誰かに相談したいと思う】、「そう思わない」は【エ 誰かに悩みを相談することは、弱い人のすることだと思う】で高くなっています。

(n=729)



年齢・性別・校区・居住年数・世帯区分など、いずれのクロス集計項目でも、悩みやストレスを感じたときに、「助けを求めたり、誰かに相談したい」と思う方が最も多くなっています。しかし、その回答割合は5～7割と幅があり、回答割合が5割台と比較的低い層は、年齢別では「15～19歳」及び「75歳以上」、性別では「男性」、世帯構成別では「ひとり暮らし」及び「ひとり暮らしの高齢者・要介護者・障害者」となっています。

また、ほとんどのクロス集計項目で「悩みやストレスを感じていることを、他人に知られたくない」の回答が2番目に多い割合となっています。その他、「介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯」では、「誰かに相談することは、恥ずかしい」と思う方が2割弱、「ひとり暮らしの高齢者・要介護者・障害者」では、「悩みや問題は、自分一人で解決すべき」と思う方が2割弱と、比較的高い割合となっています。

2. 調査結果

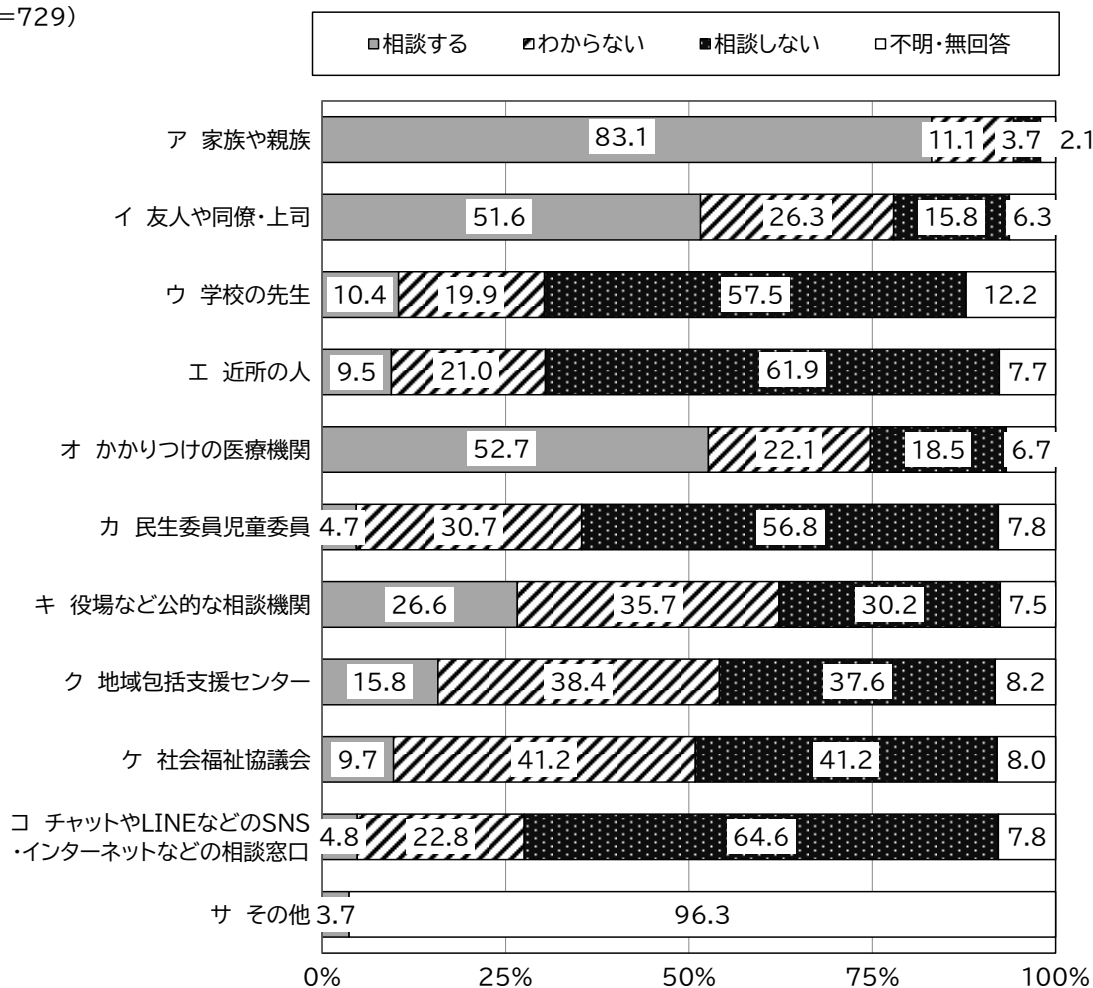
【クロス集計】問8：悩みやストレスと感じたときどう考えるか（「そう思う」または「ややそう思う」と答えた方）

		(n)	助けを求めたり、誰かに相談したいと思う	誰かに相談をするとは、恥ずかしいことだと思う	悩みやストレスを感じていることを、他人に知られたくないと思う	誰かに悩みを相談することは、弱い人することだと思う	悩みや問題は、自分一人で解決すべきだと思う
	全体	729	64.9	10.3	22.4	3.6	8.2
年齢別	15～19 歳	34	55.9	11.8	29.4	8.8	11.8
	20～29 歳	37	70.3	13.5	27.0	0.0	5.4
	30～39 歳	87	64.4	10.3	14.9	2.3	4.6
	40～49 歳	127	63.8	7.9	21.3	3.1	10.2
	50～64 歳	200	71.0	11.0	23.0	3.5	6.0
	65～74 歳	145	66.2	11.7	24.8	2.8	11.0
	75 歳以上	95	52.6	7.4	21.1	6.3	7.4
性別	男性	287	54.0	9.8	25.1	3.8	9.4
	女性	432	72.5	10.2	20.1	3.5	7.2
小学校区別	第一小学校区	139	67.6	12.9	25.9	3.6	10.1
	第二小学校区	233	66.1	10.7	24.9	4.7	9.9
	第三小学校区	144	63.2	8.3	14.6	2.8	6.3
	第四小学校区	183	62.3	8.2	23.0	2.7	4.9
地区居住年数別	5 年未満	102	62.7	16.7	21.6	4.9	6.9
	5～9 年	76	63.2	10.5	17.1	2.6	6.6
	10～19 年	185	65.9	9.7	21.1	3.8	9.7
	20 年以上	360	65.3	8.9	24.7	3.3	8.1
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	70.7	8.5	14.6	3.7	1.2
	小中高生のいる世帯	168	67.3	10.7	24.4	4.2	10.1
	高齢者のいる世帯	249	60.6	10.8	22.5	4.8	10.0
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	73.1	18.3	22.6	6.5	10.8
世帯構成別	ひとり暮らし	72	51.4	12.5	22.2	2.8	13.9
	(ひとり暮らしの高齢者・要介護者・障害者)	27	55.6	11.1	22.2	3.7	18.5
	夫婦のみ	206	66.0	9.2	23.3	3.9	6.8
	2 世代（親と子）	396	65.9	9.8	22.5	3.5	7.8
	3 世代以上（親・子・孫）	26	80.8	19.2	11.5	0.0	3.8

問9 あなたは不安や悩みを感じたときに、以下の人々に相談すると思いますか。(ひとつだけに○)

不安や悩みを感じたときの相談先については、【ア 家族や親族】【オ かかりつけの医療機関】【イ 友人や同僚・上司】の順に「相談する」の割合が高く、いずれも5割を超えています。一方、「相談しない」は【コ チャットやLINEなどのSNS・インターネットなどの相談窓口】【エ 近所の人】【ウ 学校の先生】【カ 民生委員児童委員】の順に割合が高く、いずれも5割を超えています。

(n=729)



◇不安や悩みを感じたときの相談先「その他」の回答

内 容	
家族	スクールカウンセラー
妻	町の法律相談（弁護士）
母親	その場合に応じて
ケアマネジャー	悩みごとによって相談する方が変わると思う
会社のカウンセラー	SNS に相談したりもしてるが、解決出来ることではないので余計にしんどくなる
グループホームの人、職員	自分でできることはできるだけ自分で
放課後等デイサービス事業所	夜道を大きい声で話すから眠れない

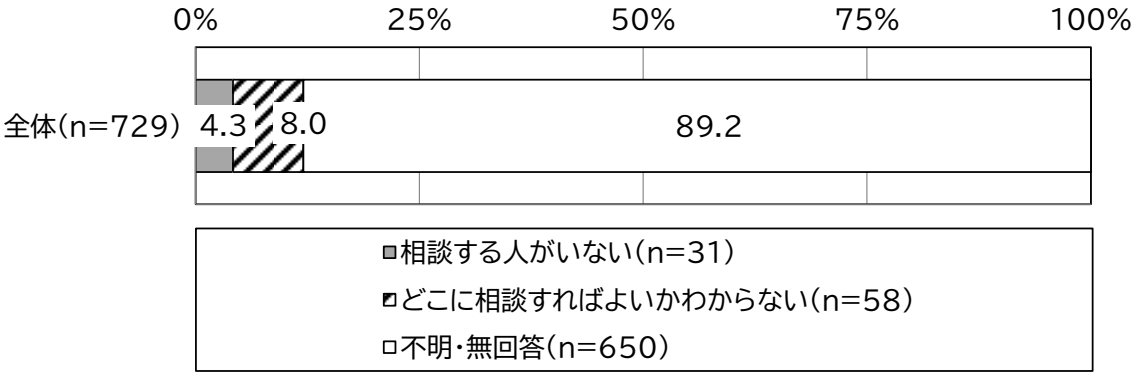
2. 調査結果

【クロス集計】 問9：不安や悩みを感じたときの相談先（「相談する」と答えた方）

		(n)	家族や親族	友人や同僚・上司	学校の先生	近所の人	かかりつけの医療機関	民生委員児童委員	役場など公的な相談機関	地域包括支援センター	社会福祉協議会	SNS・インターネットなどの相談窓口
全体		729	83.1	51.6	10.4	9.5	52.7	4.7	26.6	15.8	9.7	4.8
年齢別	15～19 歳	34	79.4	61.8	23.5	0.0	26.5	0.0	8.8	0.0	0.0	5.9
	20～29 歳	37	75.7	64.9	18.9	0.0	40.5	0.0	10.8	2.7	0.0	10.8
	30～39 歳	87	90.8	66.7	16.1	9.2	51.7	1.1	31.0	9.2	6.9	6.9
	40～49 歳	127	85.8	61.4	21.3	8.7	55.1	0.8	26.8	8.7	5.5	5.5
	50～64 歳	200	84.5	54.0	7.0	10.5	55.5	7.0	33.0	26.0	15.0	6.0
	65～74 歳	145	82.1	38.6	2.1	9.7	57.2	5.5	25.5	20.0	13.1	2.8
	75 歳以上	95	76.8	30.5	3.2	15.8	51.6	10.5	24.2	14.7	9.5	0.0
性別	男性	287	83.6	43.9	7.3	7.0	48.4	4.9	24.0	11.1	7.7	5.9
	女性	432	83.1	56.9	12.7	11.1	55.1	4.4	28.2	19.0	11.3	4.2
小学校区別	一小校区	139	80.6	49.6	9.4	7.2	54.0	3.6	30.2	11.5	6.5	5.8
	二小校区	233	83.3	54.9	10.3	12.9	51.1	5.6	29.6	16.7	10.7	3.4
	三小校区	144	84.0	52.8	11.1	6.9	54.2	4.9	24.3	14.6	8.3	6.3
	四小校区	183	84.7	51.4	12.6	9.3	54.1	3.8	24.0	18.6	12.6	5.5
地区居住年数別	5 年未満	102	88.2	56.9	12.7	4.9	52.0	0.0	26.5	8.8	4.9	3.9
	5～9 年	76	92.1	72.4	21.1	11.8	52.6	1.3	31.6	7.9	6.6	7.9
	10～19 年	185	80.5	53.5	16.8	10.8	47.6	4.9	23.2	15.1	9.2	4.9
	20 年以上	360	81.7	45.0	4.4	9.4	55.6	6.4	27.8	20.0	12.2	4.4
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	97.6	69.5	19.5	15.9	64.6	1.2	39.0	11.0	6.1	2.4
	小中高生のいる世帯	168	87.5	60.7	25.0	8.9	48.2	3.0	22.0	10.7	8.3	5.4
	高齢者のいる世帯	249	81.5	44.6	4.8	9.2	54.6	7.2	24.9	19.7	14.9	3.6
	介護が必要な方、障害のある方のいる世帯	93	79.6	45.2	5.4	11.8	59.1	5.4	35.5	22.6	14.0	1.1
世帯構成別	ひとり暮らし	72	69.4	48.6	2.8	13.9	45.8	5.6	23.6	11.1	8.3	4.2
	(ひとり暮らしの高齢者・要介護者・障害者)	27	74.1	51.9	3.7	22.2	48.1	7.4	14.8	11.1	11.1	11.1
	夫婦のみ	206	81.1	43.7	3.9	9.2	58.7	6.3	29.1	20.9	8.3	3.4
	2 世代（親と子）	396	86.9	57.3	15.4	9.8	50.8	3.8	26.0	14.1	11.1	6.1
	3 世代以上（親・子・孫）	26	92.3	53.8	15.4	0.0	50.0	3.8	23.1	15.4	7.7	0.0

【問9：不安や悩みを感じたときの相談先】（相談先がない、わからない回答者について）

また、選択肢ア～コ及びサ（その他）の項目に相談先として該当するものがなく、「相談する人がいない」という回答が全体の 4.3%、「どこに相談すればよいかわからない」という回答が全体の 8.0%となっています。



2. 調査結果

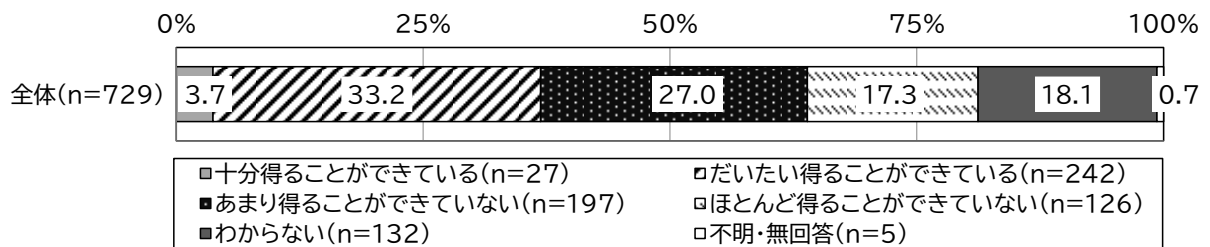
【クロス集計】問9：不安や悩みを感じたときの相談先（「相談先がない」または「わからない」と回答した方）

		(n)	相談する人がいない	どこに相談すればよいかわからない	(合計)
全体		729	4.3	8.0	12.3
年齢別	15～19 歳	34	8.8	2.9	11.7
	20～29 歳	37	2.7	2.7	5.4
	30～39 歳	87	1.1	10.3	11.4
	40～49 歳	127	5.5	8.7	14.2
	50～64 歳	200	4.0	9.5	13.5
	65～74 歳	145	4.8	7.6	12.4
	75 歳以上	95	4.2	6.3	10.5
性別	男性	287	7.3	9.8	17.1
	女性	432	2.3	6.7	9.0
小学校区別	第一小学校区	139	6.5	12.2	18.7
	第二小学校区	233	4.7	6.4	11.1
	第三小学校区	144	2.1	7.6	9.7
	第四小学校区	183	4.4	7.7	12.1
地区居住年数別	5 年未満	102	3.9	7.8	11.7
	5～9 年	76	3.9	14.5	18.4
	10～19 年	185	5.9	7.6	13.5
	20 年以上	360	3.6	6.9	10.5
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	1.2	7.3	8.5
	小中高生のいる世帯	168	4.2	8.9	13.1
	高齢者のいる世帯	249	4.4	6.8	11.2
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	3.2	10.8	14.0
世帯構成別	ひとり暮らし	72	5.6	4.2	9.8
	(ひとり暮らしの高齢者・要介護者・障害者)	27	3.7	7.4	11.1
	夫婦のみ	206	2.9	10.7	13.6
	2 世代（親と子）	396	4.0	7.3	11.3
	3 世代以上（親・子・孫）	26	7.7	7.7	15.4

「相談先する人がいない」及び「どこに相談すればよいかわからない」と回答した方の合計割合をみると、性別では、「男性」が 17.1%と、「女性」の 2 倍近く高くなっています。また、小学校区別では「第一小学校区」が、居住年数別では「5～9 年」が、それぞれ 18%台と高くなっています。

問 10 あなたは相談窓口や福祉サービスなどの情報を十分に得ることができていますか。(ひとつだけに○)

全体では「だいたい得ることができる」が33.2%で最も高く、次いで「あまり得ることができない」が27.0%となっています。



年齢別にみると、15～19歳では「わからない」、20～29歳で「あまり得ることができない」、その他の年齢では「だいたい得ることができる」が最も高くなっています。

性別にみると、特筆すべき差はみられません。

小学校区別にみると、第一小学校区では「あまり得ることができない」、その他の小学校区では「だいたい得ることができる」が最も高くなっています。

地区居住年数別にみると、5～9年では「だいたい得ることができる」が比較的高くなっています。

世帯区分別にみると、乳幼児のいる世帯や介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯では「だいたい得ることができる」が比較的高くなっています。

世帯構成別にみると、ひとり暮らし及びひとり暮らしの高齢者・要介護者・障害者では「だいたい得ることができる」と同率で「わからない」が最も高くなっています。

2. 調査結果

【クロス集計】問 10：相談窓口や福祉サービスの情報取得

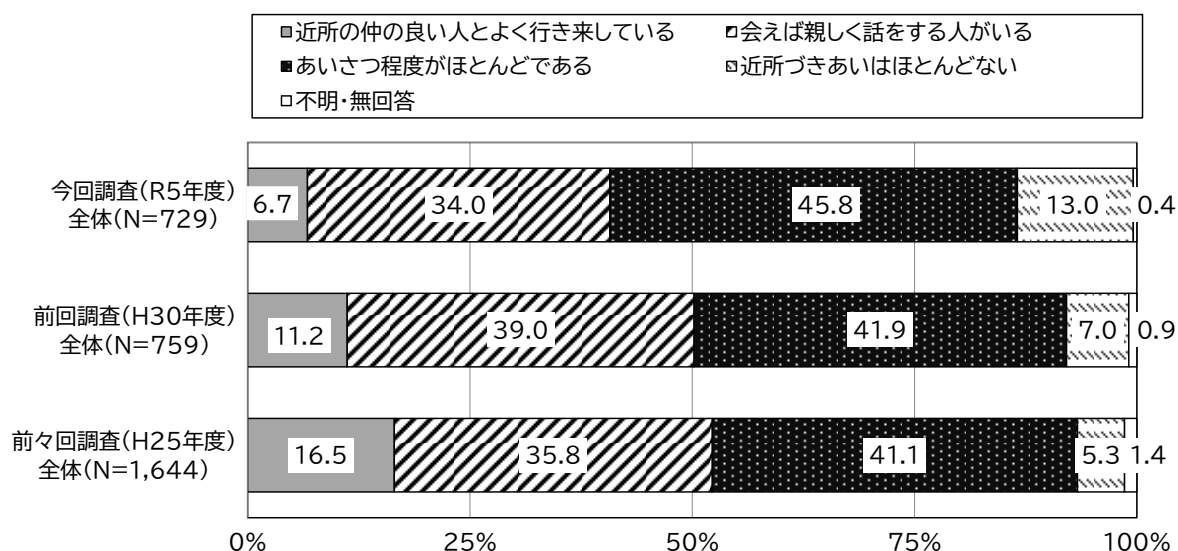
		(n)	十分 得る ことが でき ている	だ いた い 得 る こ と が で き て い る	あ ま り 得 る こ と が で き て い ない	ほ と ん ど 得 る こ と が で き て い ない	わ か ら な い
	全体	729	3.7	33.2	27.0	17.3	18.1
年齢別	15～19 歳	34	2.9	20.6	26.5	14.7	35.3
	20～29 歳	37	0.0	13.5	54.1	18.9	13.5
	30～39 歳	87	1.1	42.5	25.3	14.9	16.1
	40～49 歳	127	1.6	35.4	29.9	15.7	17.3
	50～64 歳	200	5.5	31.5	27.5	16.0	19.0
	65～74 歳	145	4.1	36.6	20.0	20.0	17.2
	75 歳以上	95	6.3	32.6	24.2	18.9	16.8
性別	男性	287	4.5	31.4	28.2	18.8	16.7
	女性	432	3.2	34.5	26.2	16.2	19.0
小学校区別	第一小学校区	139	3.6	25.9	30.9	18.0	21.6
	第二小学校区	233	4.7	35.6	26.6	16.3	15.9
	第三小学校区	144	2.1	39.6	22.9	16.7	18.1
	第四小学校区	183	3.8	30.1	27.3	18.6	19.7
地区居住年数別	5 年未満	102	2.9	30.4	29.4	15.7	20.6
	5～9 年	76	2.6	46.1	27.6	11.8	11.8
	10～19 年	185	3.2	27.6	26.5	21.1	21.1
	20 年以上	360	4.4	33.9	26.7	16.7	17.5
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	2.4	45.1	30.5	4.9	17.1
	小中高生のいる世帯	168	1.2	31.5	28.6	14.9	23.2
	高齢者のいる世帯	249	4.8	31.3	22.5	19.7	20.9
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	5.4	39.8	28.0	10.8	14.0
世帯構成別	ひとり暮らし	72	6.9	29.2	18.1	15.3	29.2
	(ひとり暮らしの高齢者・要介護者・障害者)	27	7.4	25.9	22.2	14.8	25.9
	夫婦のみ	206	4.4	30.1	29.1	19.9	16.0
	2 世代（親と子）	396	3.3	34.3	28.8	16.2	17.2
	3 世代以上（親・子・孫）	26	0.0	38.5	23.1	11.5	19.2

3 あなたの暮らしや近所づきあいについて

問11 あなたは、どのような近所づきあいをされていますか。(ひとつだけに○)

全体では「あいさつ程度がほとんどである」が45.8%で最も高く、次いで「会えば親しく話をする人がある」が34.0%となっています。

過去の調査と比較すると、「近所づきあいはほとんどない」の割合は、前回調査より6ポイント増加し、1割を超えています。また、「近所の仲の良い人とよく行き来している」の割合は回を追うごとに減少し、親密な近所付き合いが減ってきている状況がうかがえます。



年齢別にみると、15～64歳では「あいさつ程度がほとんどである」、65歳以上では「会えば親しく話をする人がある」が最も高くなっています。また、20～29歳では「近所づきあいはほとんどない」が3割を超えて、2番目に高くなっています。

性別にみると、いずれの区分においても「あいさつ程度がほとんどである」が最も高くなっていますが、女性の方が「近所の仲の良い人とよく行き来している」「会えば親しく話をする人がある」の割合は高くなっています。

小学校区別にみると、いずれの区分においても「あいさつ程度がほとんどである」が最も高くなっていますが、第二小学校区では「会えば親しく話をする人がある」も4割を超えて比較的高くなっています。

地区居住年数別にみると、20年以上では「会えば親しく話をする人がある」が最も高く、その他の区分においては「あいさつ程度がほとんどである」が最も高くなっています。また、5年未満では「近所づきあいはほとんどない」が2番目に高くなっています。

世帯構成別にみると、夫婦のみ、3世代以上の世帯では「会えば親しく話をする人がある」が最も高く、その他の区分においては「あいさつ程度がほとんどである」が最も高くなっています。また、ひとり暮らしでは「近所づきあいはほとんどない」が約2割と比較的高くなっています。

2. 調査結果

【クロス集計】 問 11：近所づきあいについて

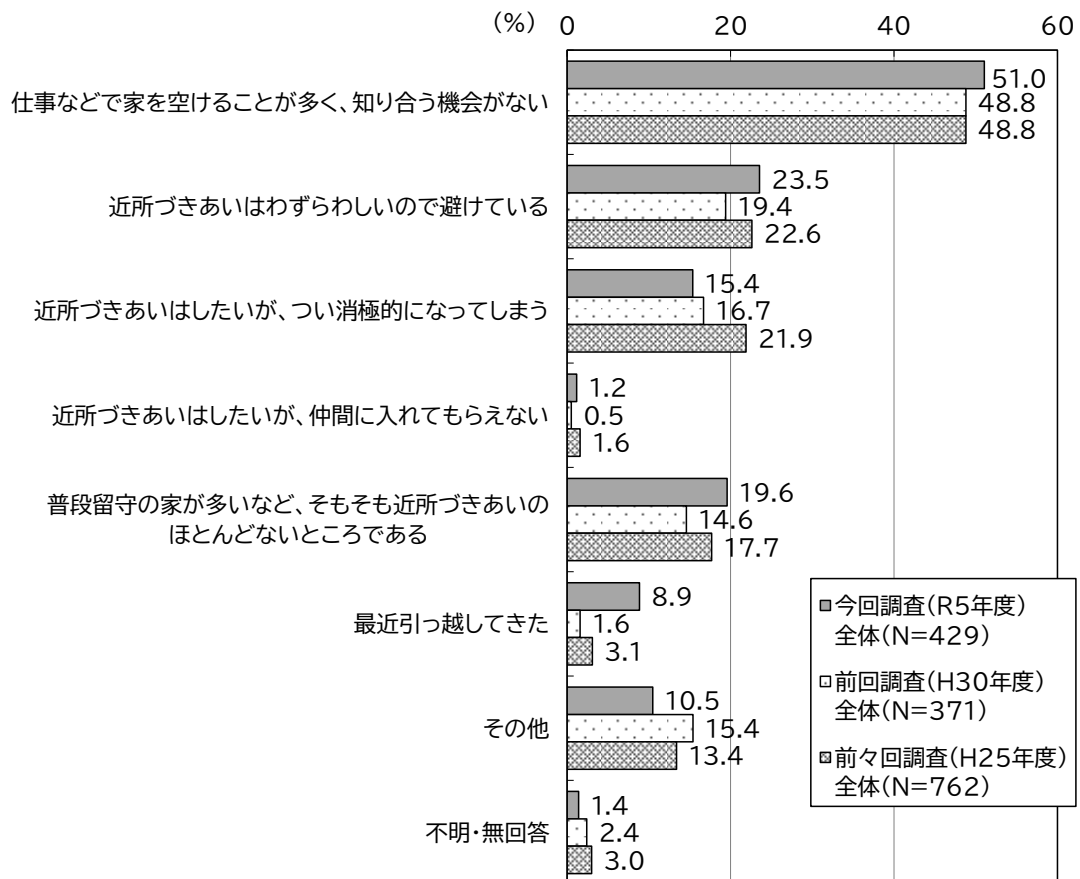
		(n)	近所の仲の良い 人とよく行き来 している	会えば親しく話 をする人がいる	あいさつ程度が ほとんどである	近所づきあいは ほとんどない
全体		729	6.7	34.0	45.8	13.0
年齢別	15～19 歳	34	2.9	29.4	44.1	23.5
	20～29 歳	37	0.0	16.2	51.4	32.4
	30～39 歳	87	4.6	23.0	52.9	19.5
	40～49 歳	127	5.5	29.9	52.0	12.6
	50～64 歳	200	5.5	30.5	50.5	13.5
	65～74 歳	145	6.9	45.5	40.0	6.2
	75 歳以上	95	16.8	48.4	29.5	4.2
性別	男性	287	4.5	26.5	53.3	15.7
	女性	432	8.3	39.1	40.7	11.1
小学校区別	第一小学校区	139	8.6	27.3	51.1	12.9
	第二小学校区	233	6.9	40.8	45.5	6.9
	第三小学校区	144	5.6	34.7	45.8	13.2
	第四小学校区	183	6.0	31.1	45.9	16.4
地区居住年数別	5 年未満	102	2.9	15.7	53.9	26.5
	5～9 年	76	5.3	35.5	44.7	14.5
	10～19 年	185	5.4	27.6	49.7	16.8
	20 年以上	360	8.6	42.5	41.9	6.7
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	6.1	37.8	48.8	7.3
	小中高生のいる世帯	168	6.5	33.3	49.4	10.7
	高齢者のいる世帯	249	8.0	42.2	40.6	8.8
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	6.5	44.1	39.8	7.5
世帯構成別	ひとり暮らし	72	9.7	25.0	44.4	19.4
	(ひとり暮らしの高齢者・要介護者・障害者)	27	11.1	33.3	37.0	14.8
	夫婦のみ	206	7.8	40.3	39.8	11.7
	2 世代（親と子）	396	5.8	32.8	48.7	12.4
	3 世代以上（親・子・孫）	26	7.7	50.0	34.6	7.7

【問 12 は、問 11 で「3 あいさつ程度がほとんどである」「4 近所づきあいはほとんどない」に○をつけた方におうかがいします。】

問 12 あまり近所づきあいをされていないのはなぜですか。(あてはまるすべてに○)

全体では「仕事などで家を空けることが多く、知り合う機会がない」が 51.0% で最も高く、次いで「近所づきあいはわずらわしいので避けている」が 23.5% となっています。

過去の調査と比較すると、「近所づきあいはしたいが、つい消極的になってしまう」の割合は減少傾向にあり、「最近引っ越してきた」の割合が前回調査より 7.3 ポイント増加しています。



◇近所づきあいをしていない理由「その他」の回答

内 容	
最近までフルタイムで働いていたので、まだつきあう機会がない	自然と仲良くなった人とは負担にならない範囲でおつきあいをする
学生のため、あまり出会わない	あいさつ後、話すことは特にない
おけいこごとで毎日高槻に出ている	あいさつ程度が良いくらい
仕事が忙しく時間がない	挨拶程度で充分
仕事で忙しいため	あいさつをしても返ってこないの、あまり関わらない方がいいのかなと思う
私は、仕事でほぼ家にいませんが、家族は、よくつきあいしているのでまかせっきりにしています	近所づきあいは災害時以外必要と思っていない

2. 調査結果

他の市の高校へ通っているため会う機会がない	地元の方が多く、なじめない。過去町内会の役を押し付けられた
家を空けることはないが知り合う機会がない	拘束されたくない。フリーな時間を過ごしたい
親が近所づきあいをしているから必要ない	自分から行くのは苦手だから
長年住んでいるが私自身は平日は働いているので	接するのがこわい
きっかけがない	友達と遊ぶことが多いので近所付き合いにあまり積極的では無い
マンション居住のため基本的に近所づきあいが無い	したいと思わないので
高齢者が多く、同じ年代の人を見かけない	他人を信用できない。トラブルに巻き込まれそうで怖い
子どもが大きくなってきたから、近くの人ことはわからない	特別に仲が良いわけではないので、話したことがまた別の人に伝わるのがしんどい
同年代の人が少ないから。年配の人が多から	必ずもれるから。仕事にいつてるのであまり話さないがしっかりした方なのでこわい
ゆっくり話をする時間、場所がない	年齢層が違うのであいさつ程度
あまり外に出歩かないので顔を合わせる時がない	コロナ禍が過ぎてもインフルがあったり老人特有の問題を起こさないためもある（誰かが来て物がなくなったなどよく行き来すると起こることなので）
あまり外に出ない	厄介な人がいる
近くに親族がいる	特に理由はない

年齢別にみると、15～74 歳では「仕事などで家を空けることが多く、知り合う機会がない」、75 歳以上では「近所づきあいはしたいが、つい消極的になってしまう」が最も高くなっています。

性別・小学校区別にみると、いずれの区分においても「仕事などで家を空けることが多く、知り合う機会がない」が最も高くなっています。

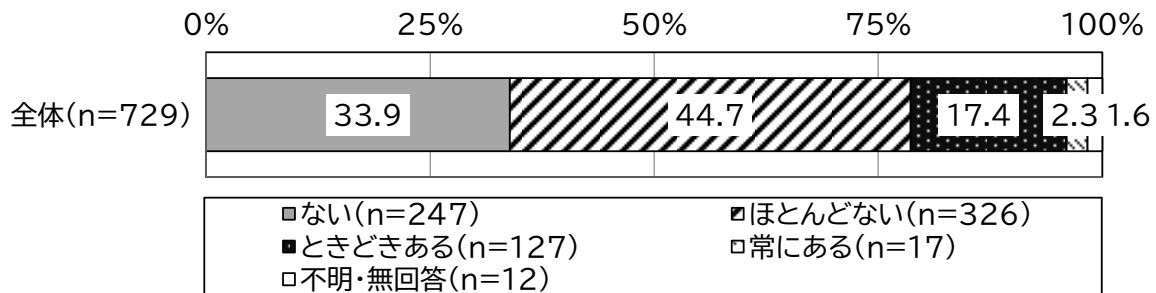
地区居住年数別・世帯区別にみると、いずれの区分においても「仕事などで家を空けることが多く、知り合う機会がない」が最も高くなっており、居住期間が5年未満、また乳幼児のいる世帯では「最近引っ越してきた」が2番目に高くなっています。

【クロス集計】問12：近所づきあいをしていない理由

		(n)	仕事などで家を空けることが多く、知り合う機会がない	近所づきあいはわずらわしいので避けている	近所づきあいはしたいが、つい消極的になってしまう	近所づきあいはしたいが、仲間に入れてもらえない	近所づきあいはしたいが、ほとんどないところである	普段留守の家が多いなど、そもそも近所づきあいのほど最近引っ越してきた	その他
全体		429	51.0	23.5	15.4	1.2	19.6	8.9	10.5
年齢別	15～19 歳	23	39.1	26.1	4.3	0.0	13.0	13.0	21.7
	20～29 歳	31	61.3	12.9	3.2	0.0	25.8	9.7	9.7
	30～39 歳	63	63.5	20.6	7.9	3.2	15.9	19.0	12.7
	40～49 歳	82	62.2	30.5	18.3	0.0	18.3	6.1	6.1
	50～64 歳	128	58.6	21.1	15.6	0.8	20.3	7.8	8.6
	65～74 歳	67	31.3	22.4	20.9	3.0	25.4	3.0	14.9
	75 歳以上	32	9.4	28.1	31.3	0.0	12.5	9.4	9.4
性別	男性	198	50.5	24.7	17.2	0.5	19.2	8.1	8.6
	女性	224	51.8	21.9	13.4	1.3	19.2	9.8	12.5
小学校区別	第一小学校区	89	51.7	21.3	16.9	3.4	27.0	7.9	9.0
	第二小学校区	122	51.6	20.5	19.7	0.8	16.4	7.4	12.3
	第三小学校区	85	48.2	25.9	15.3	1.2	22.4	5.9	10.6
	第四小学校区	114	52.6	24.6	10.5	0.0	15.8	10.5	11.4
地区居住年数別	5 年未満	82	58.5	18.3	11.0	2.4	14.6	40.2	3.7
	5～9 年	45	60.0	24.4	20.0	2.2	26.7	4.4	11.1
	10～19 年	123	52.0	26.0	17.1	0.0	22.0	2.4	11.4
	20 年以上	175	44.6	22.9	15.4	1.1	18.3	0.0	13.1
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	46	54.3	15.2	17.4	2.2	10.9	26.1	10.9
	小中高生のいる世帯	101	57.4	20.8	18.8	0.0	19.8	9.9	8.9
	高齢者のいる世帯	123	35.8	24.4	17.1	1.6	20.3	4.9	13.8
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	44	38.6	20.5	15.9	2.3	18.2	2.3	22.7
世帯構成別	ひとり暮らし	46	58.7	30.4	6.5	0.0	17.4	2.2	6.5
	(ひとり暮らしの高齢者・要介護者・障害者)	14	57.1	28.6	7.1	0.0	21.4	0.0	14.3
	夫婦のみ	106	48.1	22.6	17.9	1.9	20.8	11.3	8.5
	2 世代（親と子）	242	50.0	22.7	17.4	1.2	19.8	8.7	11.6
	3 世代以上（親・子・孫）	11	63.6	27.3	18.2	0.0	9.1	18.2	0.0

問 13 あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。(ひとつだけに○)

全体では「ほとんどない」が 44.7%で最も高く、次いで「ない」が 33.9%となっています。



孤立を感じることが「ない」又は「ほとんどない」と回答した方の合計割合【「孤立を感じない」系回答】をみると、年齢別では、「65 歳以上」の高齢者が 8 割以上と、他の年代（7 割台）より高くなっています。世帯構成別では、「ひとり暮らし」（70.8%）が、家族との同居世帯より低くなっています。また、日頃の活動等別にみると、「日頃から近所づきあいをしている」「地域活動やボランティアをしている」方は、それぞれ 8 割以上と、比較的高くなっています。

一方、孤立を感じることが「ときどきある」又は「常にある」と回答した方の合計割合【「孤立を感じる」系回答】をみると、年齢別では「50～64 歳」が 28.0%、地区居住年数別では「10～19 年」が 25.9%、世帯区分別では「介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯」が 24.8%、世帯構成別では「ひとり暮らし」が 25.0%と、それぞれの項目内で最も高くなっています。また、日頃の活動等別にみると、「日頃から近所づきあいをしている」「地域活動やボランティアをしている」方は、10%台と比較的低くなっています。

【クロス集計】 問 13：孤立していると感じるか

		(n)	ない	ほとんどない	※「孤立を感じない」系 回答 (合計)	ときどきある	常にある	※「孤立を感じる」系 回答 (合計)
全体		729	33.9	44.7	78.6	17.4	2.3	19.7
年齢別	15～19 歳	34	35.3	44.1	79.4	11.8	2.9	14.7
	20～29 歳	37	43.2	35.1	78.3	13.5	2.7	16.2
	30～39 歳	87	29.9	47.1	77.0	19.5	2.3	21.8
	40～49 歳	127	28.3	47.2	75.5	22.0	1.6	23.6
	50～64 歳	200	30.5	41.5	72.0	25.0	3.0	28.0
	65～74 歳	145	35.9	50.3	86.2	11.7	0.7	12.4
	75 歳以上	95	45.3	41.1	86.4	6.3	3.2	9.5

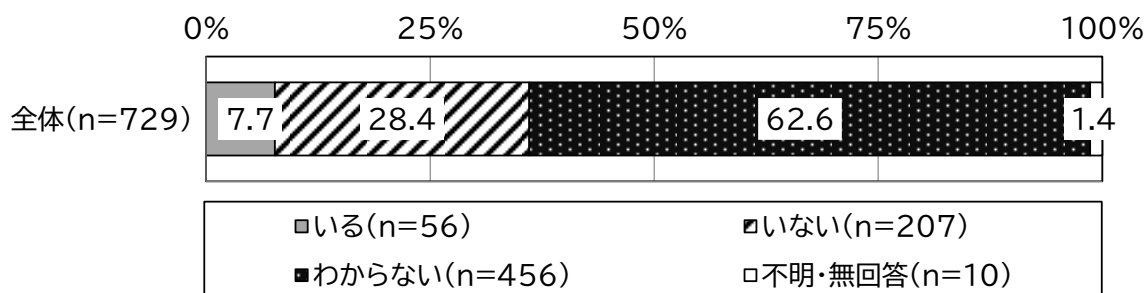
		(n)	※「孤立を感じない」系 回答（合計）			※「孤立を感じる」系 回答（合計）		
			ない	ほとんどない		ときどきある	常にある	
性別	男性	287	39.0	42.5	81.5	16.0	1.4	17.4
	女性	432	30.6	46.3	76.9	18.1	3.0	21.1
小学校区別	第一小学校区	139	33.1	43.9	77.0	18.0	4.3	22.3
	第二小学校区	233	32.2	46.4	78.6	18.5	1.7	20.2
	第三小学校区	144	37.5	43.8	81.3	15.3	2.1	17.4
	第四小学校区	183	33.9	43.7	77.6	18.0	2.2	20.2
地区居住年数別	5年未満	102	34.3	39.2	73.5	21.6	2.0	23.6
	5～9年	76	31.6	53.9	85.5	10.5	2.6	13.1
	10～19年	185	32.4	40.0	72.4	22.7	3.2	25.9
	20年以上	360	35.3	46.4	81.7	15.3	1.9	17.2
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	28.0	51.2	79.2	18.3	0.0	18.3
	小中高生のいる世帯	168	31.0	48.2	79.2	17.3	1.8	19.1
	高齢者のいる世帯	249	36.9	45.0	81.9	14.5	1.6	16.1
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	29.0	43.0	72.0	22.6	2.2	24.8
世帯構成別	ひとり暮らし	72	34.7	36.1	70.8	23.6	1.4	25.0
	（ひとり暮らしの高齢者・要介護者・障害者）	27	18.5	55.6	74.1	14.8	3.7	18.5
	夫婦のみ	206	37.4	43.7	81.1	16.0	2.4	18.4
	2世代（親と子）	396	31.3	46.5	77.8	17.7	2.8	20.5
	3世代以上（親・子・孫）	26	38.5	42.3	80.8	15.4	0.0	15.4
日頃の活動等別	日頃から近所づきあいをしている【※1】	297	38.7	45.8	84.5	12.5	0.3	12.8
	地域活動やボランティア活動をしている【※2】	95	34.7	45.3	80.0	16.8	1.1	17.9

※1＝問11（近所づきあい）で、「近所の仲の良い人とよく行き来している」または「会えば親しく話をする人がいる」と回答した方

※2＝問26（地域活動等）で、現在、地域活動やボランティア活動に「参加している」と回答した方

問 14 お住まいの地域に孤立している人や気がかりな人がいますか。(ひとつだけに○)

全体では「わからない」が 62.6%で最も高く、次いで「いない」が 28.4%、「いる」は 7.7%となっています。



年齢別にみると、いずれの区分においても「いない」「わからない」が高いものの、65 歳以上では「いる」が 1 割を超えて比較的高くなっています。

性別にみると、特筆すべき差はみられません。

小学校区別にみると、第一小学校区で「いる」が 1 割を超えて比較的高くなっています。

地区居住年数別にみると、20 年以上で「いる」が 1 割を超えて比較的高くなっています。

日頃の活動等別にみると、日頃から近所づきあいをしている方、地域活動やボランティア活動をしている方では、「いる」の割合が全体よりやや高くなっています。

【クロス集計】 問 14：地域に孤立している人や気がかりな人がいるか

		(n)	<u>い</u> る	<u>い</u> ない	わ か ら ない
全体		729	7.7	28.4	62.6
年 齢 別	15～19 歳	34	2.9	55.9	41.2
	20～29 歳	37	5.4	35.1	54.1
	30～39 歳	87	5.7	29.9	64.4
	40～49 歳	127	5.5	32.3	61.4
	50～64 歳	200	8.0	24.5	67.5
	65～74 歳	145	10.3	24.1	64.1
	75 歳以上	95	10.5	25.3	60.0
性 別	男性	287	7.0	28.9	63.4
	女性	432	8.3	28.5	61.3
小 学 校 区 別	第一小学校区	139	11.5	28.8	58.3
	第二小学校区	233	7.7	27.9	63.1
	第三小学校区	144	5.6	34.0	59.7
	第四小学校区	183	7.1	24.6	67.2
地 区 居 住 年 数 別	5 年未満	102	2.9	27.5	67.6
	5～9 年	76	6.6	32.9	60.5
	10～19 年	185	5.9	30.8	61.6
	20 年以上	360	10.3	26.7	61.9
日 頃 の 活 動 等 別	日頃から近所づきあいをしている【※1】	297	13.1	26.6	58.9
	地域活動やボランティア活動をしている【※2】	95	14.7	22.1	62.1

※1＝問 11（近所づきあい）で、「近所の仲の良い人とよく行き来している」または「会えば親しく話をする人がいる」と回答した方

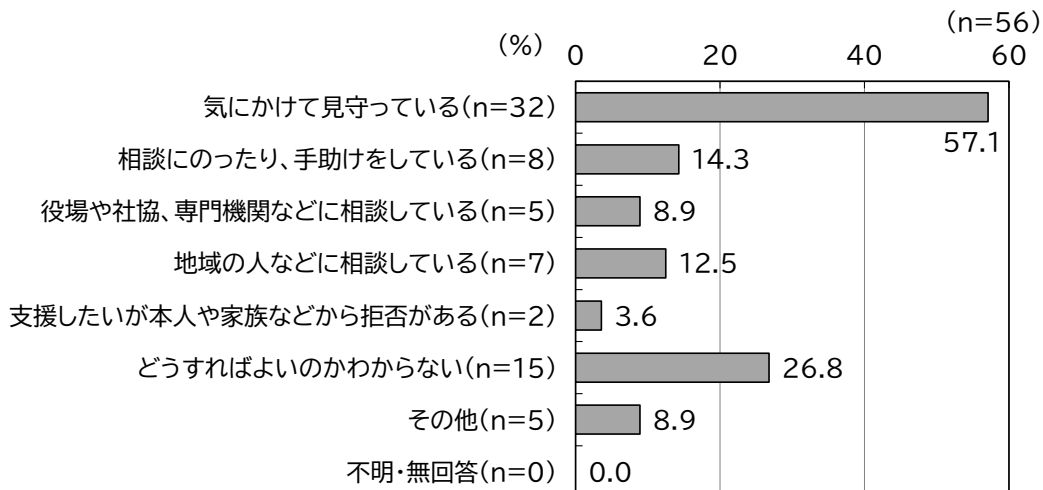
※2＝問 26（地域活動等）で、現在、地域活動やボランティア活動に「参加している」と回答した方

2. 調査結果

【問 15 は、問 14 で「1 いる」に○をつけた方におうかがいします。】

問 15 地域で孤立している人や気がかりな人に対して何かしていますか(しましたか)。
(あてはまるすべてに○)

「気にかけて見守っている」が 57.1%で最も高く、次いで「どうすればよいのかわからない」が 26.8%となっています。

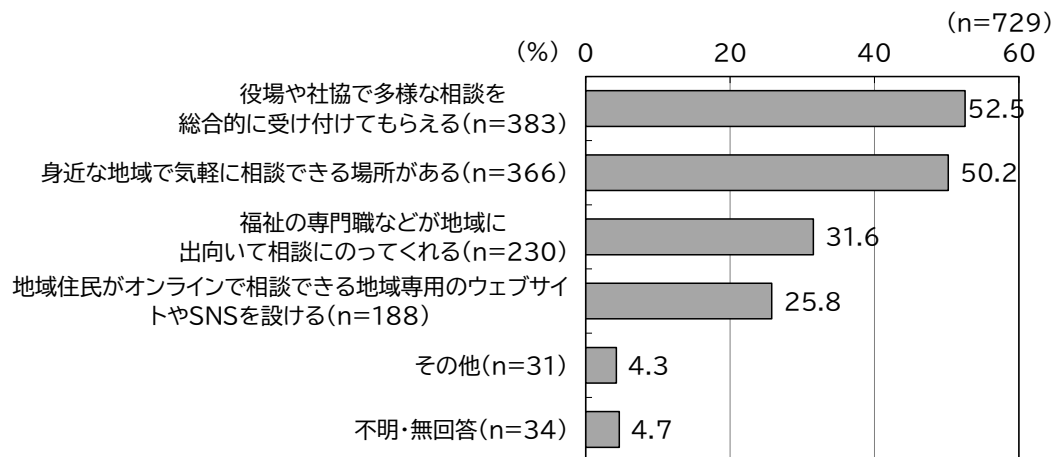


◇孤立している人や気がかりな人に対して、している(していた)こと「その他」の回答

内 容
自分で孤立を選んでいるようなのでこちらから声をかけることはない。ゴミ捨て場を利用するには自治会費を払わなければならないはずだが、自治会に入らず、でもゴミは捨てる、という人がある。それは町としてももう少し確認する必要があるのではないか
ひとり暮らしの方が元気かどうか風呂の電灯見たり、時々窓を見ている。頼られていないので。それでも心配になるので
犯罪や事件が起こらない程度に気にかけている

問 16 日頃の生活で不安や悩みがあるとき、地域で孤立している人や気がかりな人に気づいたとき、どのような仕組みがあると解決に向けて行動ができると思いますか。(あてはまるすべてに○)

全体では「役場や社協で多様な相談を総合的に受け付けてもらえる」が52.5%で最も高く、次いで「身近な地域で気軽に相談できる場所がある」が50.2%となっています。



◇地域で気がかりな人に気づいたとき、どんな仕組みがあるとよいか「その他」の回答

内 容
SOS が出せる環境が必要だと思う
電話相談の専用回線
「地域住民がオンラインで相談できる地域専用のウェブサイトやSNSを設ける」は、とても良いと感じた。相談までいなくても、ちょっとした情報の場になれば、ひとつの情報として知ることができる
気がかりな人について連絡するところがあり、その連絡をうけて聞きとりに行ってくれる
踏み込む勇気。動き出す気持。相談先の知識（どこに相談すれば）
民生委員の役割について広く知らせる
地域にしがらみがなく守秘義務のある人間が入るべき
それに応じたところに行き相談したいと思う
どんな相談があるのか、実例があると相談しやすいかもしれない
不安、悩みがある人は、まず相談できない人が多いと思う。周りが気づけないとダメ！そんな人が島本町にどれだけの人がいるのか？本当に親身になってくださる人がいるのか疑問です
そもそも不安で一杯な人や孤立している人は、上記のような所にはいかない。能動的には動かないことが多い
時と場合によるのでよくわからない
孤立に気がつかない
解決できるとは思わない
家族全員が挨拶がなく、話そうとしないためどうしようもない
考えたことが無い
特に行動する気はない
わからない

2. 調査結果

年齢別にみると、15～49 歳では「身近な地域で気軽に相談できる場所がある」、50 歳以上では「役場や社協で多様な相談を総合的に受け付けてもらえる」が最も高くなっています。また、15～19 歳では「地域住民がオンラインで相談できる地域専用のウェブサイトや SNS を設ける」が5割で2番目に高くなっています。

性別にみると、特筆すべき差はみられません。

小学校区別にみると、いずれの区分においても「役場や社協で多様な相談を総合的に受け付けてもらえる」「身近な地域で気軽に相談できる場所がある」が高くなっています。

地区居住年数別にみると、20 年以上では「役場や社協で多様な相談を総合的に受け付けてもらえる」、その他の区分では「身近な地域で気軽に相談できる場所がある」が高くなっています。

世帯区分別にみると、乳幼児のいる世帯、小中高生のいる世帯では「身近な地域で気軽に相談できる場所がある」、高齢者のいる世帯、介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯では「役場や社協で多様な相談を総合的に受け付けてもらえる」が高くなっています。

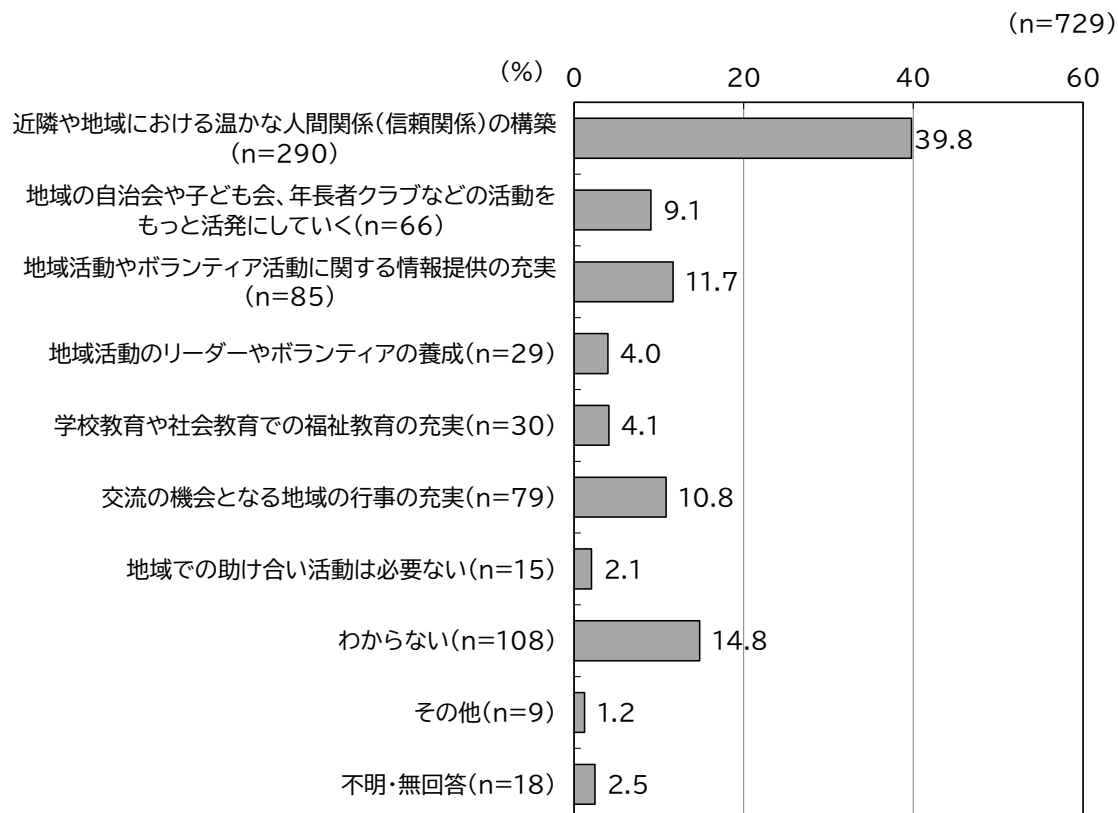
【クロス集計】問 16：地域で気がかりな人に気づいたとき、どんな仕組みがあるとよいか

		(n)	役場や社協で多様な相談を総合的に受け付けてもらえる	身近な地域で気軽に相談できる場所がある	福祉の専門職などが地域に向いて相談にのってくれる	地域住民がオンラインで相談できる地域専用のウェブサイトやSNSを設ける	その他
	全体	729	52.5	50.2	31.6	25.8	4.3
年齢別	15～19 歳	34	26.5	52.9	14.7	50.0	5.9
	20～29 歳	37	48.6	59.5	24.3	40.5	2.7
	30～39 歳	87	47.1	50.6	32.2	32.2	5.7
	40～49 歳	127	41.7	55.9	28.3	29.1	4.7
	50～64 歳	200	54.0	53.0	38.0	31.0	4.5
	65～74 歳	145	60.7	51.7	40.7	13.1	2.8
	75 歳以上	95	67.4	28.4	15.8	9.5	4.2
性別	男性	287	54.4	49.8	33.1	27.2	3.8
	女性	432	51.4	50.0	29.9	24.5	4.4
小学校区別	第一小学校区	139	50.4	43.2	32.4	24.5	2.9
	第二小学校区	233	52.8	53.2	30.9	30.9	5.2
	第三小学校区	144	58.3	47.9	30.6	22.2	2.1
	第四小学校区	183	50.8	53.6	32.8	24.6	4.9
地区居住年数別	5 年未満	102	47.1	49.0	33.3	33.3	6.9
	5～9 年	76	48.7	55.3	34.2	32.9	2.6
	10～19 年	185	48.6	52.4	34.6	29.7	3.8
	20 年以上	360	57.2	48.3	28.9	20.3	3.9
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	42.7	52.4	32.9	31.7	4.9
	小中高生のいる世帯	168	39.3	55.4	24.4	33.3	4.2
	高齢者のいる世帯	249	61.8	46.2	35.3	20.1	4.4
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	63.4	54.8	33.3	16.1	3.2

2. 調査結果

問 17 地域での助け合いを活発にするために、どのようなことが最も重要だと思いますか。(ひとつだけに○)

全体では「近隣や地域における温かな人間関係（信頼関係）の構築」が 39.8%で最も高く、次いで「わからない」が 14.8%となっています。



◇地域での助け合いを活発にするために最も重要なこと「その他」の回答

内 容
非常に難しい問題です。紙の上、話し合いだけでは…
いつまでも高齢者が幅を利かせないこと
お試し活動など短期の活動があればいいと思う
行政、もしくは有償で定期的な確認などをする。若い世代が減ってきてるのだからボランティアに頼ろうとばかり思わないほうがいい
実際に各戸を回り確認してもらって正しい状況が分かると思います
地域のバスの時刻など全くわからず利用出来てないので知らせる方法を！
毎日行くお店の人なら話しやすい、相談しやすい
両隣程度のおつき合いは必要
老人が憩える場所やコーナーふれあいセンターや町内各所に設けて互いのコミュニケーションを図るようにする
仕事が忙しく、子どももいないため地域の活動にほとんど参加していません。色々な要因で日々の生活に余裕がないため、自分が地域の活動に参加するというイメージが持てません
世代間交流できる居場所、茨木市の「おにクル」は秀逸だと思います

年齢別にみると、いずれの区分においても「近隣や地域における温かな人間関係（信頼関係）の構築」が最も高くなっています。また、15～19 歳、30～39 歳では「交流の機会となる地域の行事の充実」、20～29 歳、65～74 歳では「地域活動やボランティア活動に関する情報提供の充実」、75 歳以上では「地域の自治会や子ども会、年長者クラブなどの活動をもっと活発にしていこう」が2 番目に高くなっています。

性別・小学校区別・地区居住年数別・世帯区分別にみると、いずれの区分においても「近隣や地域における温かな人間関係（信頼関係）の構築」が最も高くなっています。

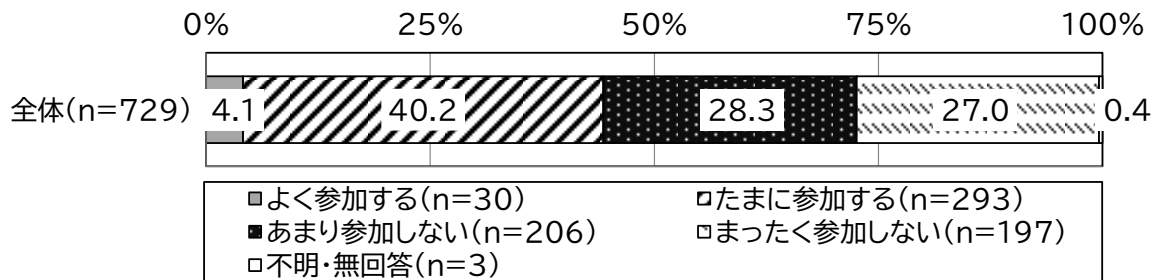
2. 調査結果

【クロス集計】 問 17：地域での助け合いを活発にするために最も重要なこと

		(n)	近隣や地域における温かな人間関係 (信頼関係)の構築	地域の自治会や子ども会、年長者クラブなどの活動をもっと活発にしてい	地域活動やボランティア活動に関する 情報提供の充実	地域活動のリーダーやボランティアの 養成	学校教育や社会教育での福祉教育の充 実	交流の機会となる地域の行事の充実	地域での助け合い活動は必要ない	わからない	その他
	全体	729	39.8	9.1	11.7	4.0	4.1	10.8	2.1	14.8	1.2
年齢別	15～19 歳	34	26.5	2.9	8.8	0.0	17.6	20.6	2.9	17.6	0.0
	20～29 歳	37	35.1	5.4	21.6	0.0	5.4	13.5	5.4	13.5	0.0
	30～39 歳	87	43.7	13.8	3.4	1.1	4.6	14.9	2.3	14.9	1.1
	40～49 歳	127	44.1	5.5	7.9	4.7	4.7	11.8	3.1	14.2	2.4
	50～64 歳	200	39.0	6.0	16.0	5.0	4.5	9.5	1.5	18.0	0.5
	65～74 歳	145	39.3	11.0	13.8	4.8	0.7	10.3	0.0	13.8	1.4
	75 歳以上	95	40.0	16.8	9.5	4.2	2.1	5.3	3.2	9.5	2.1
性別	男性	287	40.1	12.2	9.4	3.1	4.5	11.5	2.8	13.2	1.4
	女性	432	39.4	7.2	13.2	4.4	3.7	10.6	1.6	15.7	1.2
小学校区別	第一小学校区	139	46.0	6.5	6.5	6.5	1.4	8.6	2.9	15.1	1.4
	第二小学校区	233	40.8	8.6	12.9	3.0	4.7	11.6	2.6	12.0	1.7
	第三小学校区	144	34.7	8.3	19.4	2.8	4.9	10.4	2.1	16.0	0.7
	第四小学校区	183	39.3	10.9	8.2	4.4	5.5	10.9	1.1	16.4	1.1
地区居住年数別	5 年未満	102	32.4	10.8	10.8	2.9	3.9	15.7	1.0	18.6	1.0
	5～9 年	76	40.8	9.2	7.9	6.6	9.2	10.5	2.6	13.2	0.0
	10～19 年	185	38.9	8.1	13.0	3.2	5.4	11.4	3.2	13.5	1.6
	20 年以上	360	42.5	8.6	12.2	3.9	2.5	9.4	1.4	14.7	1.4
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	45.1	15.9	4.9	2.4	6.1	13.4	0.0	9.8	0.0
	小中高生のいる世帯	168	42.9	6.0	7.7	5.4	7.1	12.5	3.0	12.5	1.8
	高齢者のいる世帯	249	42.2	12.0	11.6	4.0	2.4	8.8	0.8	13.3	1.2
	要介護者・障害者のいる世帯	93	48.4	7.5	10.8	4.3	2.2	5.4	1.1	14.0	1.1

問 18 あなたは、地域での交流の場やイベントに参加することがありますか。(ひとつだけに○)

全体では「たまに参加する」が40.2%で最も高く、次いで「あまり参加しない」が28.3%となっています。



年齢別にみると、15～19歳では「あまり参加しない」、20～29歳では「まったく参加しない」、30歳以上では「たまに参加する」が最も高くなっています。

性別にみると、男性より女性の方が「たまに参加する」の割合がやや高くなっています。

小学校区別にみると、第二小学校区、第四小学校区では「たまに参加する」が4割を超えて比較的高くなっています。

地区居住年数別にみると、5年未満では「まったく参加しない」、その他の区分においては「たまに参加する」が最も高くなっていますが、特に5～9年で「たまに参加する」が6割弱と高くなっています。

世帯区分別にみると、いずれの区分においても「たまに参加する」が最も高くなっていますが、特に乳幼児のいる世帯で「たまに参加する」が6割弱と高くなっています。

世帯構成別にみると、ひとり暮らしでは「まったく参加しない」、ひとり暮らしの高齢者・要介護者・障害者では「たまに参加する」と同率で「あまり参加しない」が最も高くなっています。

2. 調査結果

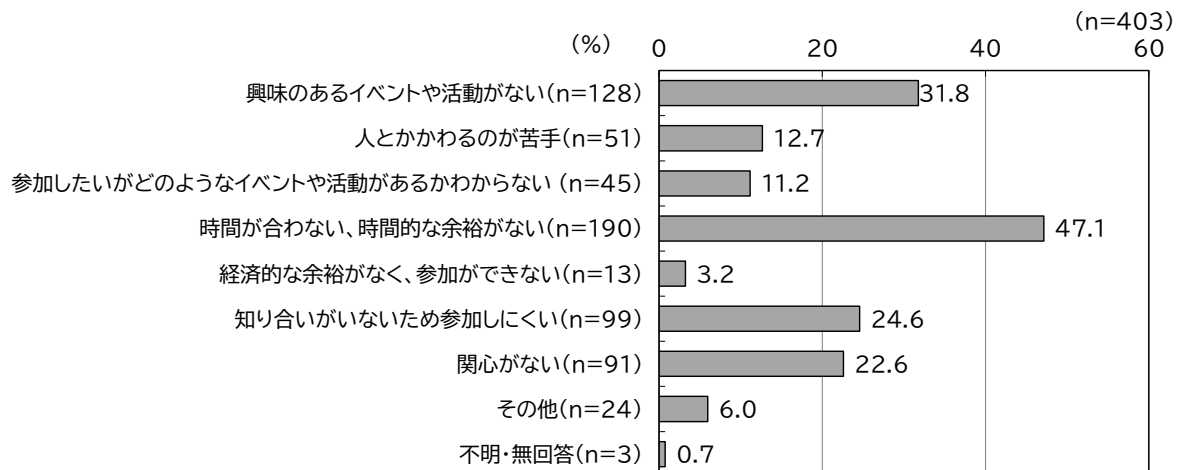
【クロス集計】 問 18：地域の交流の場やイベントに参加するか

		(n)	よく参加する	たまに参加する	あまり参加しない	まったく参加しない
全体		729	4.1	40.2	28.3	27.0
年齢別	15～19 歳	34	5.9	32.4	35.3	26.5
	20～29 歳	37	0.0	18.9	37.8	43.2
	30～39 歳	87	1.1	49.4	16.1	33.3
	40～49 歳	127	4.7	40.9	29.1	24.4
	50～64 歳	200	2.5	35.5	31.5	30.5
	65～74 歳	145	4.8	44.1	26.2	24.1
	75 歳以上	95	9.5	45.3	29.5	14.7
性別	男性	287	4.2	36.6	26.8	32.1
	女性	432	4.2	42.6	28.7	24.1
小学校区別	第一小学校区	139	2.9	34.5	30.2	31.7
	第二小学校区	233	4.7	43.3	30.9	20.2
	第三小学校区	144	4.9	37.5	28.5	29.2
	第四小学校区	183	2.7	43.7	24.6	29.0
地区居住年数別	5 年未満	102	3.9	30.4	26.5	38.2
	5～9 年	76	2.6	57.9	18.4	21.1
	10～19 年	185	3.2	37.8	32.4	26.5
	20 年以上	360	5.0	40.0	28.9	25.6
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	4.9	56.1	20.7	18.3
	小中高生のいる世帯	168	5.4	47.0	29.8	17.9
	高齢者のいる世帯	249	4.0	41.8	30.1	23.7
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	2.2	41.9	29.0	25.8
世帯構成別	ひとり暮らし	72	4.2	29.2	22.2	44.4
	(ひとり暮らしの高齢者・要介護者・障害者)	27	3.7	33.3	33.3	29.6
	夫婦のみ	206	4.4	40.3	31.1	23.3
	2 世代（親と子）	396	4.3	42.2	29.0	24.2
	3 世代以上（親・子・孫）	26	3.8	50.0	19.2	26.9

【問 19 は、問 18 で「3 あまり参加しない」「4 まったく参加しない」に○をつけた方におうかがいします。】

問 19 参加していない理由は何ですか。(あてはまるすべてに○)

全体では「時間が合わない、時間的な余裕がない」が 47.1%と最も高く、次いで「興味のあるイベントや活動がない」が 31.8%となっています。



◇地域の交流の場やイベントに参加しない理由「その他」の回答

内 容	
余り歩けないので移動手段が無い	仕事をしているため
高齢のため、足がよく動かないので	土・日・祝が仕事のため参加できない
歩行がむずかしいため	高校、大学生にとって面白くないし、行っても対象年齢から逸れている
病気	行事やイベントも縦割になっていて好きな人は参加するが横展開がないように思う
子どもが小さいため、参加しにくい	他の団体に参加しているので時間がない
親の介護の為、ずっと参加していなかったのが今になってという気持ち	その時の体調や気分
子どもが小さい時はいろいろ参加しました。今はいい。一人で行く方が楽しい。耳が片方きこえないので	例えば、同日に別の場所で類似したイベントがあり、そちらの方が規模が大きかったり、話題性があれば、行きたいと思うのは地域のイベントではなくなってしまう
交流の機会がない（自治会に入っていないため）	興味のあるものは寄る、気分でする
自治会や管理組合に輪番で当たっている期間のみ参加している	駐輪場がない。イベントがある時どこにとめたいのかわからない
自分の住まいのだけ参加している	プライベートを根掘り葉掘り聞いてくる知り合いに会うと面倒
引っ越してきて間もない	存在を知らなかった
家族が参加しているので自分はいいかと思ってしまう	地域でのイベントより友人との遊び等を優先するため

2. 調査結果

年齢別にみると、15～19 歳では「関心がない」、その他の年齢では「時間が合わない、時間的な余裕がない」が最も高くなっています。また、65～74 歳では「興味のあるイベントや活動がない」、「知り合いがいないため参加しにくい」についても同率で最も高くなっています。

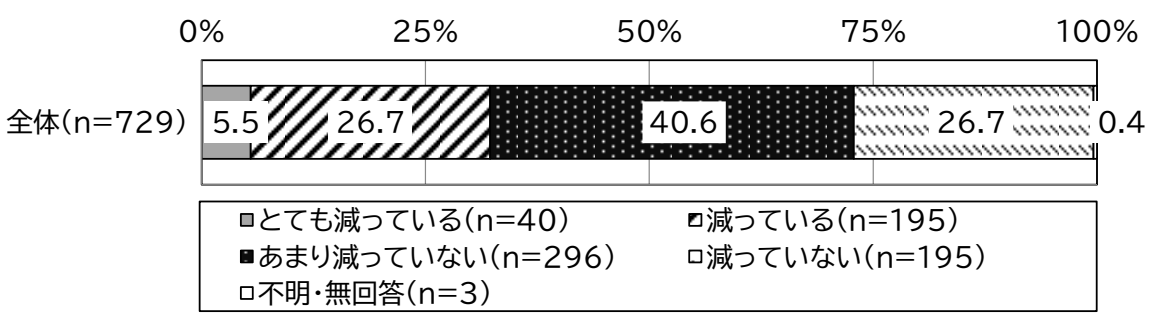
性別・小学校区別・地区居住年数別・世帯区分にみると、いずれの区分においても「時間が合わない、時間的な余裕がない」が最も高くなっています。

【クロス集計】問 19：地域の交流の場やイベントに参加しない理由

		(n)	興味のあるイベントや活動がない	人とかかわるのが苦手	参加したいがどのようなイベントや活動があるかわからない	時間が合わない、時間的な余裕がない	経済的な余裕がなく、参加ができない	知り合いがいないため参加しにくい	関心がない	その他
全体		403	31.8	12.7	11.2	47.1	3.2	24.6	22.6	6.0
年齢別	15～19 歳	21	28.6	19.0	14.3	28.6	0.0	23.8	33.3	0.0
	20～29 歳	30	33.3	6.7	10.0	50.0	0.0	26.7	33.3	10.0
	30～39 歳	43	37.2	14.0	7.0	51.2	4.7	16.3	25.6	9.3
	40～49 歳	68	35.3	16.2	4.4	61.8	4.4	22.1	19.1	4.4
	50～64 歳	124	35.5	9.7	14.5	56.5	4.8	25.8	19.4	3.2
	65～74 歳	73	28.8	11.0	12.3	28.8	1.4	28.8	24.7	5.5
	75 歳以上	42	16.7	16.7	11.9	28.6	2.4	23.8	16.7	14.3
性別	男性	169	36.1	12.4	10.7	40.2	2.4	27.2	27.2	5.3
	女性	228	28.1	12.3	11.8	51.8	3.5	22.8	19.3	6.6
小学校区別	第一小学校区	86	31.4	14.0	16.3	43.0	9.3	20.9	20.9	7.0
	第二小学校区	119	34.5	14.3	9.2	48.7	1.7	24.4	16.8	9.2
	第三小学校区	83	28.9	10.8	9.6	41.0	1.2	21.7	30.1	3.6
	第四小学校区	98	30.6	10.2	10.2	54.1	2.0	29.6	23.5	2.0
地区居住年数別	5 年未満	66	33.3	9.1	12.1	45.5	4.5	25.8	18.2	7.6
	5～9 年	30	43.3	10.0	6.7	60.0	3.3	20.0	26.7	0.0
	10～19 年	109	30.3	12.8	10.1	47.7	2.8	31.2	16.5	2.8
	20 年以上	196	30.1	13.8	12.2	44.9	3.1	20.9	26.0	8.2
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	32	40.6	9.4	12.5	50.0	0.0	9.4	9.4	3.1
	小中高生のいる世帯	80	36.3	12.5	8.8	53.8	2.5	26.3	17.5	1.3
	高齢者のいる世帯	134	27.6	15.7	11.2	36.6	1.5	28.4	26.1	9.0
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	51	25.5	21.6	13.7	45.1	7.8	23.5	17.6	13.7

問 20 コロナ禍以前（令和元（2019）年度）と比べて外出の回数が減っていますか。（ひとつだけに○）

全体では「あまり減っていない」が40.6%で最も高く、次いで「減っている」「減っていない」が同率で26.7%となっています。



年齢別にみると、15～19 歳、50～64 歳では「減っていない」、20～49 歳、65 歳以上では「あまり減っていない」が最も高くなっています。

性別にみると、男性では「減っていない」、女性では「あまり減っていない」が最も高くなっています。

小学校区別・世帯区分別にみると、いずれの区分においても「あまり減っていない」が最も高くなっていますが、介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯では「とても減っている」「減っている」が合わせて約4割と比較的高くなっています。

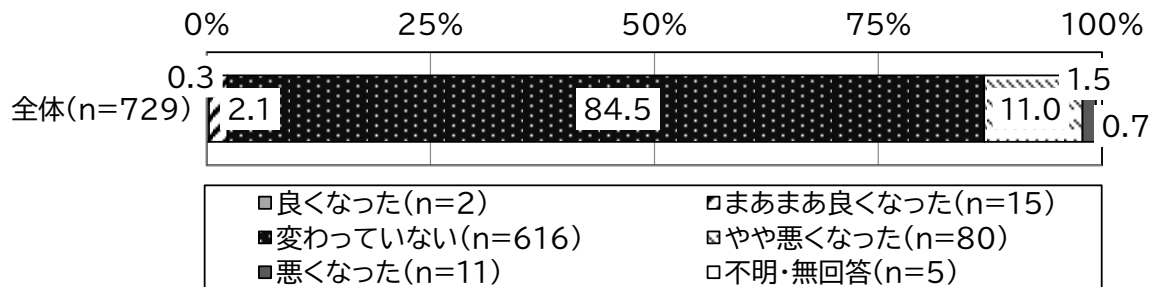
2. 調査結果

【クロス集計】 問 20：コロナ禍以前と比べて外出は減っているか

		(n)	とても減っている	減っている	あまり減っていない	減っていない
全体		729	5.5	26.7	40.6	26.7
年齢別	15～19 歳	34	5.9	20.6	35.3	38.2
	20～29 歳	37	5.4	24.3	48.6	21.6
	30～39 歳	87	2.3	21.8	50.6	25.3
	40～49 歳	127	2.4	25.2	41.7	29.1
	50～64 歳	200	7.5	28.5	31.5	32.5
	65～74 歳	145	3.4	26.2	43.4	26.9
	75 歳以上	95	11.6	33.7	42.1	11.6
性別	男性	287	3.8	23.3	35.9	36.6
	女性	432	6.7	28.2	44.0	20.6
小学校区別	第一小学校区	139	4.3	25.2	45.3	24.5
	第二小学校区	233	6.4	25.8	43.8	23.6
	第三小学校区	144	5.6	26.4	34.7	32.6
	第四小学校区	183	5.5	30.1	37.2	27.3
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	2.4	19.5	59.8	18.3
	小中高生のいる世帯	168	1.8	25.6	47.0	25.6
	高齢者のいる世帯	249	7.2	28.1	41.0	23.3
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	9.7	30.1	44.1	15.1

問 21 コロナ禍において、近所づきあいや地域のつながりに変化はありましたか。(ひとつだけに○)

全体では「変わっていない」が84.5%で最も高く、次いで「やや悪くなった」が11.0%となっています。



年齢別・性別・小学校区別・世帯区分別にみると、いずれの区分においても「変わっていない」が8割を超えて最も高くなっています。

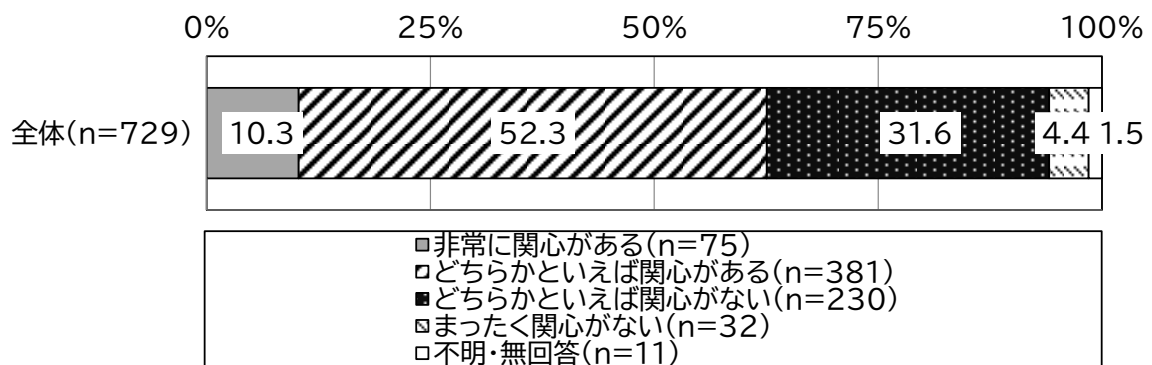
【クロス集計】問 21：コロナ禍において、近所づきあいや地域のつながりに変化はあったか

		(n)	良 く な っ た	ま あ ま あ 良 く な っ た	い 変 わ っ て い な い	た や や 悪 く な っ た	悪 く な っ た
全体		729	0.3	2.1	84.5	11.0	1.5
年 齢 別	15～19 歳	34	0.0	0.0	91.2	5.9	2.9
	20～29 歳	37	0.0	0.0	91.9	8.1	0.0
	30～39 歳	87	0.0	3.4	82.8	11.5	1.1
	40～49 歳	127	0.0	2.4	80.3	13.4	2.4
	50～64 歳	200	0.5	1.5	85.0	11.5	1.5
	65～74 歳	145	0.7	1.4	84.1	13.1	0.0
	75 歳以上	95	0.0	4.2	87.4	5.3	2.1
性 別	男性	287	0.3	1.7	87.8	8.0	1.0
	女性	432	0.2	2.3	82.2	13.0	1.9
小 学 校 区 別	第一小学校区	139	0.0	2.2	84.2	10.1	2.2
	第二小学校区	233	0.0	2.1	83.3	11.6	2.1
	第三小学校区	144	0.7	2.1	86.8	8.3	1.4
	第四小学校区	183	0.5	2.2	83.1	13.7	0.5
世 帯 区 分 別	乳幼児のいる世帯	82	0.0	4.9	80.5	11.0	2.4
	小中高生のいる世帯	168	0.0	1.8	82.7	13.1	2.4
	高齢者のいる世帯	249	0.0	2.8	83.1	12.4	0.8
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	1.1	2.2	80.6	10.8	3.2

4 まちの安心や幸せにつながる活動について

問 22 あなたは、福祉に対して関心がありますか。(ひとつだけに○)

全体では「どちらかといえば関心がある」が 52.3%で最も高く、次いで「どちらかといえば関心がない」が 31.6%となっています。



福祉に対して「非常に興味がある」又は「どちらかといえば関心がある」と回答した方の合計割合【「福祉に関心あり」系回答】をみると、年齢別では、「30～39 歳」が7割以上で最も高く、「40 歳以上」も6割以上と比較的高くなっています。一方、「15～29 歳」は4割台と低くなっています。世帯区分別では、「乳幼児のいる世帯」が8割弱と最も高くなっています。

一方、福祉に対して「どちらかといえば関心がない」又は「まったく関心がない」と回答した方の合計割合【「福祉に関心なし」系回答】をみると、年齢別では、「15～29 歳」の半数以上が福祉に関心がなく、他の年代（2～3割）と比べてかなり関心のない割合が高くなっています。

【クロス集計】問 22：福祉に関心があるか

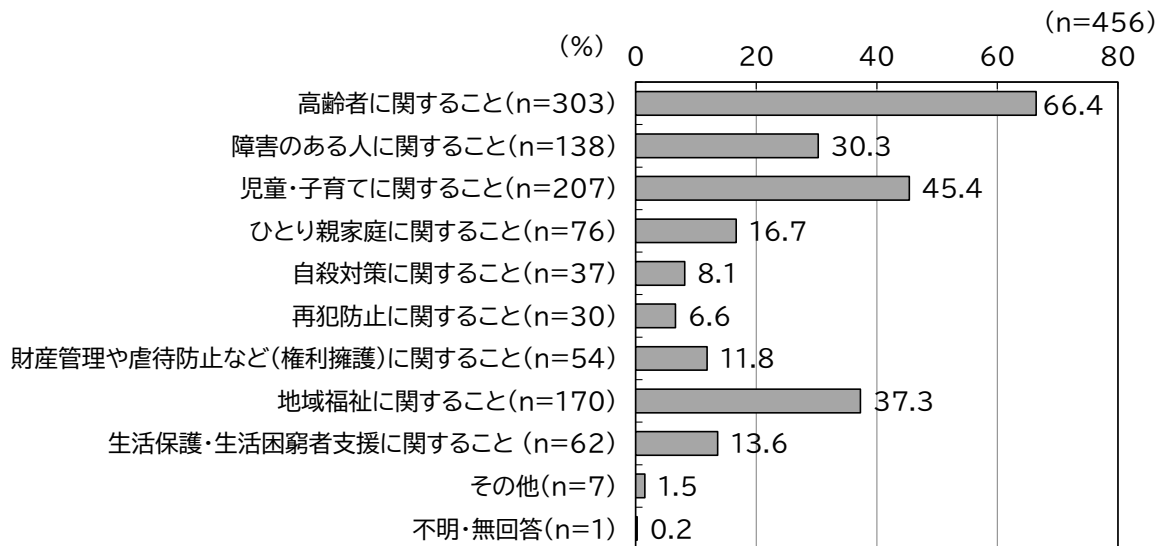
		(n)	非常に 関心がある	どちらか といえば関心 がある	※「福祉に関心あり」系 回答 (合計)	どちらか といえば関心 がない	まったく 関心がない	※「福祉に関心なし」系 回答 (合計)
全体		729	10.3	52.3	62.6	31.6	4.4	36.0
年齢別	15～19 歳	34	11.8	32.4	44.2	38.2	17.6	55.8
	20～29 歳	37	10.8	35.1	45.9	45.9	5.4	51.3
	30～39 歳	87	16.1	56.3	72.4	21.8	5.7	27.5
	40～49 歳	127	7.1	54.3	61.4	32.3	5.5	37.8
	50～64 歳	200	10.5	54.0	64.5	32.0	3.0	35.0
	65～74 歳	145	12.4	51.7	64.1	31.0	3.4	34.4
	75 歳以上	95	5.3	56.8	62.1	31.6	1.1	32.7
性別	男性	287	11.5	47.7	59.2	33.8	5.6	39.4
	女性	432	9.5	55.1	64.6	30.1	3.7	33.8
小学校区別	第一小学校区	139	11.5	47.5	59.0	33.8	4.3	38.1
	第二小学校区	233	13.3	55.4	68.7	27.0	2.6	29.6
	第三小学校区	144	7.6	48.6	56.2	38.2	4.9	43.1
	第四小学校区	183	8.7	54.1	62.8	29.5	6.6	36.1
地区居住年数別	5 年未満	102	12.7	52.9	65.6	27.5	5.9	33.4
	5～9 年	76	9.2	51.3	60.5	35.5	3.9	39.4
	10～19 年	185	11.9	50.3	62.2	30.8	6.5	37.3
	20 年以上	360	9.2	53.1	62.3	32.2	3.1	35.3
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	15.9	63.4	79.3	17.1	3.7	20.8
	小中高生のいる世帯	168	11.9	50.6	62.5	32.7	4.8	37.5
	高齢者のいる世帯	249	10.4	54.6	65.0	30.5	3.2	33.7
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	15.1	54.8	69.9	21.5	3.2	24.7

2. 調査結果

【問 23 は、問 22 で「1 非常に興味がある」「2 どちらかといえば興味がある」に○をつけた方におうかがいします。】

問 23 あなたは、どのような分野に関心がありますか。(あてはまるすべてに○)

全体では「高齢者に関すること」が 66.4%で最も高く、次いで「児童・子育てに関すること」が 45.4%となっています。



◇福祉に関心がある分野「その他」の回答

内 容
外国人労働者
関心はあるがわからない
町づくり
医療
現在の福祉がカバーしている上記以外の、項目から外れている部分

年齢別にみると、15～19 歳、50 歳以上では「高齢者に関すること」、20～49 歳では「児童・子育てに関すること」が最も高くなっています。また、50 歳以上では「地域福祉に関すること」が 2 番目に高く、4 割を超えています。

性別・小学校区別にみると、いずれの区分においても「高齢者に関すること」が最も高くなっています。

地区居住年数別にみると、10 年未満では「児童・子育てに関すること」、10 年以上では「高齢者に関すること」が最も高くなっています。

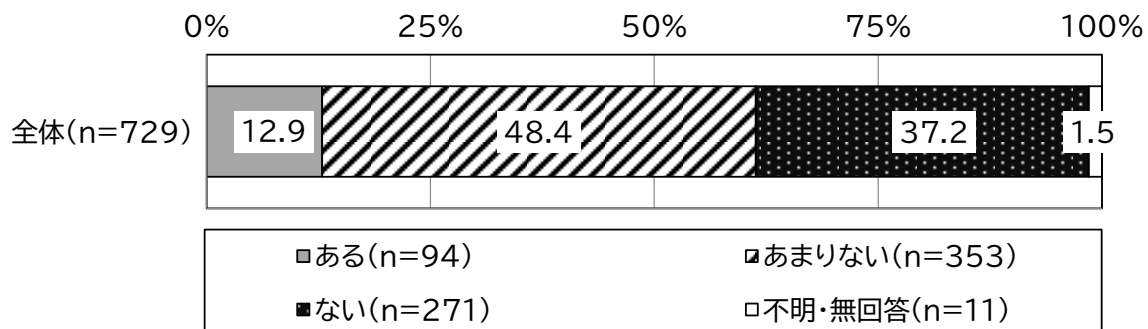
世帯区分別にみると、乳幼児のいる世帯、小中学生のいる世帯では「児童・子育てに関すること」、高齢者のいる世帯、介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯では「高齢者に関すること」が最も高くなっています。

【クロス集計】問 23: 福祉に関心がある分野 (問 22 で「非常に関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と回答した方)

		(n)	高齢者に関すること	障害のある人に関すること	児童・子育てに関すること	ひとり親家庭に関すること	自殺対策に関すること	再犯防止に関すること	財産管理や虐待防止など（権利擁護）に関すること	地域福祉に関すること	生活保護・生活困窮者支援に関すること	その他
全体		456	66.4	30.3	45.4	16.7	8.1	6.6	11.8	37.3	13.6	1.5
年齢別	15～19 歳	15	60.0	20.0	53.3	6.7	13.3	6.7	13.3	26.7	33.3	6.7
	20～29 歳	17	58.8	29.4	82.4	29.4	17.6	11.8	5.9	17.6	5.9	0.0
	30～39 歳	63	34.9	33.3	84.1	15.9	7.9	9.5	19.0	23.8	7.9	0.0
	40～49 歳	78	48.7	29.5	69.2	10.3	10.3	6.4	11.5	33.3	15.4	2.6
	50～64 歳	129	75.2	32.6	34.9	20.9	7.8	8.5	14.7	40.3	12.4	1.6
	65～74 歳	93	77.4	31.2	24.7	16.1	5.4	4.3	8.6	55.9	12.9	2.2
	75 歳以上	59	91.5	22.0	15.3	15.3	5.1	1.7	5.1	28.8	16.9	0.0
性別	男性	170	70.0	28.2	39.4	16.5	10.0	7.6	6.5	32.9	17.1	1.2
	女性	279	63.8	30.8	49.5	16.5	6.5	5.7	15.4	39.8	11.1	1.8
小学校区別	第一小学校区	82	63.4	28.0	50.0	18.3	9.8	8.5	13.4	40.2	17.1	0.0
	第二小学校区	160	70.0	29.4	46.9	16.9	10.6	6.3	13.1	36.3	10.6	0.6
	第三小学校区	81	72.8	29.6	43.2	16.0	6.2	6.2	11.1	38.3	13.6	1.2
	第四小学校区	115	58.3	35.7	45.2	15.7	5.2	7.0	11.3	38.3	13.9	4.3
地区居住年数別	5 年未満	67	38.8	22.4	62.7	16.4	4.5	4.5	17.9	29.9	10.4	3.0
	5～9 年	46	47.8	39.1	76.1	13.0	17.4	10.9	10.9	32.6	15.2	0.0
	10～19 年	115	67.8	28.7	55.7	15.7	9.6	10.4	8.7	37.4	16.5	1.7
	20 年以上	224	77.7	30.8	28.6	17.4	5.8	4.0	11.6	39.7	12.1	1.3
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	65	30.8	27.7	93.8	13.8	7.7	9.2	18.5	24.6	9.2	0.0
	小中高生のいる世帯	105	57.1	34.3	73.3	15.2	9.5	8.6	15.2	34.3	13.3	1.0
	高齢者のいる世帯	162	80.9	29.0	26.5	17.3	6.8	4.9	8.6	42.0	13.6	1.9
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	65	70.8	52.3	24.6	12.3	7.7	1.5	9.2	36.9	16.9	0.0

問 24 あなたは、日頃、福祉について学ぶ機会がありますか。(ひとつだけに○)

全体では「あまりない」が 48.4%で最も高く、次いで「ない」が 37.2%となっています。



年齢別にみると、30～49 歳では「ない」、その他の年齢では「あまりない」が最も高くなっています。また、15～29 歳では「ある」が2割を超えて比較的高くなっています。

性別にみると、ともに「ない」が最も高くなっています。

小学校区別にみると、第三小学校では「ない」が4割を超えて最も高く、その他の小学校区では「あまりない」が最も高くなっています。

地区居住年数別にみると、いずれの区分においても「あまりない」が最も高くなっています。

世帯区分別にみると、いずれの区分においても「あまりない」が最も高くなっていますが、乳幼児のいる世帯では、「ある」が1割を下回り、比較的低くなっています。

【クロス集計】問 24：日頃、福祉について学ぶ機会があるか

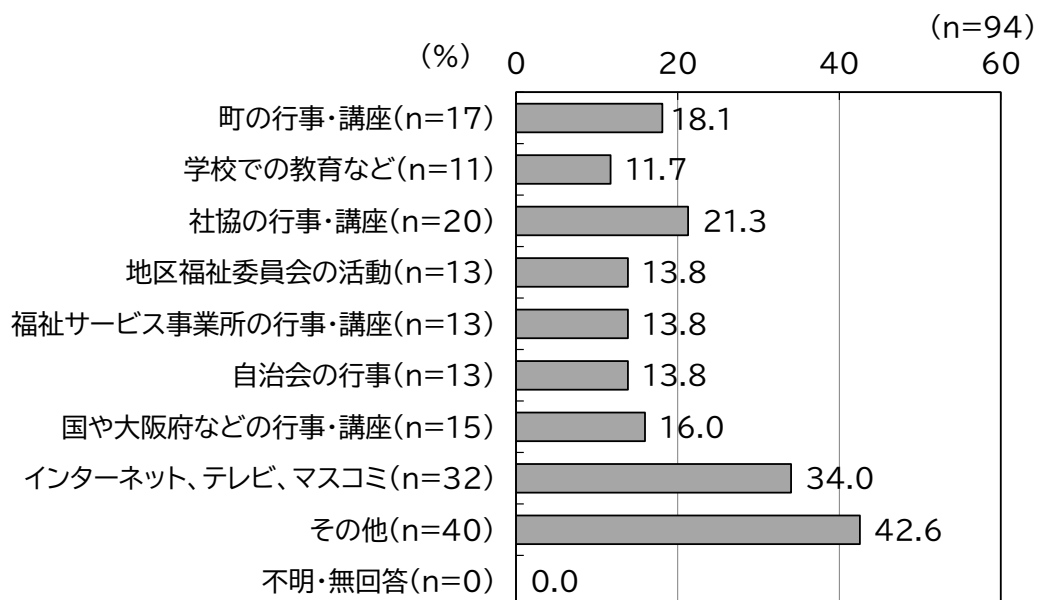
		(n)	ある	あまりない	ない
全体		729	12.9	48.4	37.2
年齢別	15～19 歳	34	23.5	44.1	29.4
	20～29 歳	37	21.6	45.9	29.7
	30～39 歳	87	8.0	37.9	52.9
	40～49 歳	127	14.2	40.9	44.1
	50～64 歳	200	12.5	53.5	33.5
	65～74 歳	145	10.3	53.1	34.5
	75 歳以上	95	12.6	53.7	30.5
性別	男性	287	12.2	45.6	39.4
	女性	432	13.2	50.7	35.4
小学校区別	第一小学校区	139	12.9	48.9	36.0
	第二小学校区	233	15.0	49.4	34.3
	第三小学校区	144	15.3	41.7	42.4
	第四小学校区	183	7.7	54.6	35.5
地区居住年数別	5 年未満	102	9.8	44.1	43.1
	5～9 年	76	6.6	47.4	44.7
	10～19 年	185	13.5	47.0	38.9
	20 年以上	360	14.4	51.1	32.8
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	8.5	52.4	37.8
	小中高生のいる世帯	168	14.3	47.6	36.9
	高齢者のいる世帯	249	13.7	49.4	36.1
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	11.8	55.9	30.1

2. 調査結果

【問 25 は、問 24 で「1 ある」に○をつけた方におうかがいします。】

問 25 それはどのような機会ですか。(あてはまるすべてに○)

全体では「その他」を除くと「インターネット、テレビ、マスコミ」が 34.0%で最も高く、次いで「社協の行事・講座」が 21.3%となっています。



◇福祉について学ぶ機会「その他」の回答

内 容	
自分が医療機関で仕事しているので	会社の講座
職場で、関連する仕事のため	仕事
仕事が介護の仕事をしているため	職場
職業が福祉関係だから	父の仕事について行ったりする(福祉系)
福祉の仕事をしています	妻の仕事の話を聞いて
福祉系の仕事をしているので研修等で学んでいる	母親のケアマネに教えてもらう
書籍、業務上学ぶ機会がある	学校で、福祉・保育専門コースに入っているから、そこで学べる
福祉事業所に勤務	大学・アルバイト
地方公務員なので職場で	ツイッター
他市町村で福祉業務に関わっているため	書籍など
日常業務	まんが
医療従事者であり医療機関に勤務しているから	広報、福祉だより
職場及び研修	島本の地域紙(ポストに入っているやつ)
会社の研修	出身自治体の福祉関係団体のイベントなど

年齢別にみると、15～19 歳では「学校での教育など」、65～74 歳では「社協の行事・講座」、75 歳以上では「町の行事・講座」が最も高くなっています。

性別にみると、男性では「インターネット、テレビ、マスコミ」が最も高くなっています。

小学校区別にみると、第四小学校区では「インターネット、テレビ、マスコミ」が最も高くなっています。

地区居住年数別・世帯区別にみると、以下のとおりとなっています。地区居住年数が 20 年以上の方や、高齢者のいる世帯では「社協の行事・講座」が比較的高いなどの特徴がみられます。

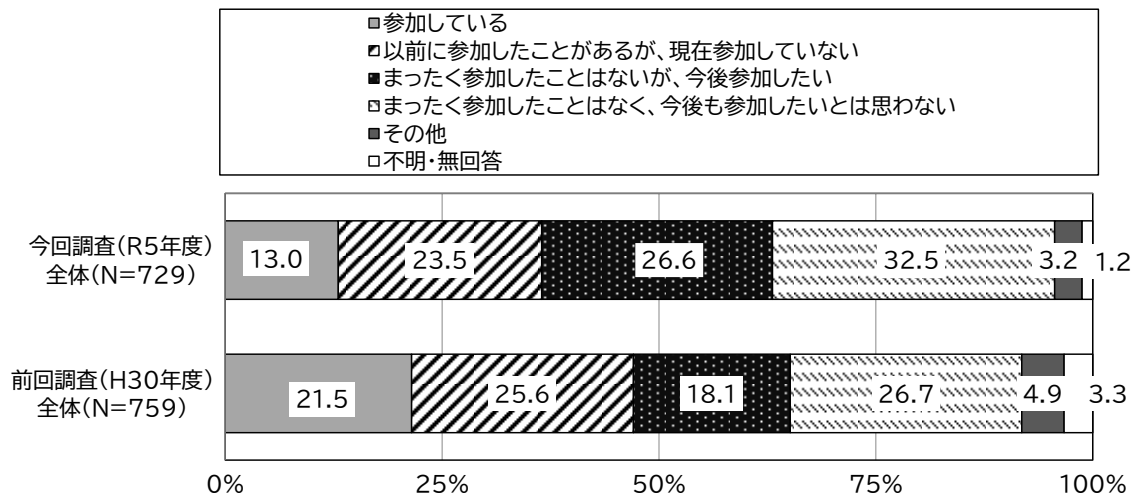
【クロス集計】問 25：福祉について学ぶ機会（問 24 で学ぶ機会が「ある」と答えた方）

	(n)	町の行事・講座	学校での教育など	社協の行事・講座	地区福祉委員会の活動	福祉サービス事業所の行事・講座	自治会の行事	国や大阪府などの行事・講座	インターネット、テレビ、マスコミ	その他
全体	94	18.1	11.7	21.3	13.8	13.8	13.8	16.0	34.0	42.6
年齢別	15～19 歳	8	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	20～29 歳	8	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5	75.0
	30～39 歳	7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6	71.4
	40～49 歳	18	5.6	0.0	11.1	0.0	5.6	11.1	33.3	72.2
	50～64 歳	25	16.0	4.0	16.0	8.0	16.0	28.0	48.0	56.0
	65～74 歳	15	20.0	6.7	53.3	26.7	20.0	33.3	33.3	0.0
	75 歳以上	12	66.7	0.0	50.0	58.3	41.7	50.0	16.7	33.3
性別	男性	35	22.9	14.3	22.9	11.4	20.0	11.4	17.1	48.6
	女性	57	15.8	10.5	21.1	15.8	10.5	15.8	14.0	26.3
小学校区別	第一小学校区	18	11.1	5.6	11.1	16.7	5.6	11.1	5.6	38.9
	第二小学校区	35	25.7	11.4	28.6	14.3	14.3	20.0	22.9	31.4
	第三小学校区	22	18.2	9.1	18.2	18.2	13.6	13.6	4.5	27.3
	第四小学校区	14	7.1	21.4	21.4	7.1	28.6	7.1	28.6	50.0
地区居住年数別	5 年未満	10	0.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	40.0	40.0
	5～9 年	5	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	60.0
	10～19 年	25	12.0	32.0	16.0	8.0	12.0	8.0	8.0	24.0
	20 年以上	52	25.0	3.8	30.8	21.2	17.3	21.2	13.5	36.5
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	42.9
	小中高生のいる世帯	24	0.0	33.3	0.0	0.0	8.3	0.0	16.7	25.0
	高齢者のいる世帯	34	26.5	5.9	41.2	20.6	20.6	20.6	14.7	41.2
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	11	9.1	9.1	27.3	18.2	9.1	9.1	27.3	63.6

問 26 あなたは現在、地域活動やボランティア活動に参加していますか。(ひとつだけに○)

全体では「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」が 32.5%で最も高く、次いで「まったく参加したことはないが、今後参加したい」が 26.6%となっています。

前回調査と比較すると、「参加している」の割合は 8.5 ポイント減少しています。一方、「まったく参加したことはないが、今後参加したい」の割合は 8.5 ポイント増加しています。



年齢別にみると、15～19 歳、75 歳以上では「以前に参加したことがあるが、現在参加していない」、20～49 歳、65～74 歳では「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」、50～64 歳では「まったく参加したことはないが、今後参加したい」が最も高くなっています。

性別にみると、男女ともに「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」が最も高くなっています。

小学校区別にみると、第二小学校区では「以前に参加したことがあるが、現在参加していない」、その他の小学校区では「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」が最も高くなっています。

地区居住年数別にみると、10～19 年では「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」と同率で「以前に参加したことがあるが、現在参加していない」が最も高くなっています。

世帯区分別にみると、乳幼児のいる世帯では「まったく参加したことはないが、今後参加したい」が約 4 割と比較的高くなっています。

「まったく参加したことはないが、今後参加したい」と回答した方（今後の参加意欲がある方）は、年齢別では「40～64 歳」、居住年数別では「5 年未満」、世帯区分別では「乳幼児～小中高生のいる世帯」において、それぞれ 3 割以上と比較的高くなっています。

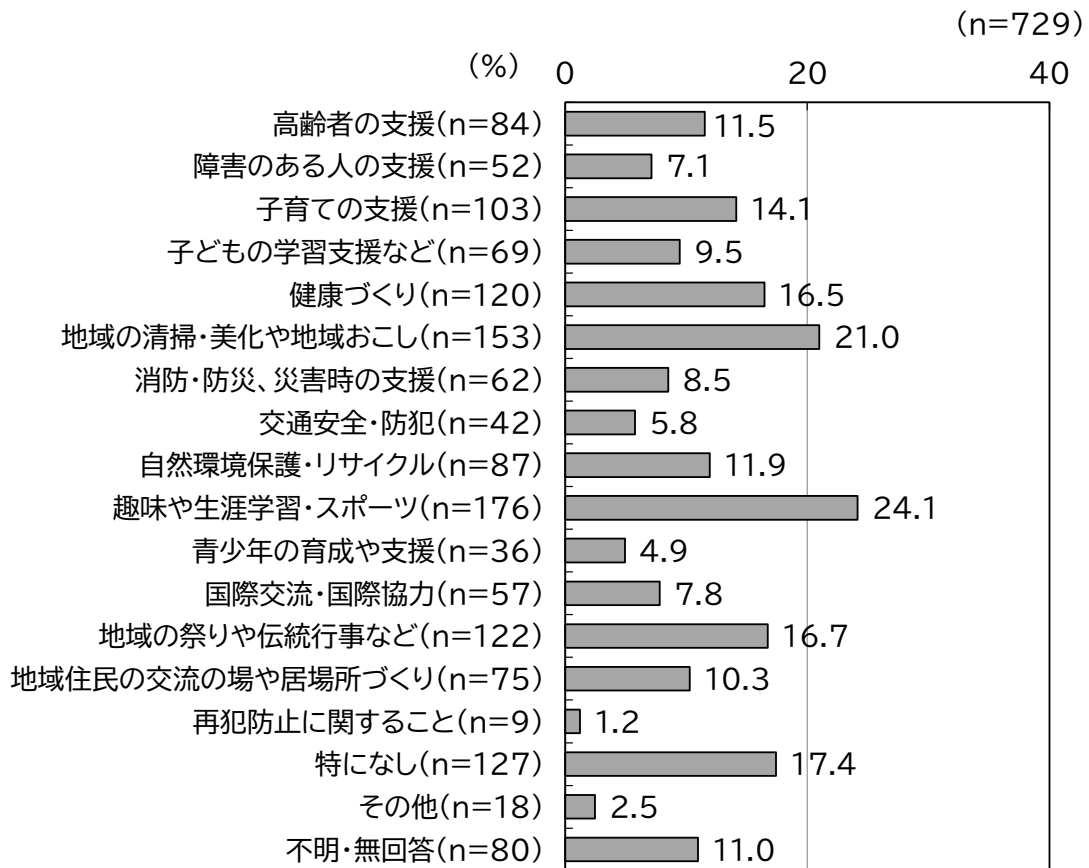
【クロス集計】問 26：現在、地域活動やボランティア活動に参加しているか

		(n)	参加している	以前に参加したことがあるが、現在参加していない	まったく参加したことはないが、今後参加したい	まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない	その他
全体		729	13.0	23.5	26.6	32.5	3.2
年齢別	15～19 歳	34	5.9	44.1	17.6	32.4	0.0
	20～29 歳	37	2.7	24.3	24.3	48.6	0.0
	30～39 歳	87	9.2	9.2	25.3	54.0	2.3
	40～49 歳	127	11.0	16.5	30.7	40.2	1.6
	50～64 歳	200	10.5	28.5	34.0	21.0	6.0
	65～74 歳	145	18.6	22.1	26.2	27.6	3.4
	75 歳以上	95	22.1	30.5	11.6	27.4	2.1
性別	男性	287	12.2	21.3	27.2	36.2	2.1
	女性	432	13.4	24.8	26.6	30.1	3.7
小学校区別	第一小学校区	139	12.2	20.9	28.8	36.7	1.4
	第二小学校区	233	16.7	30.5	22.7	25.8	2.6
	第三小学校区	144	11.8	23.6	27.8	29.2	5.6
	第四小学校区	183	10.9	18.0	29.0	37.7	3.3
地区居住年数別	5 年未満	102	6.9	5.9	33.3	49.0	4.9
	5～9 年	76	6.6	21.1	26.3	44.7	1.3
	10～19 年	185	13.0	28.1	26.5	28.1	4.3
	20 年以上	360	15.8	26.9	24.7	27.5	2.5
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	8.5	8.5	39.0	40.2	3.7
	小中高生のいる世帯	168	10.1	31.5	30.4	25.6	1.8
	高齢者のいる世帯	249	17.3	24.9	24.5	29.3	2.0
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	10.8	30.1	24.7	30.1	1.1

2. 調査結果

問 27 あなたが参加している、もしくは参加していた地域活動の分野をお答えください。参加していない方は、今後参加したいと思う地域活動の分野をお答えください。(あてはまるすべてに○)

全体では「趣味や生涯学習・スポーツ」が24.1%で最も高く、次いで「地域の清掃・美化や地域おこし」が21.0%となっています。



◇参加している・していた、今後参加したい地域活動の分野「その他」の回答

内 容	
自治会活動（４）	会社での情報サイトでの参加（在宅・出かける）
子ども会	外国人介護士の相談等
管理組合	元旦登山のサポート。実家の自治体で
ＰＴＡ活動	自死遺族支援
安全ボランティア	地域の歴史を調べ、継承していきたい
街づくり・政治について	島本町公式マスコットキャラクター「みづまろくん」のサポーターとして活動の機会を増やし、住民交流や町の広報に役立つこと

現在参加している・過去に参加していた地域活動

【クロス集計】問 27：参加している・過去に参加していた地域活動の分野①（地域活動に「参加している」または「以前に参加していたが現在は参加していない」と答えた方）

		(n)	高齢者の支援（見守り・配食など）	障害のある人の支援（介助・点訳・手話など）	子育ての支援（見守り・交流の場など）	子どもの学習支援など	健康づくり	地域の清掃・美化や地域おこし	消防・防災、災害時の支援	交通安全・防犯	自然環境保護・リサイクル
全体		266	15.8	8.3	13.9	7.1	12.8	36.1	10.2	4.5	10.9
年齢別	15～19 歳	17	5.9	5.9	5.9	0.0	0.0	58.8	0.0	5.9	29.4
	20～29 歳	10	0.0	10.0	0.0	20.0	0.0	50.0	10.0	0.0	20.0
	30～39 歳	16	6.3	0.0	31.3	12.5	0.0	43.8	12.5	6.3	12.5
	40～49 歳	35	17.1	8.6	31.4	8.6	5.7	34.3	11.4	14.3	8.6
	50～64 歳	78	11.5	10.3	20.5	5.1	9.0	43.6	10.3	2.6	6.4
	65～74 歳	59	25.4	8.5	3.4	10.2	18.6	18.6	15.3	1.7	10.2
	75 歳以上	50	20.0	6.0	4.0	4.0	26.0	34.0	6.0	4.0	12.0
性別	男性	96	8.3	5.2	5.2	10.4	12.5	38.5	14.6	5.2	14.6
	女性	165	19.4	9.1	18.8	5.5	12.7	34.5	7.3	3.6	8.5
小学校区別	第一小学校区	46	10.9	8.7	10.9	15.2	10.9	41.3	6.5	8.7	13.0
	第二小学校区	110	20.0	7.3	16.4	6.4	11.8	37.3	11.8	6.4	11.8
	第三小学校区	51	15.7	5.9	11.8	7.8	17.6	35.3	9.8	2.0	11.8
	第四小学校区	53	13.2	11.3	15.1	1.9	9.4	30.2	9.4	0.0	7.5
地区居住年数別	5 年未満	13	0.0	7.7	23.1	7.7	7.7	38.5	23.1	7.7	0.0
	5～9 年	21	23.8	9.5	33.3	14.3	0.0	47.6	9.5	9.5	9.5
	10～19 年	76	11.8	5.3	18.4	6.6	6.6	46.1	9.2	5.3	15.8
	20 年以上	154	18.2	9.1	8.4	6.5	17.5	29.2	9.1	3.2	9.7
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	14	7.1	0.0	42.9	14.3	0.0	57.1	21.4	21.4	0.0
	小中高生のいる世帯	70	5.7	2.9	22.9	4.3	5.7	51.4	4.3	5.7	11.4
	高齢者のいる世帯	105	20.0	12.4	5.7	7.6	21.0	30.5	10.5	3.8	15.2
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	38	23.7	15.8	13.2	10.5	15.8	39.5	18.4	10.5	23.7

2. 調査結果

【クロス集計】問 27：参加している・過去に参加していた地域活動の分野②（地域活動に「参加している」または「以前に参加していたが現在は参加していない」と答えた方）

		(n)	趣味や生涯学習・スポーツ	青少年の育成や支援	国際交流・国際協力	地域の祭りや伝統行事など	地域住民の交流の場や居場所づくり	再犯防止に関すること	特になし	その他
全体		266	27.1	7.1	7.1	26.3	13.2	1.1	1.1	5.6
年齢別	15～19 歳	17	17.6	0.0	5.9	17.6	0.0	0.0	0.0	5.9
	20～29 歳	10	10.0	30.0	10.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30～39 歳	16	43.8	0.0	18.8	37.5	6.3	0.0	6.3	0.0
	40～49 歳	35	22.9	11.4	17.1	34.3	14.3	2.9	0.0	5.7
	50～64 歳	78	23.1	6.4	7.7	29.5	6.4	0.0	0.0	9.0
	65～74 歳	59	37.3	8.5	1.7	11.9	23.7	0.0	1.7	5.1
	75 歳以上	50	26.0	4.0	2.0	28.0	18.0	4.0	2.0	2.0
性別	男性	96	25.0	7.3	5.2	21.9	13.5	3.1	0.0	5.2
	女性	165	29.1	7.3	7.3	29.7	12.1	0.0	1.8	5.5
小学校区別	第一小学校区	46	37.0	8.7	10.9	30.4	10.9	0.0	0.0	2.2
	第二小学校区	110	21.8	11.8	7.3	31.8	14.5	2.7	0.9	7.3
	第三小学校区	51	29.4	2.0	2.0	19.6	7.8	0.0	2.0	3.9
	第四小学校区	53	28.3	1.9	7.5	18.9	15.1	0.0	1.9	5.7
地区居住年数別	5 年未満	13	30.8	0.0	0.0	30.8	0.0	0.0	7.7	15.4
	5～9 年	21	33.3	0.0	14.3	19.0	9.5	0.0	0.0	4.8
	10～19 年	76	22.4	7.9	11.8	27.6	10.5	1.3	0.0	7.9
	20 年以上	154	28.6	8.4	4.5	26.6	15.6	1.3	1.3	3.2
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	14	35.7	0.0	14.3	42.9	7.1	0.0	0.0	0.0
	小中高生のいる世帯	70	18.6	7.1	10.0	27.1	8.6	1.4	1.4	7.1
	高齢者のいる世帯	105	31.4	5.7	4.8	22.9	20.0	1.9	1.0	4.8
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	38	21.1	2.6	10.5	18.4	21.1	2.6	0.0	2.6

【現在参加している又は過去に参加していた】地域活動分野は、全体では、「地域の清掃・美化や地域おこし」（36.1%）が最も高く、次いで「趣味や生涯学習・スポーツ」（27.1%）が高くなっています。

今後参加したい地域活動

【クロス集計】問 27：今後参加したい地域活動の分野①（地域活動に「まったく参加したことはないが、今後参加したい」と答えた方）

	(n)	高齢者の支援（見守り・配食など）	障害のある人の支援（介助・点訳・手話など）	子育ての支援（見守り・交流の場など）	子どもの学習支援など	健康づくり	地域の清掃・美化や地域おこし	消防・防災、災害時の支援	交通安全・防犯	自然環境保護・リサイクル
全体	194	17.0	13.9	26.8	21.1	33.5	24.2	9.8	9.8	23.2
年齢別	15～19 歳	6	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7
	20～29 歳	9	11.1	22.2	33.3	33.3	22.2	44.4	0.0	33.3
	30～39 歳	22	13.6	13.6	45.5	54.5	22.7	36.4	13.6	18.2
	40～49 歳	39	17.9	20.5	38.5	30.8	20.5	23.1	7.7	15.4
	50～64 歳	68	17.6	10.3	23.5	16.2	35.3	20.6	13.2	8.8
	65～74 歳	38	13.2	13.2	15.8	5.3	44.7	28.9	10.5	5.3
	75 歳以上	11	36.4	9.1	18.2	9.1	72.7	9.1	0.0	9.1
性別	男性	78	10.3	7.7	24.4	21.8	26.9	28.2	9.0	11.5
	女性	115	20.9	18.3	28.7	20.9	38.3	21.7	10.4	8.7
小学校区別	第一小学校区	40	17.5	22.5	37.5	22.5	32.5	20.0	5.0	15.0
	第二小学校区	53	18.9	15.1	20.8	17.0	28.3	24.5	5.7	7.5
	第三小学校区	40	15.0	5.0	20.0	20.0	35.0	17.5	15.0	10.0
	第四小学校区	53	13.2	11.3	32.1	24.5	39.6	28.3	7.5	7.5
地区居住年数別	5 年未満	34	17.6	14.7	38.2	29.4	29.4	29.4	14.7	17.6
	5～9 年	20	25.0	20.0	45.0	55.0	25.0	25.0	5.0	5.0
	10～19 年	49	16.3	20.4	22.4	14.3	34.7	24.5	10.2	8.2
	20 年以上	89	14.6	9.0	20.2	14.6	37.1	21.3	9.0	7.9
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	32	15.6	12.5	46.9	50.0	21.9	34.4	18.8	18.8
	小中高生のいる世帯	51	11.8	21.6	39.2	29.4	21.6	21.6	5.9	13.7
	高齢者のいる世帯	61	23.0	8.2	16.4	6.6	44.3	26.2	9.8	8.2
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	23	21.7	13.0	26.1	13.0	30.4	17.4	8.7	8.7

2. 調査結果

【クロス集計】 問 27：今後参加したい地域活動の分野②（地域活動に「まったく参加したことはないが、今後参加したい」と答えた方）

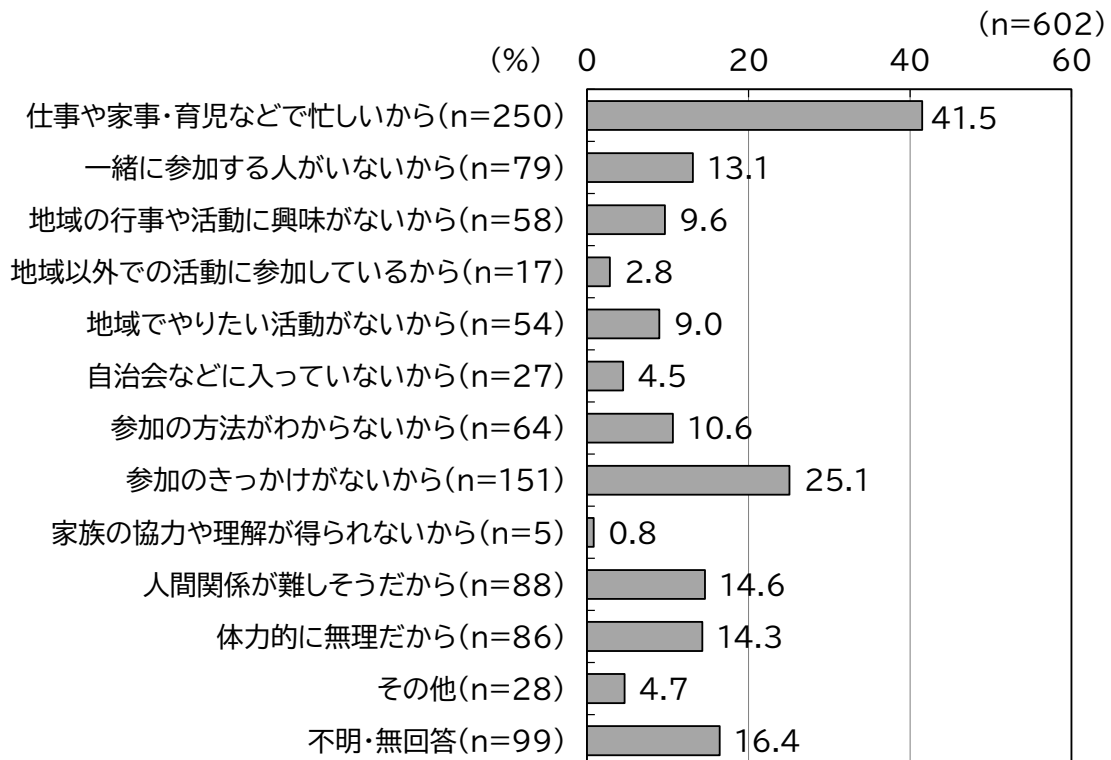
		(n)	趣味や生涯学習・スポーツ	青少年の育成や支援	国際交流・国際協力	地域の祭りや伝統行事など	地域住民の交流の場や居場所づくり	再犯防止に関すること	特になし	その他
全体		194	37.6	7.2	18.0	20.6	18.6	0.5	5.7	1.0
年齢別	15～19 歳	6	16.7	16.7	33.3	33.3	16.7	0.0	33.3	0.0
	20～29 歳	9	44.4	0.0	11.1	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0
	30～39 歳	22	40.9	9.1	18.2	40.9	27.3	0.0	0.0	4.5
	40～49 歳	39	28.2	15.4	28.2	20.5	12.8	2.6	10.3	0.0
	50～64 歳	68	41.2	2.9	16.2	22.1	20.6	0.0	1.5	0.0
	65～74 歳	38	42.1	5.3	15.8	10.5	23.7	0.0	7.9	2.6
	75 歳以上	11	36.4	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	78	43.6	7.7	17.9	23.1	17.9	1.3	7.7	2.6
	女性	115	33.9	7.0	18.3	19.1	19.1	0.0	4.3	0.0
小学校区別	第一小学校区	40	25.0	10.0	17.5	27.5	10.0	2.5	7.5	5.0
	第二小学校区	53	45.3	3.8	18.9	15.1	17.0	0.0	0.0	0.0
	第三小学校区	40	30.0	10.0	15.0	17.5	17.5	0.0	7.5	0.0
	第四小学校区	53	47.2	7.5	20.8	20.8	20.8	0.0	9.4	0.0
地区居住年数別	5 年未満	34	41.2	5.9	26.5	35.3	17.6	0.0	8.8	0.0
	5～9 年	20	40.0	20.0	35.0	30.0	25.0	0.0	5.0	0.0
	10～19 年	49	38.8	6.1	24.5	16.3	14.3	2.0	8.2	0.0
	20 年以上	89	36.0	4.5	7.9	15.7	20.2	0.0	3.4	2.2
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	32	31.3	18.8	25.0	31.3	18.8	0.0	9.4	3.1
	小中高生のいる世帯	51	31.4	13.7	29.4	23.5	13.7	2.0	7.8	0.0
	高齢者のいる世帯	61	37.7	4.9	13.1	14.8	16.4	0.0	3.3	1.6
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	23	26.1	0.0	17.4	13.0	8.7	4.3	4.3	4.3

【今後参加したい】地域活動分野は、全体では、「趣味や生涯学習・スポーツ」（37.6%）が最も高く、次いで「健康づくり」（33.5%）が高くなっています。年齢別では、65 歳以上は「健康づくり」が最も多く、若い年代層では、20～29 歳は「地域の清掃等」と「趣味・スポーツ等」、30～39 歳は「子どもの学習支援」、40～49 歳は「子育て支援」への回答が最も高くなっています。

【問 28 は、問 26 で「2 以前に参加したことがあるが、現在参加していない」「3 まったく参加したことはないが、今後参加したい」「4 まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」に○をつけた方におうかがいします。】

問 28 あなたが地域活動に参加していない理由は何ですか。(あてはまるすべてに○)

全体では「仕事や家事・育児などで忙しいから」が 41.5%で最も高く、次いで「参加のきっかけがないから」が 25.1%となっています。



◇地域活動に参加していない理由「その他」の回答

内 容	
親の介護のため	土日は休養したい
介護中だから。要介護2・高齢者	会社の人間関係で疲れきっているの、わずらわしいから
介護などで日程、時間など調整がむずかしいから	実家の親の手伝いで時間がない
家族の中に介護者がいる為無理です	時間的にむずかしい時がある
自身が高齢のため	時間が合わない
子どもが幼児のため	まだ引っ越して1年だから
大学に通っていて忙しいから	再転入したばかりだから
学校と部活で忙しいから	金がもらえない
子ども会を卒業したから	機会がなかったから
自治会役員は当番制だから	参加したいと思わないから
参加できそうであればするつもり	たまたまスケジュールが合わなかった
怖い。話すのが下手	他の団体に行っているから

2. 調査結果

内 容	
参加する金と時間があれば別のことをする。やりがい以外のリターンがない	要領の悪いやり方で活動されており、活動をしていること自体に意義があるような状況が変わらず本質的でないから
活動の場所が不便。歴史・文化といったことに対して町の取組が弱い。またそういうサークルがあるのはいくつか知っているが活動の場所が住まいから遠いし、あまり興味が感じられないし、積極的に会員を募っているように思えない	子どもが小さいうちは必然と地域に関わる機会があったが、子どもの成長とともに子どもを通じた人付き合いも希薄になるため

年齢別にみると、15～19 歳、65～74 歳では「参加のきっかけがないから」、75 歳以上では「体力的に無理だから」、その他の年齢では「仕事や家事・育児などで忙しいから」が最も高くなっています。

性別・小学校区別・地区居住年数別にみると、いずれの区分においても「仕事や家事・育児などで忙しいから」に次いで「参加のきっかけがないから」が高くなっています。

世帯区分別にみると、高齢者のいる世帯では「参加のきっかけがないから」、その他のいずれの区分においても「仕事や家事・育児などで忙しいから」が最も高くなっています。

【クロス集計】問 28：地域活動に参加していない理由①

		(n)	仕事や家事・育児などで忙しいから	一緒に参加する人がいないから	地域の行事や活動に興味がないから	地域以外での活動に参加していないから	地域でやりたい活動がないから	自治会などに入っていないから
全体		602	41.5	13.1	9.6	2.8	9.0	4.5
年齢別	15～19 歳	32	15.6	18.8	25.0	6.3	12.5	3.1
	20～29 歳	36	50.0	27.8	8.3	0.0	13.9	0.0
	30～39 歳	77	64.9	14.3	7.8	2.6	5.2	6.5
	40～49 歳	111	66.7	12.6	13.5	0.9	5.4	2.7
	50～64 歳	167	47.9	10.8	6.6	3.0	7.2	3.6
	65～74 歳	110	17.3	12.7	9.1	3.6	13.6	5.5
	75 歳以上	66	6.1	9.1	6.1	4.5	12.1	9.1
性別	男性	243	37.9	12.8	12.3	3.7	11.9	5.3
	女性	352	44.6	13.6	7.7	2.3	6.8	4.0
小学校区別	第一小学校区	120	42.5	16.7	12.5	2.5	7.5	4.2
	第二小学校区	184	39.7	9.8	11.4	3.3	11.4	2.2
	第三小学校区	116	38.8	17.2	6.9	3.4	5.2	6.0
	第四小学校区	155	48.4	11.6	6.5	2.6	10.3	6.5
地区居住年数別	5 年未満	90	60.0	21.1	12.2	1.1	5.6	4.4
	5～9 年	70	55.7	8.6	11.4	1.4	7.1	7.1
	10～19 年	153	45.1	17.6	9.2	2.0	9.2	3.3
	20 年以上	285	30.5	9.5	8.1	4.2	10.5	4.6
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	72	66.7	15.3	5.6	0.0	4.2	5.6
	小中高生のいる世帯	147	55.1	12.9	10.2	2.0	6.1	1.4
	高齢者のいる世帯	196	24.5	12.2	8.2	3.1	11.7	7.1
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	79	34.2	13.9	6.3	5.1	7.6	5.1

2. 調査結果

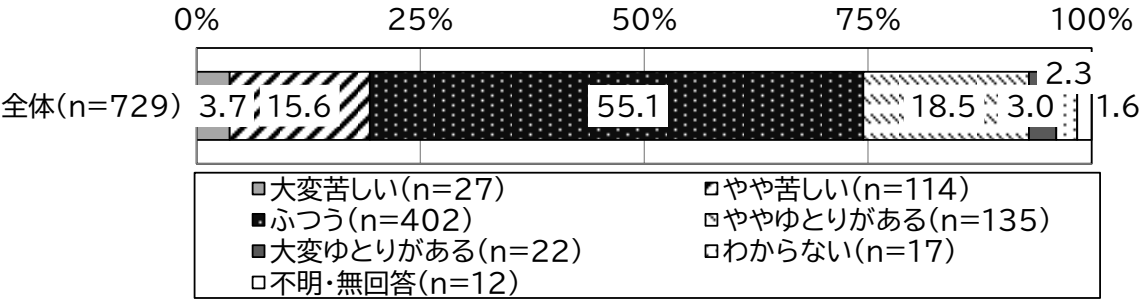
【クロス集計】 問 28：地域活動に参加していない理由②

		(n)	参加の方法がわからないから	参加のきっかけがないから	家族の協力や理解が得られないから	人間関係が難しそうだから	体力的に無理だから	その他
全体		602	10.6	25.1	0.8	14.6	14.3	4.7
年齢別	15～19 歳	32	15.6	31.3	3.1	15.6	15.6	3.1
	20～29 歳	36	11.1	27.8	0.0	13.9	5.6	5.6
	30～39 歳	77	11.7	24.7	1.3	11.7	9.1	2.6
	40～49 歳	111	6.3	25.2	0.9	10.8	3.6	4.5
	50～64 歳	167	10.2	25.7	1.2	15.0	7.2	6.6
	65～74 歳	110	15.5	30.9	0.0	22.7	21.8	5.5
	75 歳以上	66	6.1	10.6	0.0	9.1	47.0	1.5
性別	男性	243	8.6	25.1	0.8	11.5	11.9	6.2
	女性	352	11.9	25.6	0.9	15.6	15.3	3.4
小学校区別	第一小学校区	120	14.2	21.7	0.0	17.5	18.3	4.2
	第二小学校区	184	10.9	26.1	0.0	12.5	13.6	6.5
	第三小学校区	116	9.5	25.9	1.7	12.1	14.7	6.0
	第四小学校区	155	7.1	26.5	1.9	16.1	11.6	1.9
地区居住年数別	5 年未満	90	14.4	25.6	0.0	15.6	11.1	3.3
	5～9 年	70	11.4	25.7	1.4	8.6	4.3	2.9
	10～19 年	153	11.1	31.4	1.3	17.0	11.1	3.9
	20 年以上	285	8.8	21.8	0.7	14.4	19.3	6.0
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	72	11.1	26.4	0.0	5.6	5.6	4.2
	小中高生のいる世帯	147	10.2	27.2	1.4	8.8	5.4	3.4
	高齢者のいる世帯	196	12.8	30.1	0.5	17.3	21.9	5.6
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	79	7.6	19.0	0.0	17.7	21.5	6.3

5 生活困窮者の支援について

問 29 あなたは、現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(ひとつだけに○)

全体では「ふつう」が 55.1%で最も高く、次いで「ややゆとりがある」が 18.5%となっています。



年齢別にみると、いずれの区分においても「ふつう」が最も高くなっていますが、15～19 歳では「大変ゆとりがある」が比較的高いなどの特徴がみられます。

性別・小学校区別・地区居住年数別にみると、いずれの区分においても「ふつう」が最も高くなっています。

世帯区分別にみると、いずれの区分においても「ふつう」が最も高くなっていますが、乳幼児のいる世帯では「ややゆとりがある」が 2 番目に高く 2 割を超える一方、その他の区分においては「やや苦しい」が 2 番目に高くなっています。

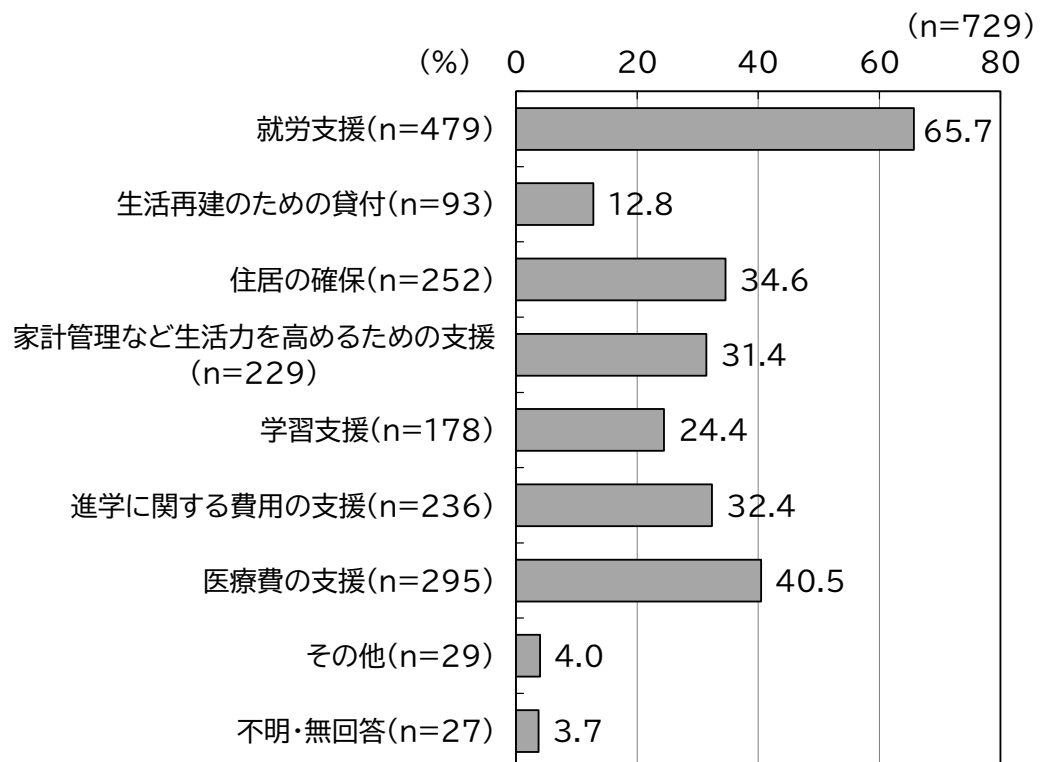
2. 調査結果

【クロス集計】 問 29：現在の暮らしの経済的な状況

		(n)	大変 苦しい	やや 苦しい	ふつ う	やや ゆとり がある	大変 ゆとり がある	わ か ら な い
全体		729	3.7	15.6	55.1	18.5	3.0	2.3
年齢別	15～19 歳	34	0.0	8.8	61.8	2.9	14.7	8.8
	20～29 歳	37	5.4	18.9	56.8	18.9	0.0	0.0
	30～39 歳	87	6.9	16.1	43.7	26.4	3.4	2.3
	40～49 歳	127	4.7	18.9	48.8	18.9	3.9	4.7
	50～64 歳	200	3.0	18.5	52.5	20.5	2.5	1.0
	65～74 歳	145	0.7	9.7	65.5	18.6	1.4	1.4
	75 歳以上	95	6.3	14.7	61.1	11.6	2.1	2.1
性別	男性	287	3.8	13.9	53.0	21.3	3.5	3.1
	女性	432	3.7	16.4	56.5	16.9	2.8	1.9
小学校区別	第一小学校区	139	6.5	18.7	57.6	14.4	1.4	0.7
	第二小学校区	233	3.0	11.2	60.1	18.0	3.0	3.9
	第三小学校区	144	2.1	16.7	53.5	20.1	4.9	2.1
	第四小学校区	183	3.3	18.6	48.6	20.8	2.7	2.2
地区居住年数別	5 年未満	102	4.9	15.7	50.0	21.6	1.0	4.9
	5～9 年	76	2.6	17.1	50.0	19.7	7.9	1.3
	10～19 年	185	4.3	15.7	56.8	17.3	3.2	1.1
	20 年以上	360	3.3	15.0	57.2	17.8	2.5	2.5
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	3.7	15.9	47.6	25.6	3.7	2.4
	小・中学生のいる世帯	168	3.6	16.7	56.0	12.5	6.0	2.4
	高齢者のいる世帯	249	3.2	16.9	57.8	13.7	2.8	2.8
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	8.6	21.5	50.5	7.5	2.2	5.4

問 30 あなたは生活困窮者の問題について、どのような支援が必要だと思いますか。
(あてはまるすべてに○)

全体では「就労支援」が 65.7%で最も高く、次いで「医療費の支援」が 40.5%となっています。



◇生活困窮者の問題について支援が必要なこと「その他」の回答

内 容	
学費給食費の無料	ベーシックインカムの導入。例（6～8万円程度）
昨年の様な商品券など意味がない。現金が良い	マンションなどの税収入を使った支援をするべき
食べ物がほしい	情報の提供と自立の支援
経済支援(減税)	確定申告の支援と収入の把握
経済的支援	全部、支援と言われたら、必要になってしまう。担保や金貸は、不要。
子どもの一時預かり、経済的に自立するための個別の対応	長期間に渡り財政状況が安定することが重要であるとの研究報告があがっていたはずで、保護や支援は既存の枠組みで行われているので人材投資としての追加給付（または貸付）
子どもの教育が第一だと思う	本人が抱えている問題解決
困窮の理由により対応も異なるので一概には言えないのでは…	程度によって支援は変わってくると思うが、身近にいない為妥当なイメージが湧かない
その人に適した支援	生活困窮者とはどのような人を示すのですか？
就労させて、そのアフターケアまでしないで結局稼いだ金が消える	自分でなんとかする

2. 調査結果

内 容	
状況がそれぞれ違うのでケースバイケースだと思います	わからない
なぜ生活困窮なのか1人1人要因が違うと思われるため、どんなサポートが必要なのかは人それぞれ違う	実態を知らないためわからない

年齢別にみると、いずれの区分においても「就労支援」が最も高く、次いで15～49歳では「進学に関する費用の支援」、50歳以上では「医療費の支援」が高くなっています。

性別にみると、いずれの区分においても「就労支援」が最も高くなっています。

小学校区別にみると、いずれの区分においても「就労支援」が最も高くなっていますが、第四小学校区では、「住居の確保」が2番目に高くなっています。

世帯区分別にみると、いずれの区分においても「就労支援」が最も高く、次いで乳幼児のいる世帯、小中高生のいる世帯では「進学に関する費用の支援」、高齢者のいる世帯、介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯では「医療費の支援」が高くなっています。

【クロス集計】 問 30：生活困窮者の問題について支援が必要なこと

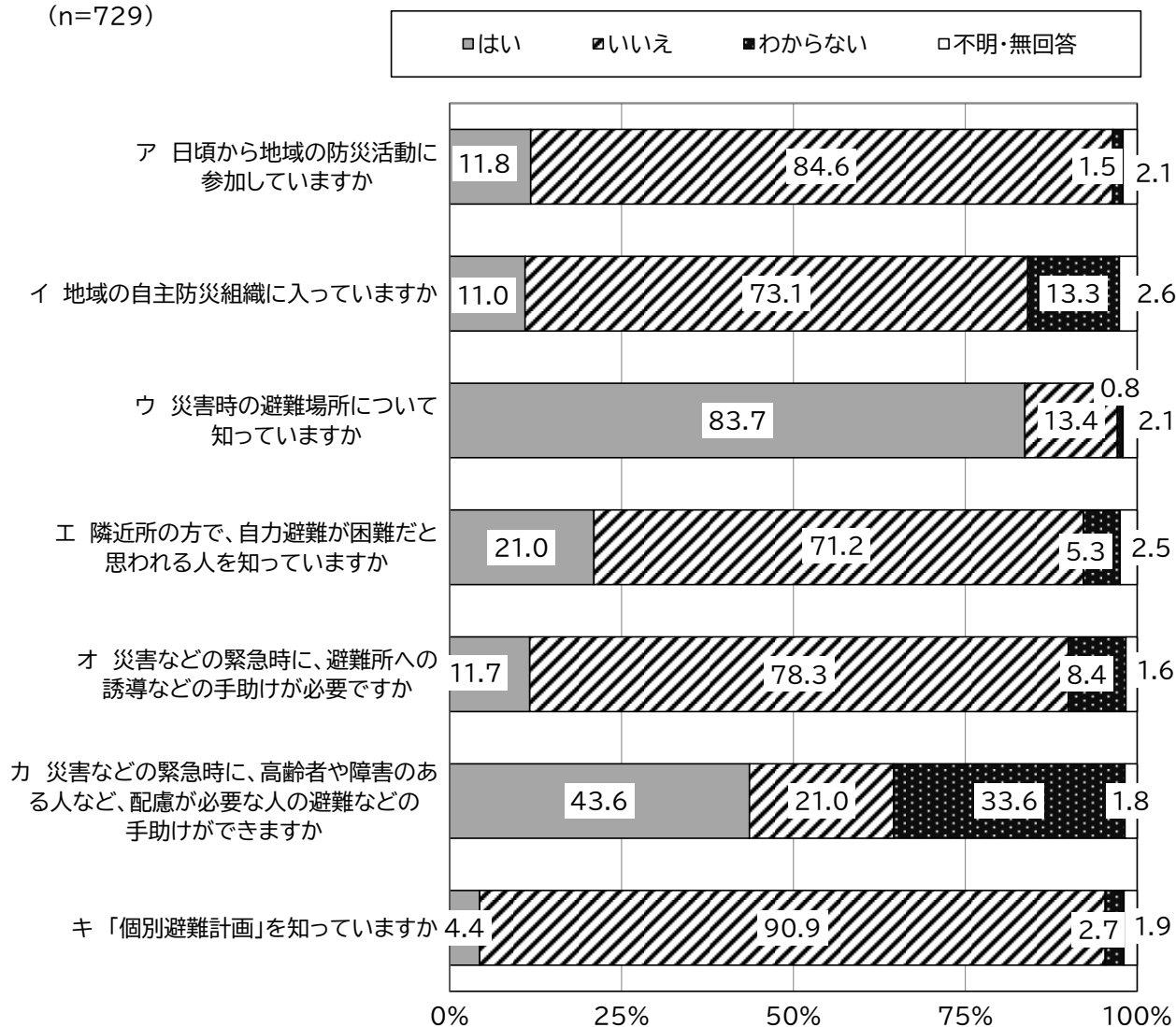
		(n)	就労支援	生活再建のための貸付	住居の確保	家計管理など生活力を高めるための支援	学習支援	進学に関する費用の支援	医療費の支援	その他
全体		729	65.7	12.8	34.6	31.4	24.4	32.4		40.5
年齢別	15～19 歳	34	52.9	14.7	44.1	23.5	41.2	44.1	32.4	32.4
	20～29 歳	37	56.8	2.7	29.7	32.4	24.3	43.2	35.1	35.1
	30～39 歳	87	69.0	13.8	40.2	40.2	33.3	44.8	33.3	33.3
	40～49 歳	127	74.0	9.4	25.2	29.1	24.4	40.9	38.6	38.6
	50～64 歳	200	72.0	9.5	38.0	35.5	25.0	34.0	39.0	3.5
	65～74 歳	145	63.4	16.6	38.6	30.3	17.9	20.0	47.6	2.8
	75 歳以上	95	50.5	21.1	26.3	22.1	18.9	16.8	46.3	4.2
性別	男性	287	64.8	15.7	34.1	33.4	26.5	30.0	38.3	5.2
	女性	432	66.7	10.6	34.7	30.6	23.4	34.3	41.9	3.0
小学校区別	第一小学校区	139	59.7	9.4	25.2	33.1	22.3	34.5	40.3	2.9
	第二小学校区	233	67.8	12.9	35.6	33.5	24.0	34.8	43.8	6.0
	第三小学校区	144	63.9	17.4	31.3	32.6	22.2	32.6	34.7	2.1
	第四小学校区	183	69.9	11.5	41.5	27.9	30.1	31.1	38.8	3.8
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	69.5	12.2	30.5	35.4	40.2	61.0	31.7	1.2
	小中高生のいる世帯	168	66.1	8.9	26.2	29.2	30.4	47.6	37.5	3.0
	高齢者のいる世帯	249	65.9	17.3	43.0	31.3	22.1	22.5	45.0	4.8
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	55.9	18.3	31.2	38.7	21.5	25.8	45.2	7.5

6 緊急時・災害時の対応について

問 31 あなたの、防災に対する日頃からの取組や、災害などの緊急時の対応について、
 おうかがいします。(ひとつだけに○)

防災に対する取組や災害時などの対応については、「はい」は【ウ 災害時の避難場所を知っていますか】で8割を超えて特に高く、次いで【カ 災害などの緊急時に、高齢者や障害のある人など、配慮が必要な人の避難などの手助けができますか】が4割を超えています。一方、【ア 日頃から地域の防災活動に参加していますか】【イ 地域の自主防災組織に入っていますか】については、「はい」が1割程度、【キ 「個別避難計画」を知っていますか】は「はい」が4.4%と低くなっています。

(n=729)



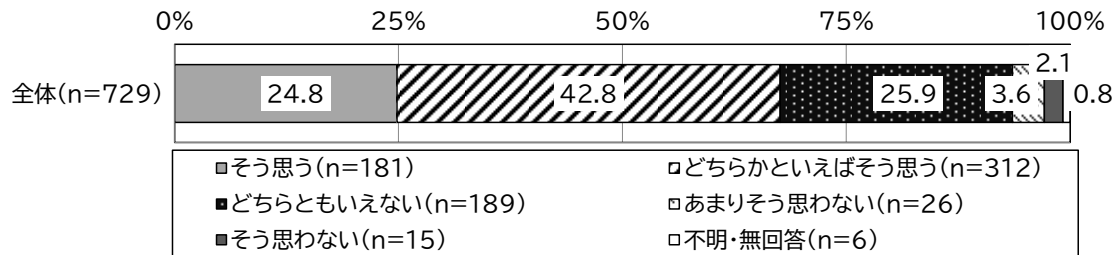
【クロス集計】 問 31：日頃の防災の取組・災害など緊急時の対応（「はい」と答えた方）

		(n)	日頃から地域の防災活動に参加している	地域の自主防災組織に入っている	災害時の避難場所を知っている	隣近所で、自力避難が困難と思われる人を知っている	避難所への誘導などの手助けが必要	災害などの緊急時に助けができるか	「個別避難計画」を知っている
	全体	729	11.8	11.0	83.7	21.0	11.7	43.6	4.4
年齢別	15～19 歳	34	17.6	0.0	82.4	20.6	11.8	41.2	0.0
	20～29 歳	37	2.7	2.7	67.6	5.4	16.2	37.8	10.8
	30～39 歳	87	6.9	3.4	72.4	14.9	9.2	32.2	3.4
	40～49 歳	127	10.2	7.9	85.0	11.8	0.0	41.7	3.1
	50～64 歳	200	8.5	11.5	87.5	23.5	11.0	57.0	4.5
	65～74 歳	145	17.2	19.3	86.2	25.5	14.5	43.4	2.1
	75 歳以上	95	18.9	15.8	88.4	32.6	24.2	32.6	9.5
性別	男性	287	13.6	11.8	81.5	19.2	11.5	54.7	5.2
	女性	432	10.9	10.6	85.2	22.0	11.8	36.3	3.7
小学校区別	第一小学校区	139	2.2	4.3	79.9	18.7	12.2	41.7	1.4
	第二小学校区	233	18.5	15.0	89.7	19.7	10.3	42.9	7.3
	第三小学校区	144	13.2	13.2	81.9	25.7	13.2	50.7	4.9
	第四小学校区	183	10.4	9.8	83.1	22.4	10.9	41.0	3.3
地区居住年数別	5 年未満	102	6.9	3.9	65.7	9.8	10.8	33.3	2.0
	5～9 年	76	6.6	7.9	88.2	17.1	6.6	44.7	2.6
	10～19 年	185	14.1	11.4	80.5	17.8	6.5	48.1	3.2
	20 年以上	360	13.1	13.3	89.7	26.7	15.6	44.4	6.1
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	13.4	3.7	85.4	19.5	9.8	35.4	3.7
	小中高生のいる世帯	168	11.3	10.1	83.3	13.1	5.4	47.0	2.4
	高齢者のいる世帯	249	14.5	15.7	84.3	26.9	15.3	42.2	4.4
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	10.8	16.1	82.8	29.0	34.4	41.9	6.5
	（ひとり暮らしの高齢者・要介護者・障害者）	27	11.1	3.7	85.2	11.1	18.5	29.6	4.4

2. 調査結果

問 32 あなたは、地震や水害などの災害が起こったときに、ほかの人の避難を支えていきたいと思いますか。(ひとつだけに○)

全体では「どちらかといえばそう思う」が42.8%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が25.9%となっています。



年齢別にみると、15～29 歳では「そう思う」、その他の年齢では「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。

性別にみると、いずれの区分においても「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっていますが、次いで男性では「そう思う」、女性では「どちらともいえない」が高くなっています。

小学校区別・地区居住年数別にみると、いずれの区分においても「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。

日頃の活動等別にみると、いずれの区分においても「そう思う」の割合が全体より高くなっています。特に日頃、福祉について学ぶ機会がある方では、「そう思う」の割合が全体より 13.5 ポイント上回っています。

「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した方の合計割合【「そう思う」系回答】をみると、年齢別では、「15～19 歳」と「50～64 歳」が7割以上と比較的高くなっています。日頃の活動等別では、「日頃から近所づきあいしている」「福祉に関心がある」「日頃福祉を学ぶ機会がある」と回答した方は、いずれも7割以上と比較的高くなっています。

【クロス集計】問 32：災害時にほかの人の避難を支えていきたいか

		(n)	そう思う	どちらかといえばそう思う	※「そう思う」系 回答 (合計)	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	※「そう思わない」系 回答 (合計)
全体		729	24.8	42.8	67.6	25.9	3.6	2.1	5.7
年齢別	15～19 歳	34	41.2	35.3	76.5	17.6	5.9	0.0	5.9
	20～29 歳	37	32.4	29.7	62.1	27.0	8.1	2.7	10.8
	30～39 歳	87	20.7	42.5	63.2	28.7	3.4	4.6	8.0
	40～49 歳	127	18.9	46.5	65.4	27.6	4.7	2.4	7.1
	50～64 歳	200	28.5	45.5	74.0	22.5	2.5	1.0	3.5
	65～74 歳	145	18.6	45.5	64.1	29.7	4.1	1.4	5.5
	75 歳以上	95	29.5	36.8	66.3	26.3	0.0	3.2	3.2
性別	男性	287	27.9	42.2	70.1	23.3	4.2	1.7	5.9
	女性	432	23.1	43.1	66.2	28.2	2.3	2.3	4.6
小学校区別	第一小学校区	139	23.7	39.6	63.3	28.1	4.3	2.9	7.2
	第二小学校区	233	29.2	39.5	68.7	27.0	2.6	1.3	3.9
	第三小学校区	144	23.6	46.5	70.1	21.5	4.2	2.8	7.0
	第四小学校区	183	20.8	44.8	65.6	29.0	3.3	1.6	4.9
地区居住年数別	5 年未満	102	22.5	45.1	67.6	24.5	5.9	2.0	7.9
	5～9 年	76	22.4	44.7	67.1	27.6	1.3	3.9	5.2
	10～19 年	185	25.9	44.3	70.2	23.2	4.3	1.1	5.4
	20 年以上	360	25.3	41.1	66.4	27.8	2.8	1.9	4.7
日頃の活動等別	日頃から近所づきあいをしている【※1】	297	29.0	45.8	74.8	19.2	3.0	1.7	4.7
	福祉に対して関心がある【※2】	456	29.2	44.5	73.7	21.7	2.9	1.5	4.4
	日頃、福祉について学ぶ機会がある【※3】	94	38.3	39.4	77.7	17.0	2.1	2.1	4.2
	地域活動やボランティア活動をしている【※4】	95	29.5	36.8	66.3	25.3	6.3	0.0	6.3

※1＝問 11（近所づきあい）で、「近所の仲の良い人とよく行き来している」または「会えば親しく話をする人がいる」と回答した方

※2＝問 22（福祉への関心）で、「非常に関心がある」または「どちらかといえば関心がある」と回答した方

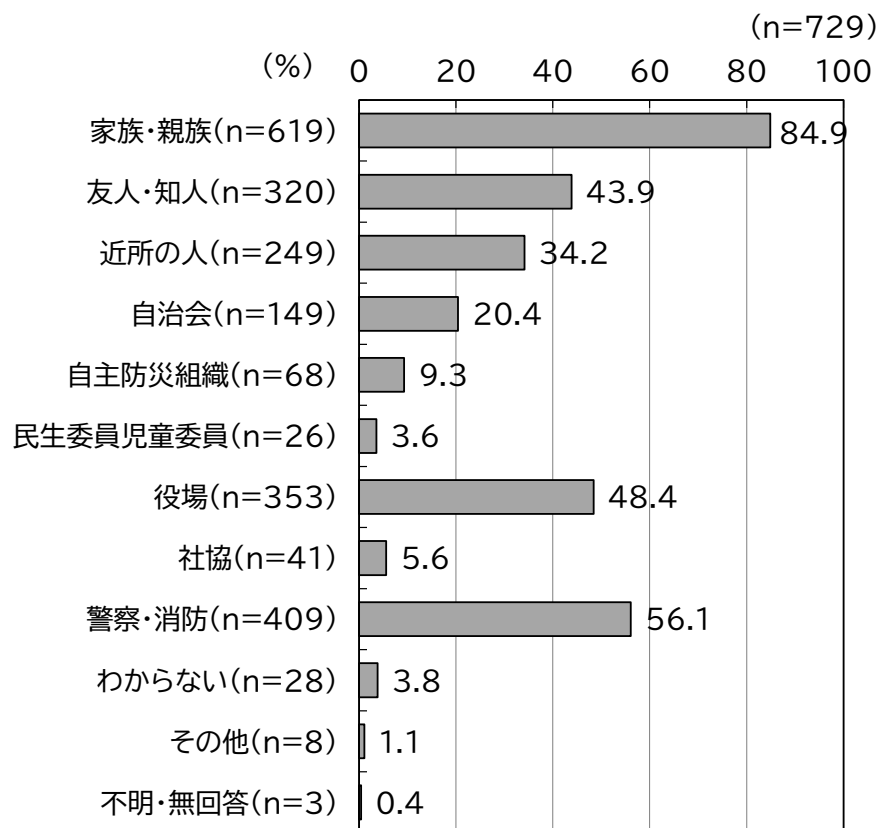
※3＝問 24（福祉を学ぶ機会）で、日頃、福祉について学ぶ機会が「ある」と回答した方

※4＝問 26（地域活動等）で、現在、地域活動やボランティア活動に「参加している」と回答した方

2. 調査結果

問 33 災害時に頼りにしたいと思う人や、地域の機関・団体はどれですか。（あてはまるすべてに○）

全体では「家族・親族」が84.9%で最も高く、次いで「警察・消防」が56.1%となっています。



◇災害時に頼りにしたい人・機関等「その他」の回答

内 容
自衛隊
グループホームの職員
災害時の避難場所・救護品・食料などの確保・備蓄
ライフラインの早期復旧、備え

年齢別にみると、いずれの区分においても「家族・親族」が最も高くなっています。また、15～19歳では「友人・知人」が2番目に高くなっています。

性別・小学校区別・地区居住年数別・世帯区分別にみると、いずれの区分においても「家族・親族」が最も高く、次いで「警察・消防」が高くなっています。地区居住年数が10年以上の方では「近所の人」、小中高生がいる世帯では「友人・知人」が比較的高いなどの特徴がみられます。

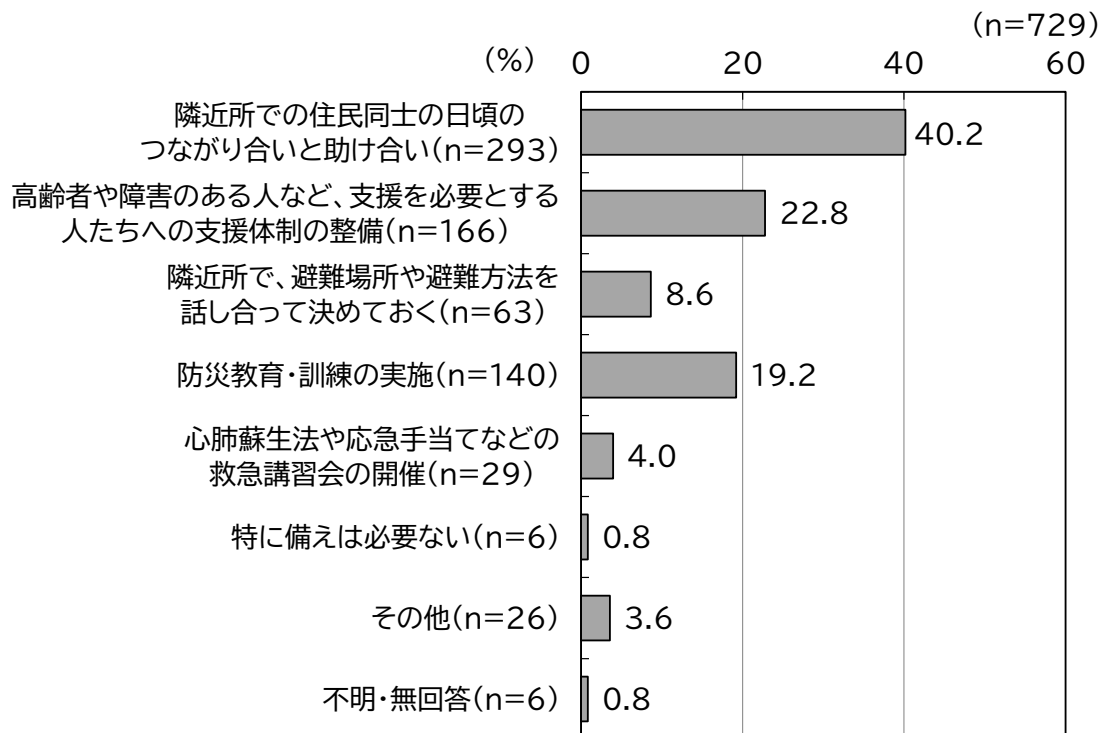
【クロス集計】問33：災害時に頼りにしたい人・機関等

		(n)	家族・ 親族	友人・ 知人	近所 の人	自治 会	自主防 災組織	民生委 員児童 委員	役場	社協	警察・ 消防	わか らない	そ 他
全体		729	84.9	43.9	34.2	20.4	9.3	3.6	48.4	5.6	56.1	3.8	1.1
年齢別	15～19歳	34	94.1	73.5	32.4	14.7	8.8	5.9	26.5	5.9	55.9	5.9	0.0
	20～29歳	37	83.8	51.4	27.0	13.5	8.1	2.7	40.5	8.1	54.1	10.8	2.7
	30～39歳	87	87.4	42.5	31.0	11.5	8.0	2.3	52.9	5.7	58.6	8.0	1.1
	40～49歳	127	89.8	56.7	36.2	18.1	4.7	3.1	53.5	3.9	65.4	2.4	1.6
	50～64歳	200	83.5	40.0	29.0	17.5	11.0	2.0	51.5	3.0	64.5	3.0	1.5
	65～74歳	145	82.8	33.8	37.9	27.6	11.0	5.5	46.9	11.0	45.5	2.8	0.0
	75歳以上	95	81.1	37.9	43.2	32.6	11.6	5.3	45.3	4.2	42.1	1.1	0.0
性別	男性	287	81.9	40.8	32.1	19.5	10.5	3.8	51.9	5.6	59.2	2.8	1.4
	女性	432	87.0	46.1	35.9	21.5	8.8	3.5	46.1	5.8	53.9	4.4	0.7
小学校区別	第一小学校区	139	84.2	41.7	37.4	12.9	4.3	2.9	45.3	5.8	54.7	4.3	0.7
	第二小学校区	233	85.8	46.8	36.5	27.9	10.3	3.9	52.4	3.9	57.1	4.3	1.7
	第三小学校区	144	81.3	46.5	31.3	21.5	10.4	2.1	47.9	6.3	57.6	4.9	0.7
	第四小学校区	183	86.9	40.4	32.8	15.8	12.0	5.5	47.5	8.2	55.7	2.2	0.5
地区居住年数別	5年未満	102	90.2	47.1	25.5	13.7	5.9	1.0	50.0	5.9	56.9	2.9	1.0
	5～9年	76	86.8	47.4	27.6	10.5	7.9	1.3	55.3	2.6	59.2	3.9	0.0
	10～19年	185	84.3	51.4	38.4	21.1	11.9	4.3	45.9	4.9	62.7	5.4	1.6
	20年以上	360	83.6	38.6	35.8	24.2	9.4	4.4	48.1	6.7	51.9	3.3	0.8
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	89.0	45.1	36.6	11.0	4.9	3.7	46.3	4.9	58.5	3.7	1.2
	小中高生がいる世帯	168	88.7	57.1	38.1	22.0	8.9	4.2	49.4	4.8	61.9	5.4	1.2
	高齢者のいる世帯	249	84.3	40.2	36.9	25.3	9.2	4.4	49.4	7.6	54.2	3.6	0.0
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	86.0	37.6	40.9	18.3	7.5	7.5	48.4	8.6	39.8	3.2	0.0
	(ひとり暮らしの高齢者・要介護者・障害者)	27	74.1	44.4	29.6	25.9	0.0	0.0	51.9	3.7	51.9	0.0	0.0

2. 調査結果

問 34 地震や水害などの災害に対して、地域で最も必要だと思う備えは何ですか。(ひとつだけに○)

全体では「隣近所での住民同士の日頃のつながり合いと助け合い」が40.2%で最も高く、次いで「高齢者や障害のある人など、支援を必要とする人たちへの支援体制の整備」が22.8%となっています。



◇災害時に最も必要な備え「その他」の回答

内 容	
マンションなので自治会はなく話し合いもないのが不安	町の災害対応シミュレーションについての広報
隣近所は空家が多く班のそうじ当番以外おつきあもなく不安です	マンション住まいに特化した具体的な避難計画を行政は提示すべき。これだけ島本町はマンションが多いのだから
自分の隣り近所の方々との信頼関係	備えができていない理由を把握してそこを潰すべき。本当の災害のとき、人は他人を助けられない
飲料水とトイレ	空き家を利用した仮住まい(仮設住宅ではなく)
各々が物資や食料を備えておく	対策や保障系はすべて必要になる
物資とシェルターの確保	自分の家族が第一優先となる
水・生理用品や女性に必要なもの	各人での情報収集や対策
災害時に必要な物の備蓄	経済的な支援
何はともあれ飲料水と食料を行政がしっかり準備すること	排水力の強化・維持
災害にあった時、避難時に必要な物資の備え	わからない

年齢別にみると、15～29 歳では「防災教育・訓練の実施」、その他の区分においては「隣近所での住民同士の日頃のつながり合いと助け合い」が最も高くなっています。

性別・小学校区別にみると、いずれの区分においても「隣近所での住民同士の日頃のつながり合いと助け合い」が最も高くなっています。

地区居住年数別にみると、いずれの区分においても「隣近所での住民同士の日頃のつながり合いと助け合い」が最も高くなっており、次いで 10 年未満では「防災教育・訓練の実施」、10 年以上では「高齢者や障害のある人など、支援を必要とする人たちへの支援体制の整備」が高くなっています。

世帯区分別にみると、ひとり暮らしの高齢者・要介護者・障害者では「高齢者や障害のある人など、支援を必要とする人たちへの支援体制の整備」、その他の区分においては「隣近所での住民同士の日頃のつながり合いと助け合い」が最も高くなっています。

2. 調査結果

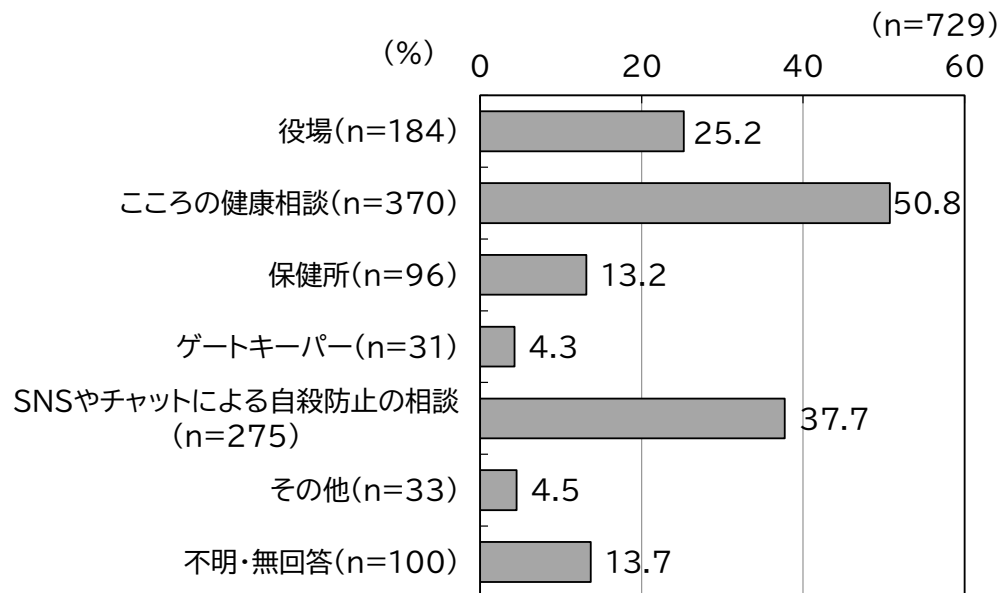
【クロス集計】問 34：災害時に最も必要な備え

		(n)	合い 頃 の つ な が り 合 い と 助 け	隣 近 所 で の 住 民 同 士 の 日	た ち へ の 支 援 体 制 の 整 備	ど、 支 援 を 必 要 と す る 人	高 齢 者 や 障 害 の あ る 人	て お く	隣 近 所 で、 避 難 場 所 や 避 難 方 法 を 話 し 合 っ て 決 め	防 災 教 育・ 訓 練 の 実 施	心 肺 蘇 生 法 や 応 急 手 当 て な ど の 救 急 講 習 会 の 開 催	特 に 備 え は 必 要 な い	そ の 他
全体		729	40.2	22.8	8.6	19.2	4.0	0.8	3.6				
年 齢 別	15～19 歳	34	26.5	26.5	5.9	32.4	8.8	0.0	0.0				
	20～29 歳	37	24.3	16.2	18.9	29.7	10.8	0.0	0.0				
	30～39 歳	87	34.5	16.1	8.0	25.3	5.7	2.3	8.0				
	40～49 歳	127	36.2	17.3	7.9	24.4	7.9	1.6	3.9				
	50～64 歳	200	37.5	27.0	8.5	21.0	1.0	1.0	3.5				
	65～74 歳	145	47.6	22.8	11.0	11.0	2.8	0.0	3.4				
	75 歳以上	95	55.8	27.4	4.2	7.4	1.1	0.0	2.1				
性 別	男性	287	36.6	21.3	9.4	22.0	4.5	0.3	4.5				
	女性	432	43.1	23.8	8.1	17.1	3.7	0.9	2.8				
小 学 校 区 別	第一小学校区	139	42.4	20.1	11.5	15.1	4.3	2.2	2.2				
	第二小学校区	233	42.5	21.5	6.9	17.2	4.7	0.9	6.4				
	第三小学校区	144	39.6	19.4	9.0	25.7	2.1	0.0	2.8				
	第四小学校区	183	36.6	29.0	8.2	19.1	4.9	0.5	1.6				
地 区 居 住 年 数 別	5 年未満	102	31.4	20.6	8.8	27.5	2.9	2.0	4.9				
	5～9 年	76	34.2	13.2	9.2	28.9	9.2	1.3	3.9				
	10～19 年	185	36.8	25.9	9.2	21.1	3.2	0.5	2.7				
	20 年以上	360	45.8	23.3	8.3	13.9	3.6	0.6	3.6				
世 帯 区 分 別	乳幼児のいる世帯	82	42.7	13.4	6.1	26.8	4.9	1.2	3.7				
	小中高生のいる世帯	168	36.9	22.0	9.5	22.6	5.4	1.2	1.8				
	高齢者のいる世帯	249	45.8	25.7	9.2	11.6	2.8	0.0	2.8				
	介護を必要とする 方、障害のある方の いる世帯	93	40.9	33.3	9.7	7.5	1.1	1.1	5.4				
	(ひとり暮らしの高 齢者・要介護者・ 障害者)	27	29.6	37.0	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0				

7 こころの健康づくりについて

問 35 自殺について相談できる窓口や支援者として、知っているものはありますか。
(あてはまるすべてに○)

全体では「こころの健康相談」が50.8%で最も高く、次いで「SNS やチャットによる自殺防止の相談」が37.7%となっています。



◇自殺についての相談窓口・支援機関で知っているもの「その他」の回答

内 容
いのちの電話
医療機関→精神科
テレビの相談窓口
病院
フリーダイヤルとか？
夜間に相談できる窓口をつくる
知らない

2. 調査結果

年齢別にみると、15～29 歳では「SNSやチャットによる自殺防止の相談」、その他の区分においては「こころの健康相談」が最も高くなっています。

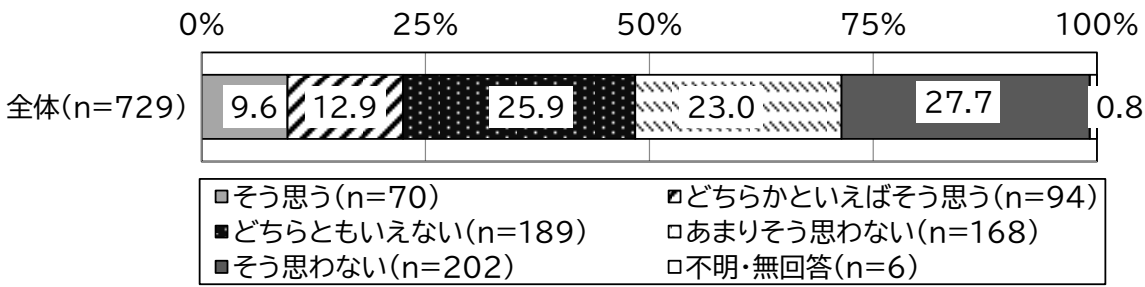
性別・小学校区別・地区居住年数別・世帯区分別にみると、いずれの区分においても「こころの健康相談」に次いで「SNSやチャットによる自殺防止の相談」が高くなっています。

【クロス集計】 問 35：自殺についての相談窓口・支援機関で知っているもの

		(n)	役場	こころの健康相談	保健所	ゲートキーパー	SNSやチャットによる自殺防止の相談	その他
全体		729	25.2	50.8	13.2	4.3	37.7	4.5
年齢別	15～19 歳	34	26.5	41.2	17.6	0.0	55.9	5.9
	20～29 歳	37	16.2	45.9	10.8	8.1	48.6	2.7
	30～39 歳	87	29.9	51.7	11.5	5.7	49.4	4.6
	40～49 歳	127	29.9	52.8	15.7	4.7	46.5	2.4
	50～64 歳	200	20.0	56.5	14.5	3.0	44.0	2.0
	65～74 歳	145	24.8	55.9	11.0	4.8	22.8	6.9
	75 歳以上	95	29.5	33.7	10.5	3.2	14.7	9.5
性別	男性	287	30.3	44.3	13.9	4.9	30.7	5.9
	女性	432	22.2	55.1	12.5	3.7	42.4	3.5
小学校区別	第一小学校区	139	30.2	42.4	13.7	3.6	34.5	8.6
	第二小学校区	233	22.3	52.8	12.9	6.0	43.3	2.1
	第三小学校区	144	25.7	51.4	18.1	2.8	34.7	4.9
	第四小学校区	183	24.0	53.6	9.3	3.8	36.1	4.9
地区居住年数別	5 年未満	102	27.5	50.0	18.6	0.0	38.2	4.9
	5～9 年	76	34.2	59.2	10.5	3.9	48.7	2.6
	10～19 年	185	25.4	48.1	11.9	3.2	44.9	2.7
	20 年以上	360	22.8	50.8	12.8	5.8	31.9	5.8
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	34.1	53.7	13.4	1.2	51.2	4.9
	小中高生のいる世帯	168	26.2	51.8	11.9	4.8	47.0	4.2
	高齢者のいる世帯	249	23.3	49.8	10.8	4.8	29.3	7.2
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	22.6	49.5	6.5	4.3	30.1	7.5

問 36 自殺対策は、自分自身に関わる問題だと思いますか。(ひとつだけに○)

全体では「そう思わない」が27.7%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が25.9%となっています。



年齢別にみると、15～19歳、50歳以上では「そう思わない」、20～39歳では「どちらともいえない」、40～49歳では「あまりそう思わない」が最も高くなっています。また、15～19歳では「どちらかといえばそう思う」、20～29歳では「そう思う」が2番目に高く、ともに2割を超えています。

性別にみると、男性では「そう思わない」、女性では「どちらともいえない」が最も高くなっています。

小学校区別にみると、第四小学校区では「どちらともいえない」、その他の区分においては「そう思わない」が最も高くなっています。

世帯区分別にみると、乳幼児のいる世帯では「そう思わない」「あまりそう思わない」、高齢者のいる世帯では「そう思わない」、小中高生のいる世帯、介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯では「どちらともいえない」が最も高くなっています。

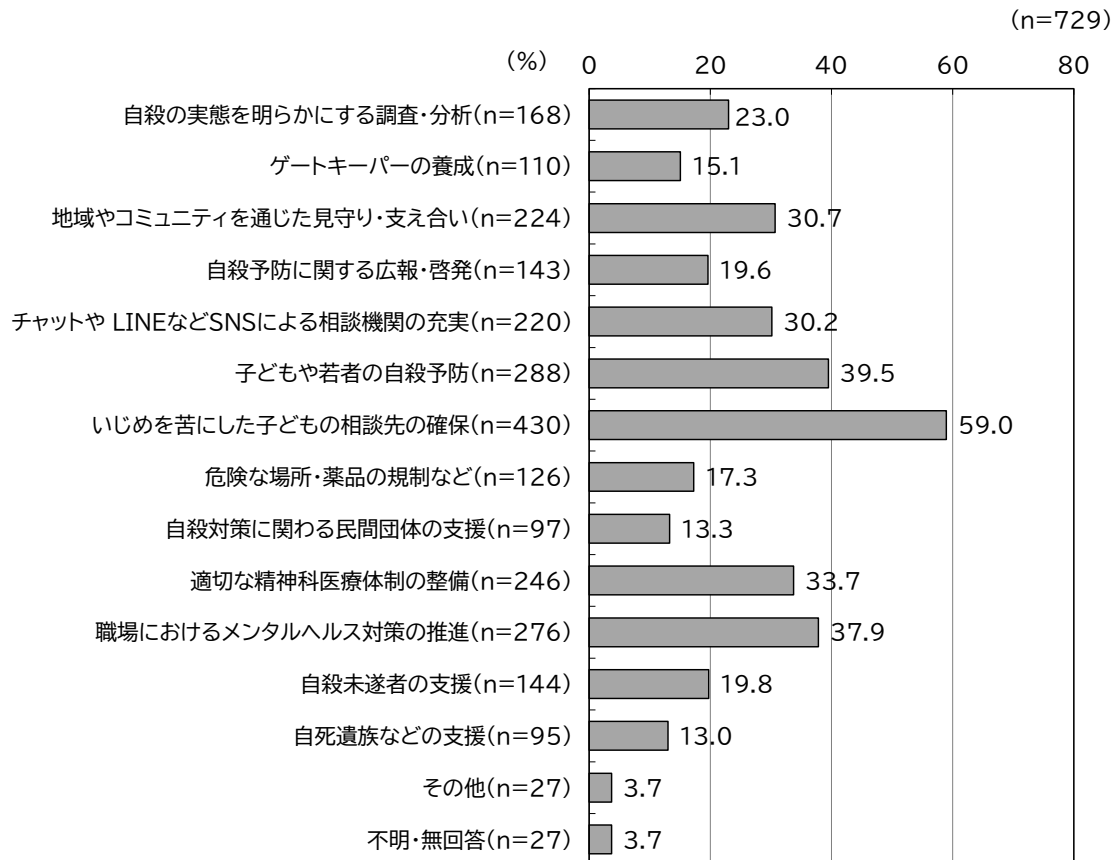
2. 調査結果

【クロス集計】 問 36：自殺は自分に関わる問題だと思うか

		(n)	そう 思う	どちらか といえ ばそう 思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう 思わ ない
全体		729	9.6	12.9	25.9	23.0	27.7
年齢別	15～19 歳	34	11.8	26.5	20.6	11.8	29.4
	20～29 歳	37	24.3	10.8	40.5	13.5	10.8
	30～39 歳	87	9.2	16.1	28.7	25.3	20.7
	40～49 歳	127	6.3	16.5	23.6	33.9	18.9
	50～64 歳	200	8.5	8.0	26.0	25.5	32.0
	65～74 歳	145	6.9	11.7	24.1	19.3	37.2
	75 歳以上	95	12.6	13.7	25.3	14.7	29.5
性別	男性	287	9.1	14.6	19.2	24.0	31.7
	女性	432	10.0	11.8	29.9	22.7	25.2
小学校区別	第一小学校区	139	12.9	12.9	23.7	21.6	26.6
	第二小学校区	233	8.6	10.7	26.2	22.7	31.3
	第三小学校区	144	10.4	15.3	25.0	21.5	26.4
	第四小学校区	183	7.1	13.1	29.5	25.7	24.6
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	8.5	14.6	24.4	25.6	25.6
	小中高生のいる世帯	168	8.9	16.7	26.2	25.0	22.6
	高齢者のいる世帯	249	11.6	10.4	26.1	18.9	30.9
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	8.6	18.3	32.3	17.2	23.7

問 37 自殺を防ぐために、どのような対策が有効だと思いますか。(あてはまるすべてに○)

全体では「いじめを苦にした子どもの相談先の確保」が 59.0%で最も高く、次いで「子どもや若者の自殺予防」が 39.5%となっています。



◇自殺を防ぐために有効な対策「その他」の回答

内 容	
いじめている人の精神鑑定→こっちの方が問題有	他国の対策事例の参考、調査
いじめている人を支援すること。いじめている人に問題がないかを早急に見つけることが大切	貧困対策
加害者有利をやめる。別室登校するなら加害者側だと思う	居場所づくり
原因となった人を処分、本人の隔離	経済支援
加害者の対処	自殺対策に関わる民間団体への監査と違反罰則
自殺を考えるようになった原因の解決	全部、安心安全なことは、必要になってしまう
自死そのものは防ぎようがないためそうならないようにすること、精神医療をもっと一般的なものにするべき。偏見をつくっている人間が一定数いると思う	対策はないと思う
パワハラ職場の調査	わからない
一人でストレスを発散できる状態にあること	

2. 調査結果

年齢別にみると、いずれの区分においても「いじめを苦にした子どもの相談先の確保」が最も高くなっていますが、20～29 歳では「自殺の実態を明らかにする調査・分析」が同率で最も高くなっています。また、65 歳以上では「地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い」が比較的高いなどの特徴がみられます。

性別・小学校区別・世帯区分別にみると、いずれの区分においても「いじめを苦にした子どもの相談先の確保」が最も高くなっています。

【クロス集計】 問 37：自殺を防ぐために有効な対策①

		(n)	自殺の実態を明らかにする調査・分析	ゲートキーパーの養成	地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い	自殺予防に関する広報・啓発	チャットや LINE など SNS による相談機関の充実	子どもや若者の自殺予防	いじめを苦にした子どもの相談先の確保
全体		729	23.0	15.1	30.7	19.6	30.2	39.5	59.0
年齢別	15～19 歳	34	32.4	20.6	32.4	8.8	38.2	38.2	47.1
	20～29 歳	37	37.8	5.4	16.2	8.1	35.1	35.1	37.8
	30～39 歳	87	26.4	5.7	24.1	13.8	40.2	60.9	74.7
	40～49 歳	127	17.3	15.0	24.4	16.5	32.3	51.2	60.6
	50～64 歳	200	20.5	13.0	31.0	20.5	37.0	37.5	66.0
	65～74 歳	145	22.1	19.3	37.9	27.6	20.0	28.3	55.2
	75 歳以上	95	25.3	23.2	37.9	22.1	13.7	28.4	47.4
性別	男性	287	26.5	13.6	33.4	21.6	25.1	38.0	54.7
	女性	432	20.8	16.2	28.5	18.1	33.6	40.5	62.7
小学校区別	第一小学校区	139	23.7	15.8	34.5	18.7	23.7	43.2	59.7
	第二小学校区	233	21.0	15.9	34.3	22.7	35.6	37.3	58.8
	第三小学校区	144	20.8	12.5	26.4	17.4	28.5	38.2	59.0
	第四小学校区	183	27.3	16.9	26.2	18.0	30.1	42.6	60.1
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	28.0	8.5	34.1	13.4	36.6	61.0	75.6
	小中高生のいる世帯	168	20.8	13.1	29.2	17.3	36.3	51.8	61.9
	高齢者のいる世帯	249	22.5	20.5	36.1	23.7	24.9	35.7	55.4
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	21.5	17.2	37.6	26.9	23.7	38.7	52.7

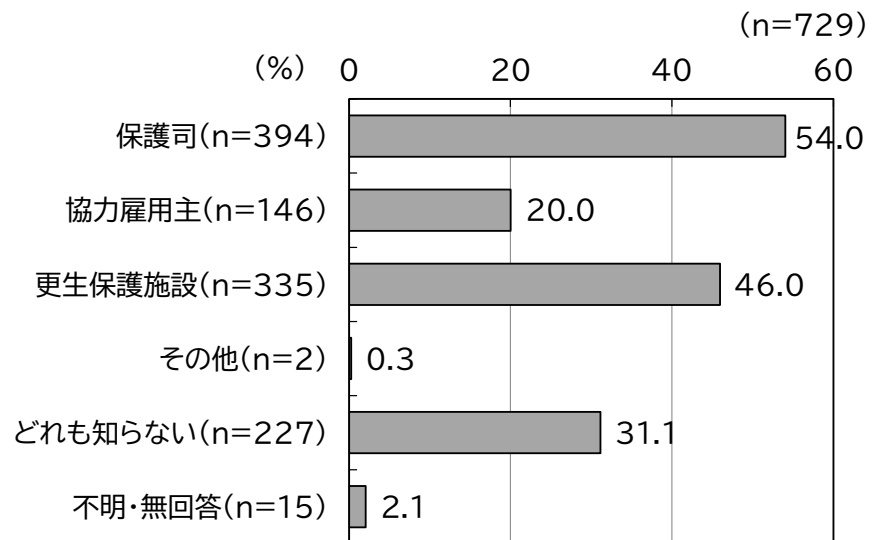
【クロス集計】 問 37：自殺を防ぐために有効な対策②

		(n)	危険な場所・薬品の規制など	自 殺 対 策 に 関 わ る 民 間 団 体 の 支 援	適切な精神科医療体制の整備	職場におけるメンタルヘルス 対策の推進	自殺未遂者の支援	自死遺族などの支援	その他
全体		729	17.3	13.3	33.7	37.9	19.8	13.0	3.7
年齢別	15～19 歳	34	17.6	14.7	23.5	41.2	32.4	17.6	5.9
	20～29 歳	37	18.9	8.1	32.4	29.7	24.3	10.8	5.4
	30～39 歳	87	26.4	10.3	36.8	51.7	34.5	24.1	6.9
	40～49 歳	127	18.9	11.0	34.6	43.3	22.0	15.7	4.7
	50～64 歳	200	14.0	14.0	40.0	49.5	16.5	12.0	3.0
	65～74 歳	145	13.8	17.9	33.8	23.4	11.0	6.9	2.8
	75 歳以上	95	18.9	11.6	21.1	17.9	16.8	9.5	1.1
性別	男性	287	18.5	13.9	30.0	34.8	19.2	12.2	4.2
	女性	432	16.2	13.0	36.3	40.3	20.1	13.4	3.2
小学校区別	第一小学校区	139	20.9	13.7	33.8	36.0	23.0	14.4	2.9
	第二小学校区	233	17.2	15.9	35.2	33.0	21.5	13.3	4.7
	第三小学校区	144	15.3	12.5	36.1	44.4	18.1	9.7	3.5
	第四小学校区	183	16.9	11.5	33.3	41.0	17.5	14.2	3.8
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	24.4	12.2	32.9	45.1	24.4	18.3	3.7	24.4
	小中高生のいる世帯	19.6	9.5	31.0	40.5	23.8	15.5	4.2	19.6
	高齢者のいる世帯	15.3	15.7	34.9	30.1	17.3	10.0	3.6	15.3
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	16.1	15.1	31.2	29.0	24.7	11.8	4.3	16.1

8 再犯防止対策、成年後見制度について

問 38 再犯防止に関する民間協力者や組織で、あなたが知っているものはありますか。
(あてはまるすべてに○)

全体では「保護司」が 54.0%で最も高く、次いで「更生保護施設」が 46.0%となっています。



◇再犯防止に関する民間協力者や組織で知っているもの「その他」の回答

内 容
聞いたことがあるが内容まで知らない
民間ではありませんが、各都道府県の地域生活定着支援センター

年齢別にみると、15～29 歳では「どれも知らない」、30～39 歳では「どれも知らない」「更生保護施設」、40～49 歳では「更生保護施設」、50 歳以上では「保護司」が最も高くなっています。

性別にみると、いずれの区分においても「保護司」が最も高くなっていますが、女性より男性の方が「どれも知らない」の割合が 7.9 ポイント高くなっています。

性別・小学校区別にみると、いずれの区分においても「保護司」が最も高くなっています。

更生保護ボランティア等について、「どれも知らない」と回答した方は、「15～29 歳」では 5～7 割と高く、全体でも 3 割以上となっています。

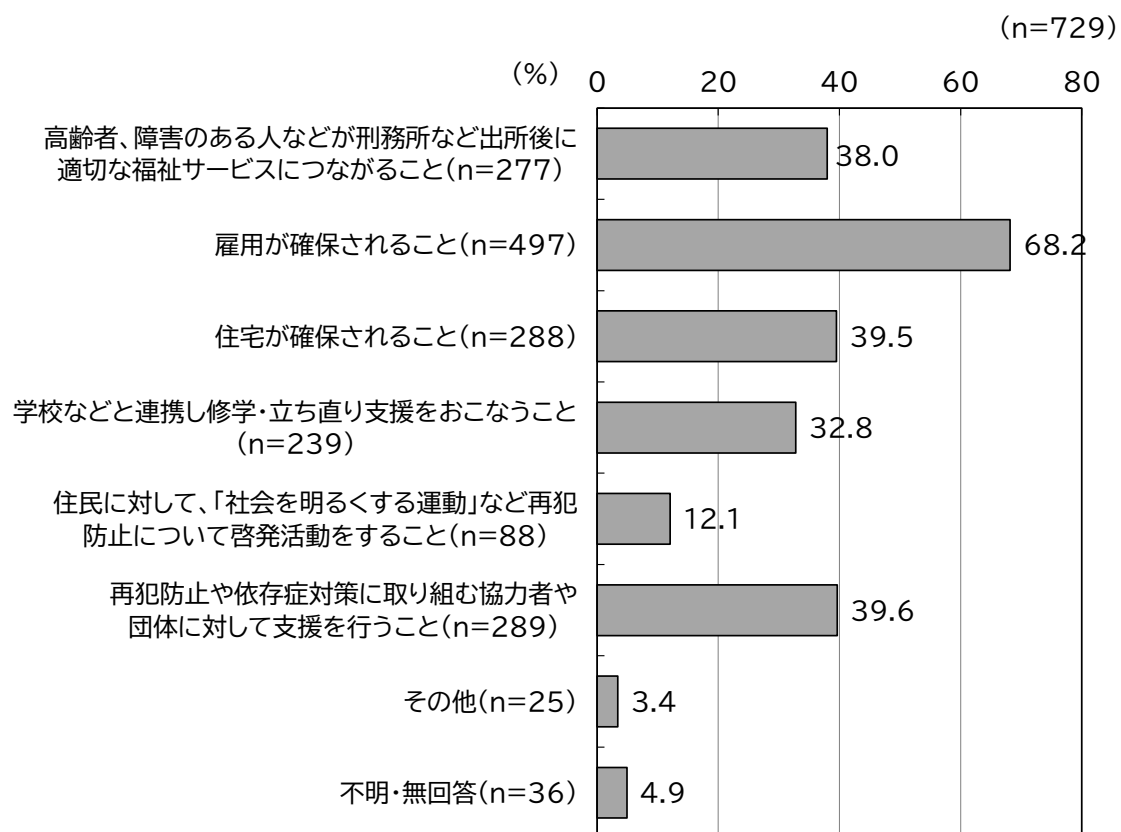
【クロス集計】 問 38：再犯防止に関する民間協力者や組織で知っているもの

		(n)	保 護 司	協 力 雇 用 主	更 生 保 護 施 設	そ の 他	ど れ も 知 ら な い
全体		729	54.0	20.0	46.0	0.3	31.1
年 齢 別	15～19 歳	34	8.8	2.9	32.4	0.0	67.6
	20～29 歳	37	21.6	5.4	37.8	0.0	51.4
	30～39 歳	87	37.9	11.5	40.2	0.0	40.2
	40～49 歳	127	49.6	17.3	59.1	0.0	28.3
	50～64 歳	200	65.5	28.0	58.0	0.5	21.5
	65～74 歳	145	66.2	22.1	37.2	0.7	27.6
	75 歳以上	95	62.1	23.2	30.5	0.0	29.5
性 別	男性	287	45.6	17.4	38.3	0.0	35.9
	女性	432	59.3	21.8	51.2	0.5	28.0
小 学 校 区 別	第一小学校区	139	54.7	20.9	48.2	0.0	27.3
	第二小学校区	233	58.4	20.6	49.4	0.4	30.5
	第三小学校区	144	49.3	14.6	41.0	0.0	30.6
	第四小学校区	183	54.6	23.0	46.4	0.5	32.8

2. 調査結果

問 39 再犯防止のために、どのようなことをすべきだと思いますか。(あてはまるすべてに○)

全体では「雇用が確保されること」が 68.2%で最も高く、次いで「再犯防止や依存症対策に取り組む協力者や団体に対して支援を行うこと」が 39.6%、「住宅が確保されること」が 39.5%となっています。



◇再犯防止のためにすべきこと「その他」の回答

内 容
身元引受人がしっかり居ること。仕事があること。住居周辺の環境
周りの人の理解。やり直しを認める社会風潮
一定管理された状況下で社会復帰をソフトランディングさせるべき
教育
頼れる人・サービスがあることの情報提供
分からない (3件)
明らかな犯罪を犯した場合の裁判のスピード化及び罪を重くする (罪が軽すぎる)
隔離
監視
性犯罪者の情報公開、GPS 埋め込み
未成年だろうがキチンと処罰する

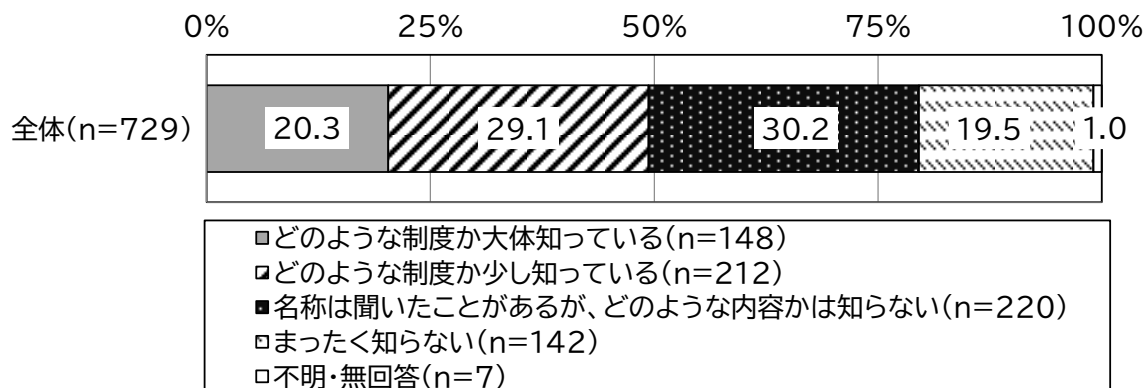
年齢別・性別・小学校区別にみると、いずれの区分においても「雇用が確保されること」が最も高くなっています。

【クロス集計】問 39：再犯防止のためにすべきこと

		(n)	高齢者、障害のある人などが 刑務所など出所後に適切な福祉サービスにつな がること	雇用が確保されること	住宅が確保されること	学校などと連携し修学・立ち直 り支援をおこなうこと	住民に対して、「社会を明るくす る運動」など再犯防止について啓 発活動すること	再犯防止や依存症対策に取り組 む協力者や団体に対して支援を行うこ と	その他
全体		729	38.0	68.2	39.5	32.8	12.1	39.6	3.4
年齢別	15～19 歳	34	20.6	47.1	41.2	38.2	5.9	35.3	2.9
	20～29 歳	37	27.0	40.5	16.2	27.0	8.1	37.8	0.0
	30～39 歳	87	39.1	70.1	37.9	43.7	8.0	33.3	2.3
	40～49 歳	127	33.1	68.5	37.8	35.4	8.7	33.9	3.1
	50～64 歳	200	43.5	76.5	44.0	31.5	11.5	48.0	5.5
	65～74 歳	145	37.2	70.3	42.1	31.7	18.6	43.4	3.4
	75 歳以上	95	42.1	62.1	38.9	24.2	14.7	31.6	2.1
性別	男性	287	33.8	69.3	41.8	30.0	14.3	36.2	3.5
	女性	432	40.5	67.1	38.0	34.7	10.4	41.4	3.2
小学校区別	第一小学校区	139	37.4	70.5	40.3	33.1	9.4	38.1	3.6
	第二小学校区	233	39.5	70.0	37.3	32.2	14.6	44.6	3.9
	第三小学校区	144	37.5	63.2	35.4	30.6	11.8	32.6	2.8
	第四小学校区	183	36.6	68.9	45.4	35.5	10.4	39.9	3.8

問 40 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(ひとつだけに○)

全体では「名称は聞いたことがあるが、どのような内容かは知らない」が 30.2%で最も高く、次いで「どのような制度か少し知っている」が 29.1%となっています。



年齢別にみると、15～29 歳では「まったく知らない」、30～49 歳では「名称は聞いたことがあるが、どのような内容かは知らない」、50 歳以上では「どのような制度か少し知っている」が最も高くなっています。

性別にみると、女性では「名称は聞いたことがあるが、どのような内容かは知らない」と同率で「どのような制度か少し知っている」が最も高くなっています。

小学校区別にみると、第一小学校区、第三小学校区では「どのような制度か少し知っている」、第二小学校区、第四小学校区では「名称は聞いたことがあるが、どのような内容かは知らない」が最も高くなっています。

世帯区分別にみると、乳幼児のいる世帯では「まったく知らない」、小中高生のいる世帯、介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯では「名称は聞いたことがあるが、どのような内容かは知らない」、高齢者のいる世帯では「どのような制度か少し知っている」が最も高くなっています。

成年後見制度については、「15～29 歳」では7～9割が、全体でも半数が制度内容を知らない結果となっています。

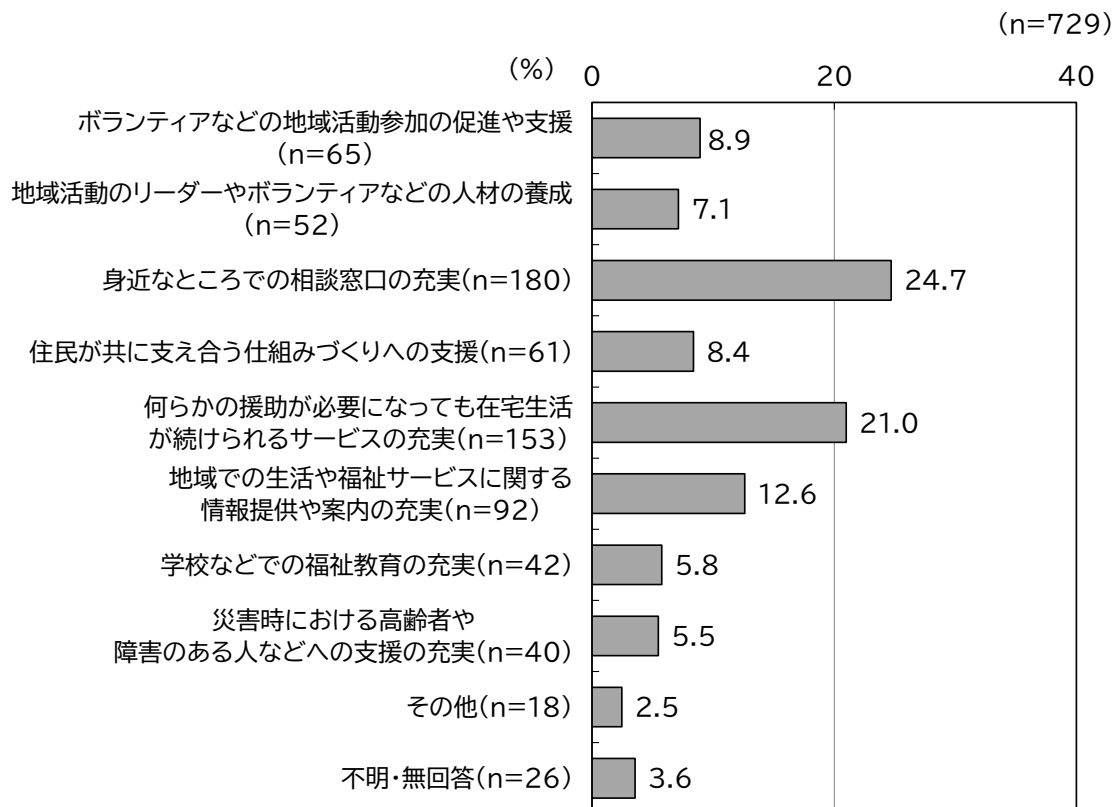
【クロス集計】問 40：成年後見制度を知っているか

		(n)	ど の よ う な 制 度 か 大 体 知 っ て い る	ど の よ う な 制 度 か 少 し 知 っ て い る	※「制度を知っている」系 回答 (合計)	名称は聞いたことがあるが、ど のような内容かは知らない	まったく知らない	※「制度を知らない」系 回答 (合計)
全体		729	20.3	29.1	49.4	30.2	19.5	49.7
年齢別	15～19 歳	34	2.9	0.0	2.9	17.6	79.4	97.0
	20～29 歳	37	18.9	10.8	29.7	27.0	43.2	70.2
	30～39 歳	87	14.9	20.7	35.6	34.5	29.9	64.4
	40～49 歳	127	18.9	26.0	44.9	39.4	15.0	54.4
	50～64 歳	200	25.0	35.0	60.0	27.5	12.0	39.5
	65～74 歳	145	21.4	37.2	58.6	28.3	12.4	40.7
	75 歳以上	95	22.1	33.7	55.8	29.5	10.5	40.0
性別	男性	287	19.9	28.2	48.1	30.7	20.2	50.9
	女性	432	20.6	29.6	50.2	29.6	19.2	48.8
小学校区別	第一小学校区	139	18.0	32.4	50.4	26.6	21.6	48.2
	第二小学校区	233	21.0	28.3	49.3	34.3	15.9	50.2
	第三小学校区	144	23.6	29.9	53.5	23.6	20.8	44.4
	第四小学校区	183	19.1	27.9	47.0	33.3	19.1	52.4
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	19.5	24.4	43.9	26.8	28.0	54.8
	小中高生のいる世帯	168	16.1	20.8	36.9	36.3	26.8	63.1
	高齢者のいる世帯	249	20.1	33.3	53.4	30.1	14.9	45.0
	介護を必要とする方、障 害のある方のいる世帯	93	20.4	30.1	50.5	34.4	15.1	49.5

9 今後の地域福祉分野の施策について

問 41 今後、島本町が取り組むべき地域福祉分野の施策として、どのような施策を優先して充実すべきだと思いますか。(ひとつだけに○)

全体では「身近なところでの相談窓口の充実」が24.7%で最も高く、次いで「何らかの援助が必要になっても在宅生活が続けられるサービスの充実」が21.0%となっています。



◇優先して充実すべき地域福祉分野の施策「その他」の回答

内 容
高齢者の事故が増え、運転免許証の返納をしたくても通院や買い物の交通手段が不足している
高齢者や障害者でも働いて給料がもらえるよう、町が仕事を用意する。見回りなどの地域活動に適切な時給を払い、働きたい高齢者の働く意欲を引き出す
子育ての充実
とにかく情報が欲しい。最近だと産前産後ヘルパー養成など、面白そうなものがあったが、なかなか気づきにくい
ふれあいセンターを駅近に。相談したくても遠くて無理。商業施設を入れてほしい。イオンまではなくても地域の皆が使いやすい大きな場所
マンションや住宅が多く建てられているので保育、小学校、中学校の充実を優先すべき
老人ホームの充実
老老介護者に対しての家庭の事情を良く知ってほしいです
高齢者、障害者、こども、妊産婦などラベリングされた人間を対象にした福祉しかないため、そこから漏

れている人間を見つけるべきであり、職業としての福祉を行う人間を地域外から入れるべき
在宅生活が出来る支援に程遠い現状を行政が努力して解消すべき。島本町は脆弱すぎる
子育て支援の拡充とその家庭の包括的な援助
子ども不登校の生徒・先生の支援
自立支援医療制度の充実（負担割合引き下げ、上限額引き上げ）
若者(中高生など)の居場所づくり、小規模でも青少年活動センターのようなユースワーク的な場所
町内への広報誌配布の充実と、国交省や厚労省のやってるような謝礼付きアンケートモニターによる行政へのモニタリング
マンション住まいに特化した具体的な避難計画を行政は提示すべき。これだけ島本町はマンションが多いのだから
良いことは全部。これしか書けない
わからない

年齢別にみると、15～19 歳、30～74 歳では「身近なところでの相談窓口の充実」、20～29 歳では「ボランティアなどの地域活動参加の促進や支援」、75 歳以上では「何らかの援助が必要になっても在宅生活が続けられるサービスの充実」が最も高くなっています。

性別にみると、女性では「身近なところでの相談窓口の充実」、男性では「何らかの援助が必要になっても在宅生活が続けられるサービスの充実」が最も高くなっています。

小学校区別・地区居住年数別にみると、いずれの小学校区においても「身近なところでの相談窓口の充実」が最も高く、次いで「何らかの援助が必要になっても在宅生活が続けられるサービスの充実」となっています。

世帯区分別にみると、乳幼児のいる世帯、小中高生のいる世帯、介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯では「身近なところでの相談窓口の充実」、高齢者のいる世帯では「何らかの援助が必要になっても在宅生活が続けられるサービスの充実」が最も高くなっています。

2. 調査結果

【クロス集計】 問 41：優先して充実すべき地域福祉分野の施策

		(n)	ボランティアなどの人材の養成 ボランティアなどの地域活動参加の 促進や支援	地域活動のリーダーやボランティア などの人材の養成	身近なところでの相談窓口の充実	住民が共に支え合う仕組みづくりへの 支援	何らかの援助が必要になっても在宅 生活が続けられるサービスの充実	地域での生活や福祉サービスに関する 情報提供や案内の充実	学校などでの福祉教育の充実	災害時における高齢者や障害のある 人などへの支援の充実	その他
	全体	729	8.9	7.1	24.7	8.4	21.0	12.6	5.8	5.5	2.5
年齢別	15～19 歳	34	14.7	2.9	23.5	11.8	14.7	8.8	11.8	5.9	5.9
	20～29 歳	37	18.9	2.7	13.5	13.5	13.5	16.2	8.1	2.7	2.7
	30～39 歳	87	8.0	3.4	29.9	6.9	13.8	12.6	11.5	3.4	4.6
	40～49 歳	127	7.9	7.1	23.6	12.6	17.3	10.2	9.4	3.9	2.4
	50～64 歳	200	10.0	10.5	28.0	4.0	21.5	14.0	3.0	5.5	2.0
	65～74 歳	145	5.5	8.3	25.5	11.0	24.8	13.8	2.8	4.8	1.4
	75 歳以上	95	8.4	5.3	15.8	6.3	30.5	11.6	3.2	11.6	2.1
性別	男性	287	13.6	8.4	19.9	9.8	20.2	11.5	4.5	6.6	2.1
	女性	432	5.8	6.3	27.1	7.4	21.8	13.7	6.7	4.9	2.8
小学校区別	第一小学校区	139	8.6	8.6	23.7	7.9	22.3	10.1	6.5	7.2	1.4
	第二小学校区	233	8.6	6.9	24.5	7.7	22.3	16.3	3.9	3.9	3.9
	第三小学校区	144	6.3	5.6	26.4	7.6	16.7	16.7	7.6	6.3	3.5
	第四小学校区	183	12.6	7.7	25.1	8.7	19.7	7.7	6.6	4.9	1.1
地区居住年数別	5 年未満	102	7.8	4.9	22.5	8.8	20.6	9.8	10.8	6.9	2.0
	5～9 年	76	7.9	3.9	28.9	7.9	19.7	13.2	10.5	2.6	0.0
	10～19 年	185	10.3	7.0	22.7	11.9	17.8	16.8	4.9	3.2	2.2
	20 年以上	360	8.9	8.6	24.7	6.7	23.1	11.4	3.9	6.9	3.1
世帯区分別	乳幼児のいる世帯	82	6.1	6.1	26.8	13.4	13.4	11.0	14.6	1.2	2.4
	小中高生のいる世帯	168	11.9	7.7	23.2	10.7	15.5	12.5	8.9	3.0	3.0
	高齢者のいる世帯	249	5.6	6.8	23.7	7.2	26.9	14.9	3.2	5.6	2.4
	介護を必要とする方、障害のある方のいる世帯	93	5.4	6.5	30.1	8.6	19.4	11.8	3.2	10.8	2.2

問 42 誰もが住みやすいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望がございましたらご自由にお書きください。

<地域のつながり・助け合い・支え合いについて>

- 人間関係、近所付き合いが希薄になっているように思います。困っている人を見かけたら助けに行く！そんな人であふれる町にしていきたいです。
- 援助が必要な人に対して島本町は取り組みが進んでいる方だと聞いています、でもまだ十分とは言えません、幅広いボランティアがもっと広がればと思います。
- 回覧板をよく読み協力参加すること。最近ではゴミ収集。何の協力を求めているかの意識、関心。
- 興味・関心がある人が気軽に参加しやすいボランティア活動に力を入れて紹介して下さい（すごく積極的な方はボランティアできるが、やってもいいなあくらいでは敷居が高い）。
- 島本町のボランティアは、この地域に長く居住されてる方が、参加されているイメージがあります。マンションに住んで10年以上になりますが、それでも参加しづらいです。時間のかからないものや、誰でもできる簡単なことなど、小さなボランティア参加を増やしていけば、もっと、地域活動に参加する人も増える気がします。
- 地域活動に力を入れてほしい！
- 地域活動を増やすことで、地域の関わりが増え、今、問題になっている、老老介護対策にもなるし、困った時は、お互いが助け合えるようになると思います。
- ボランティアという善意ばかりに頼ろうとしないで欲しいです。現役世代だって知らない誰かより我が子や家族の方を優先したいはず。多少の助け合いやお手伝いは出来ますが搾取はやめて欲しい。これから年寄りが多くなるのだから有償サービスも充実させていく方が良いと思います。
- ボランティアや地域活動はずっと同じ方がされていて、やや閉鎖的な感じがしています。誰でも出来る些細なことから始められる様に「こういう風にしなければならない」という、雰囲気、無くした方が良いと思います。若い世代がとけこみやすいように、参加しやすいような工夫があれば良いなど、思います。
- ボランティア活動などにおいて、善意に頼りきってしまうのではなく、協力者のメリットや活動自体の意義深さの協調などで、「参加してみたい」と思わせる工夫が必要と考える。
- 住民がボランティア活動に参加しやすい仕組みづくりの強化。
- 自分よがりではなく、家族だけでなく近隣、地域住民など他人への気遣いを持てるような住民ひとりひとりのマナーの向上。マナーが向上すれば、ゴミの捨て方も改善され、地域での取り組みや助け合いに繋がるはず。
- 意見をしたくても、そもそもの活動状況などに詳しくないため難しいです。
- 自治会がないため、回覧板が回ってこない。掲示板がない。
- あまり色々なことに関心がないので反省しています。余り人に関わりたくないのも、年齢が年齢だけに心配です。
- 核家族化が進み、隣近所の付き合いも少なくなり、プライバシーが重要視される時代になり、個々の家庭状況が分かりません。昔は警察が家庭訪問をしてましたが今は無くなったようです。各家庭を廻り状況を確認することが大事だと思います。
- 自治会がなく、永年常勤者だったため、退職後、近所の人達との付き合いがない。民生委員等地域のボランティアに携わっている人達は、仲の良い近所だけで全く無視。

2. 調査結果

● 自治会について、今は退会しましたが、役員などの任務が苦痛。防犯カメラ等自治会でしなくても危険なところは取り付けて欲しい。自治会に入る、入らないで余計に近所の仲が悪くなる。コミュニティが狭いためちょっと話したことが、あの人にも、この人にも…と伝わっていつてしまうのもこわく、だんだん人と話さなくなってしまった。
● 田んぼや畑を売られて新しい住宅がどんどん増えています。前から住んでいる人と新しく転居してこられた人との交流がむずかしいと思います。自治会に入られる人も少なくなって、お話しをする機会も少ないです。
● 皆それぞれの趣味や興味が自然と集まる場所（公園や施設、SNS など）があり、そこが定期的に情報発信していくと、人々の交流につながる。そんな場所が島本町にあると、町全体が明るい印象となり、自然と良い関係が築ける（世代を超えて）。特に現代はこの世代を超えた交流・繋がりが、大切だと強く感じる。
● やはり個人の隣人との繋がりが一番大切なことではないかと考えます。繋がりも、うるさく感じられるものでは、ダメですし、大変むずかしいと思います。しかし私個人としたら、いざという時に互いに協力出来る友達を作ることを最良と考えています。
● 以前に比べて自治会活動が薄れているように思う。自宅の家の並びはどのような人がいるか大体わかるが、一筋違ったらどのような人がいるのかわからない。このような状態では災害が起こっても助け合う気持ちが薄くなるのではないだろうか。自分が住んでいる周りの人たちが顔を合わせる機会を作ることが大事だと思う。
● 現在住んでいる地域では、自治会組織がすっかり形骸化しており半ば崩壊していると言っても過言ではない。コミュニティ作りに多くの住民が関心を持てるようにするために、行政の支援（指導？）があってもいいのではないのでしょうか？
● 孤立せず地域のコミュニティに参加して、お互いに助け合うことが大切だと感じます。
● 仕事と家の往復で近所付き合いがなく、引越してきて数年ですが、平和な町だと思います。近くにスーパー、薬局が出来て暮らしやすいと思います。
● 私共は自治会に入会しておりますが、近隣の御家庭では最近退会してしまう例が多く、入会は強制では無いので参加を勧められず災害時の助け合いなどは無理なのでは？と思います。町の方でもその事実を調べてもらいたいと思います。
● 私自身、まだ健康で仕事もしているため、あまり福祉やボランティア、濃い近所づき合い等に関心はさほど無かったですが、このアンケートを通して、改めて、地域との深い関わりを持つことの大切さを感じました。高齢者、弱者にも、心強い島本町であって欲しいと願います。
● 新たに転入してくる人々と地元の町民との交流する機会。
● 地域で孤立することなく暮らしていけるために地域力を活用してふれあいサロンを進化させた地域カフェが地域にできれば、週に2・3回集える場にならないかと思います。交流だけでなく相談もできる場、お茶だけでなく食事もできるそんな場が町内にたくさんできないでしょうか。
● 地域のつながりや支え合いはとても大切だとは思いますが、自治会などのボランティアの活動を負担に思う人は多いです。同時代の人々は、子育てや仕事で忙しく地域にまで目を向けられない。従来のような仕組から、現代に合う地域活動やつながりに変えていくきっかけづくりを進めて頂きたいです。

- 島本町に住む方は良い人が多いため、機会があればあるほど、つながりができやすいと考えます。気軽にできるボランティア活動への誘いや子どもと参加できるイベントなどで知り合いが増えれば、より住みやすい町になると考えます
- 誰もがお互いに支え合う気風の醸成していくには年月が必要。

<相談について>

- 生活の相談窓口で国民生活センターを昔利用したときに、相談について解決まではしなかったものの親身になって対応いただきとても感謝しています。これも住みやすいまちづくりに大事なことと思うので続けてほしいし、あとは相談場所がふれあいセンターだけではなく駅のところなど行きやすいところにあつたらいいなと思います。
- 病気で働けなくなったシニアの雇用問題に対処できる様な相談窓口を身近にしてほしい。
- 以前、役場に相談したいことがありましたが、具体的にどの窓口、どの課なのか自分では判断がつかず、電話で問い合わせた所、何ヵ所かに電話を回され、結局どうすればいいのかわかりませんでした。折角皆さん、一生懸命に対応してくださっているのに、こちらが申し訳なくなってしまう。大きな窓口がひとつあって、そこから最適な場所を教えて頂けるととても助かると思います。
- 行政（役場）に気軽に相談できるルート（システム）を分かり易くしてほしい。
- 困難な時に、プライバシーを守られ、気軽に相談できるところ、たとえば、インターネット(公的)等、充実すれば、ありがたく思います。役場に出向く時間がなかったり、対面で相談する勇気がない時には、助かります。
- 相談は本人と家族別々にしてほしい。本当のことを言うと本人が気分を悪くして嫌な思いをしたことがあった。
- 役場の相談窓口の方が忙しそうなので、とても相談しにくいです。「またいつでも相談に来て下さい」と言われても、時間がないなど、なかなかとれません。それは無理といわれてしまうと、どうすればいいのかわかりません。個人情報などのこともあるのかもしれませんが、「こういう風にされている人がいる」などの具体的なアドバイスが欲しいのです。
- 町にどんな相談機関、支援サービスがあるのかも把握してないので、役場で総合受付のような所で受付してもらい、適切な案内をして貰えると助かると思う。

<情報発信・提供、広報・広聴について>

- 地域福祉の取り組みの周知活動の強化。
- 1. しまもと広報の充実（きめ細かい、内容の濃い、弱者にやさしい）。2. 特に新しい企画は掲示板も活用。3. 将来的には自助、共助の拡大、公助は人的、お金共限界有。そのためには健康な体づくりの奨励の拡大、PR 等から、死ぬまで現役をモットーに。健康年齢を延ばす。
- 島本町にはこのような状況の人がいますというような情報があればいいと思います。その個人情報を知るというのではなく。
- 災害時のために役場と自治会などが障害者、高齢者、ひとり暮らしの人達の情報共有がきっちり出来るようにしておいてほしい。
- だれでも、いつでも、思うことを発信、見える化できる、よろず SNS の制定。

2. 調査結果

● 役場として種々の福祉サービスメニューは沢山あるが、住民、特に生活に困っている人や障害を持つ人がどこまでそのメニュー内容や活用の仕方を知っているか、又、周知徹底出来ているかについて今一度サービス提供側として省みる必要があるのでは。
● 移住者が増えてくると町をあまり知らない人も増えていく。島本町はどんなところなのか、どういう町にしようとしているのか、どんなところを守ったらいいのか、それが分からないと新しい住民は動きにくい。町を良くしたいと思っていますが、その入口が分かりません…。また自然と集まる意見ではなくこういった定期的な聞き取りのようなものは今後とても重要だと思います。
● 引越ししてきた時に島本町に親戚がいたから、なんとなく島本町のことが分かったが、何も頼る場所がなかった時に自治会など地域のことをどこで情報を得られるのかが分からないと感じました。最近、子ども会もあることがわかり、そういった情報を発信している場所が分かれば嬉しいですね。
● 掲示板を見るのが好きなので、もっと情報更新して欲しい。または情報をまとめたポータルサイトみたいなのがほしい。あれば情報をもっと広めてほしい。
● 町から情報を細かく、案内、提供し、住民に「このような制度があるよ」と知ってもらうことが大事。住民も情報を正しく理解する資質が必要。福祉教育は大切なことと思う。
● 町内で流れるスピーカーの音が聞きとりづらい。
● 福祉など、行政の個人支援は大事だが、情報の発信の方法の開発や、自助出来る人になるような教育が必要だと思う。それと税金を使うことだけではなく、行政も経済価値のあるものを積極的に開発し、他の市町村に無い特色を磨く必要があると思う。
● 利用できる制度の情報提供の充実。情報弱者に対し、申請した人だけが制度を利用できる形でなく、もれなく制度が利用できるシステムの構築。
● 匿名可能なご意見ポストの設置。

<子ども・子育て・教育について>

● お年寄りだけでなく、小さいお子さんを持つ方への支援がアンケートにもあまりないのが気になりました。災害時、気にかけるのはお年寄りや障害をもつ方だけではなく、小さいお子さんをもつ（特に複数）保護者への支援も必要ではないでしょうか。小さいお子さんを抱えて避難するのは大変だと思います。いつも福祉＝お年寄り、障害者という感じですが、小さい子どものいる家庭も忘れてはいけないと思います。
● 子育て支援の充実。
● 子どもがいる家庭への支援をもっと拡充して頂きたい。
● 支援の対象が高齢者や障害者中心に思えるので、子どもや子育てをしている家族にももっと目を向けて欲しい。小さな子どもがいるので、震災時に自分の家庭以外を支えることは不可能と思う。
● 誰もが住みやすい町作りは困難だと思う。将来をになう子どもに手厚い支援をしてほしいが、少子化問題も対応すべき、特にその前の婚活に力と金を入れるべきだと思う。結婚するにしても時間も出会いもお金もないので厳しいと思う。現実を見ろと言いたい！
● 小さな子ども用の遊具（公園での）はあるのですが、小学生用、もう少し大きい子どもが遊ぶ遊具がないので、設置してほしいです（アスレチック的なものなど）。遊ぶ場所がないので、結局、家にこもりテレビゲームばかりです。子どもが外で体を動かす場所を作るべきです！大きい子向け。
● デリバリーが配達地域外ばかりでピザしか選択肢がありません。配達地域を拡充して貰えれば、年配者も子育て世代も共働きのご家庭も住み良くなると思います。あとは、ご年配の方が多く、高齢者フ

アーストな印象が強いです。子育て世代なのでこちらも勝手な意見になりますが、子どもが使える施設、設備、支援がもっと増えてくれるといいなと思います。
● 高齢者にばかり目がいきすぎてませんか。地方自治体でなく国の政策でもあり難しいこともあるかもしれませんが、子育てしている世代、普通に生活することも厳しい税金、社会保険料を負担してます。しかし、子どもが受ける支援は所得制限ばかり。昨年子どもが手術入院した際も 50 万ほどかかりました。子ども未来応援給付金ありませんでした。そういうことは国が決めてるから町では関与しません？他の自治体では負担して子ども一律に給付金を配ったところもあります。福祉の話になると高齢者が暮らしやすいことばかりにスポットが当てられ、それをボランティアとして現役世代の関与を促す流れが多いですが”仕事”として募集してはどうでしょう。子育てしながら社会と関わる機会になるのではないかと思います。身近に気軽に仕事ができる機会、単発とかでも町として募集があれば応募したいなと思います。
● 高齢者のサービスなどは手厚いが、子育て支援に関しては他市町より劣っている。ふれあいバスを就学前まで利用、ふれあいセンター内にある室内プールの子どもたちの利用、子ども医療証の対象拡大など、検討してもらいたい。
● 子どもが安心して学校行ける環境にしてほしい。学校に行けていない子どもの親としては不安しかありません。もう少し支援してほしいです。
● 困ったときに最悪の選択をしたり、社会から孤立したりしないように学校教育の役割は大きいと思います（学力保障と福祉についての教育）。
● 最近、フリースクールが増えてきているけど、それでもまだ居場所を探している人が沢山いるのでそういう場所ができたらいいいなと思います。
● テスト勉強できるような落ち着いた空間がほしい。
● 産後ケアサポートが 10 回×2 時間しか受けられないのは少なすぎと感じる。育児に対する支援を受けるには少しハードルを高くしすぎ。地域としてはひとり親家庭への支援が充実してほしいと思う。
● 若いうちから、1 日だけとか体験する機会があるといいと思う。親子体験等。
● 若い夫婦が島本町での子育てについて、保育、福祉、医療、教育等育てやすい環境にあると感じれば子どもの数は自然と増えるのではないかと。このことが全国的に広がっていけば良いが、子どもの出生数が 80 万人を割って、合計特殊出生率が過去最低といわれ、日本の人口も自然減少している。日本の国力（GDP 等）が低下しつつあるのは、子どもの出生率が低下しつづけているためであり、活力を取り戻すためには、子どもの増加が必要です。半世紀前から言われつづけてきたことですが。国を初め、各自治体頑張ってください。
● 自費でよいので、子育てを支援してくれる、ベビーシッターを頼めるところがあるとよい。
● 保育所について、兄弟で別々の保育所となると送り迎えでかなりの時間を割くことになり、日常生活に大きく影響します。さらに 4 月入所で定員となり、以降は入れないとなると、明らかに産まれた月で有利不利が生まれ、不公平かつ少子化対策になりません。些細なことかもしれませんが、1 日 1 日時間に追われる中で、なるべく良い生活環境のご提供をお願いしたく宜しくお願い致します。
● 現在 2 才の子どもを保育園に預けて共働きをしています。なんとか 1 才で希望の園に入れましたが、今の定員の状況を見ていると 2 人目が入れるのか、また小学生になったときの放課後や夏休みの預け先など不安はいろいろとあります。少しずつ改善されるといいなと願っております。
● 18 才までの医療費助成が近隣自治体に比べて遅れていると感じる。

2. 調査結果

● 高槻や茨木のように医療費を 500 円にして下さい(高校生以下)(または 20 歳以下)。
● 医療費を茨木市、高槻市同様に 高校生まで 500 円にしてほしい。学校帰りに高槻市の病院に行くことがあるが、病院の人にも違和感を持たれてしまうと、高校生という怪我をしやすい時期であるので、医療費の補助をしてもらえると助かる。
● 私は今高校生なのですが、最近病院を受診することが多く、医療費がたくさんかかることが気になっています。聞けば、大阪府のほとんどの自治体で子ども医療が 18 歳までなのに、島本町は 15 歳まで、だそうです。できれば島本町の医療も 18 歳までにしていただきたいです。
● 給食費を無償にしてほしい。
● 小学校の給食費の無償化促進。

<若者世代について>

● 今の若者はめちゃくちゃドライです。やりがいなんて二の次どころかどうでもいいです。なので若者にアプローチをかけるなら、町の方から直接来ないとダメだと思います。『参加待ってま〜す』だけで若者はほぼ来ないと思います。行くメリットが分からないからです。
● 高齢化が進んでいるので、もっと若い人の移住を促進していくべき。
● 子育てがしやすい町に、若い人が住みやすい町に、地元民ばかりが優先されるのではなく、いろんな人が住みやすい町にしてほしい。
● 今後町を支えていく世代に関心・興味を持たせられるようなイベントが増えればいいと思います。
● 若い世代向けの施策も考えてほしい。高齢者ばかりではなく。
● 若者が福祉に関心を持たなくなっている。小さい時から関心を持つ教育が必要。弱者に寄りそう心を育ててほしい。
● 若者が暮らしやすい町になる様に、雇用が増えるような施設やカフェを積極的に増やすべきだ。水無瀬駅の再建。
● 少子高齢化の影響もあるかとは思いますが、高齢者の方々に財源を使い過ぎているように感じます。高齢者よりも将来のまちづくりを担う子どもたち、学生、若者にこそ優先的に資金を使うべきだと思う。
● 役場まで遠いのでオンラインで諸々対応できるようにしてほしい。高齢者、障害者ばかりにスポットを当てるのではなく、社会で活躍している現役世代をもっと太く強固なものにする支援も必要と考える。物価高騰で家計が苦しいのは皆平等。新鮮なもの、値引きされたものは朝早くからせせと買い物に来る高齢者に根こそぎ買われフルタイムで働いているから夕方以降となり口クなものがない。高齢者は医療費負担を 3 割にしムダな通院と投薬を減らしてほしい。

<高齢者について>

● 高齢化による認知症の増加。予防策として事例は？事故防止策は？
● ①ふれあいバスの運行を平日のみでなく、年末年始を除く毎日運行。ルートを増やす。②高齢者の一人暮らしなどの買い物支援。③戸建て独居老人の片づけ支援(地域にゴミ屋敷をつくらないため)。④子どものいない高齢者に成年後見人などの制度を知ってもらう活動。⑤戸建て老人の出火などの予防のための対策。
● 介護保険、たくさん納めなければなりませんが使わずじまいの人にもいるのに対しては何の報いもないのは残念なことです。こういうと血圧計など配布されたりしますので誰をもうけさせているのか。

いやな気分になります。配給金？というような形で少しでも返金されるとありがたいですがむずかしいことでしょうか。
● 老いてゆくとゴミ出しが困難になる。日々のことなのでとても負担が大きいと思う。また、分別ゴミの分別を判断することも難しくなったり、いつ出せばいいか、どのように出せばいいかを考えるのがしんどくなり、ゴミ出しも難しくなるが、仲良くしているご近所がいつも頼みにくいと思う。老化だけでなく、病気やケガ、仕事時間帯によって即直面する生活上の問題。
● ここ数年で大規模マンションばかり増えてきているように思うが、高齢者にとっても住みやすいまちであるかが心配。ひとり暮らしになっても元氣なうちはいいが、サービスを受けないといけない時は、十分なサービスが受けれるのか、又、入所できる施設などがその時あるかどうか。
● 将来のため若い方に対する支援は大切だと思いますが年寄りの貧困者に対しても援助してほしいと思います。
● 高齢者が働く場所を国が先に立って至急に取組むべきである。(働ける人は、働くべきである。)
● 年金で生活できるようにしてほしい
● 老後介護していただける施設を増やしていただきたい。
● 訪問医療の充実。介護必要な人を病院につれていくことは大変。
● 体の動けるうちは良いけど、低所得者でも入れる施設が欲しい。子どもが少ないし、高齢者が多いので働く人も場所(運営)もむずかしいだろうなあをつくづくこの歳になって思います。
● 現在は高齢ではありますが私も主人も出来ることをしながら元氣で頑張っております。人のために何かお手伝い出来ることがあればと小さなことかも知れませんが自分なりにお手伝してます。島本町は今の自分達には最高の町です。他県の知人と話しますが小さいながらも地域、福祉乗り合いバス(まだ乗ったことなし)本当に充実しています。まだ介護や福祉サービスを受けたこと有りませんがどうかこれから5年後10年後ももっと充実し高齢者が安心して生活出来ることを願います。

<障害者について>

● 視力障害のある方のため、①白線、緑線の整備 ②街灯の整備 ③側溝の暗渠化など、引き続きご検討をお願いします。
● グループホームを出て一人暮らししたいと思っているが町内に部屋があまりない。府営住宅も単身者が少ない。ボランティアしてみたいが、道が覚えられないので無理かなと思っている。グループホームの職員さんに相談して、ガイドヘルパーと出かけられるようになったのはよかった。
● 健康面の問題で就労が困難になった場合の支援拡充をして頂きたいです。就労支援の充実(失業手当の受給額および再就職手当の引き上げ)。自立支援医療制度の充実(負担割合引き下げ、上限額引き上げ)。
● 精神障害の家族がいるが、役場に相談に行ったことがあるがあまりよい方向に向かわなかった(進展がなかった)。支援はひとりひとりのオーダーメイドのようなもので、その人にあった支援はむずかしいのかなあ…と感じた。相談先の人は経験豊富な人が必要だし、育成も大切だと思う。

<生きづらさを抱える人について>

● 引きこもりや孤立している人への介入をどうするか。当事者とどうコンタクトを取って、どう信頼関係を築くか。長期に渡る支援とそれに当たる人材をどうするか？
--

2. 調査結果

- 支援を必要としている人の中には、自発的に助けを求められない人もたくさんいると思います。普段からコミュニケーションを取り、何か困っていることがないかと呼びかけたり、信頼関係を構築することが大切なのではと考えました。そういった取り組みを実現していただければ、より住みやすい町になるのではないかと思います。
- 小さな町なのに、困っている本人やその家族任せなことが多いように感じます。考えられる人は行動できますが、できない人も多くおられます。又、学校の校長判断任せが多く、学校によって対応が違うことは問題だと思っています。
- 職場でのパワハラで追い詰められて、ベランダから飛び降りようかなと思ったことがあります。家族や友人に話を聞いてもらうことはしましたが、具体的な解決には結局全部自分で動くしかありませんでした。一人で通院治療しながら自費でカウンセリングを受け、仕事をしながら転職活動をし、結果的には無事転職できました。しかし、失ったものは計り知れなかったです。話を聞く以外の具体的な手助けをしてくれる人がいたらどんなに助かったかと思いますが、健康で自分で動ける人には、福祉は回ってこないのかなと諦めていました。働く人の悩みを相談できる場所が近くにあればいいのにと思いました(茨木の労基署にも相談しましたが、遠いうえ平日しか空いていないので大変でした)。
- 難しいですね。隣の人が刑務所から出所された方だったとして、お付き合いできるだろうか？と想像してみました。難しいな、覚悟がいるな、と思いました。相手を信じる力、私にはもっと勉強が必要だと思いました。

<福祉全般について>

- どうしても福祉が必要な人たちがいるので義務的経費が必要な点は理解できますが、公共が行う最低ラインは少し下げるべきです。一方で対象範囲は広げ、適用スピードは速い方がよいと思います。だれでも簡単にすぐに福祉にたどりつけることのほうが重要です。過剰な福祉は地域の衰退につながります。一方で過小な福祉は不満を招きます。過剰な福祉を受けたい人のために手厚いプランを用意し、その分の費用は請求できるようにしてあげてください。制度や施策をつくるならば基準という縛りを逆にうまく使えるように制度設計してください。そうすれば仕事が生まれますし、多少利益があがれば間接的な福祉財源として活用できます。地域のつながりは良い面もありますが、別の面では縛りです。現在の福祉の枠組みから漏れている人たちはその縛りを避けているからです。職業としての福祉が必要です。
- 1人1人の意識が変わることが大事と思う。自治体だけでなく、身近な所での教育、社会的なことを知る機会があれば。
- 町の政策は子育て世代に偏りすぎている。高齢者や障害者に対する取組がよくわからないし、あっても既存のものを繰り返すだけ。不足している(例えば福祉バスのダイヤをもっと増やす、高齢者や障害者の外出促進のため、土日也有料であっても運行するなど)。
- 成年後見制度はどの地域も遅く認知症など対応が遅く、対応もできていない。島本町は福祉対応が早くなる様に 70 才以上の高齢者など半年に 1 度訪問しコミュニケーションを取る等の整備。ひとり親世帯に対しての環境整備。低所得者に対する支援活動(労働や環境について)。
- 若い世代は勿論のこと、高齢者も障害者も明るく楽しく住みやすい町(地域)にしてほしい。
- 福祉の分野を充実させるのは重要だと思います。税金を平等(誰もが必要とする)に使って欲しいと思います。自殺や再発防止には税金を使って欲しくありません。死にたい人は死ぬし、犯罪を犯す人は犯すと思います。生きようとする人のために税金を使って欲しいです。

<安全・防災・防犯について>

● 防災訓練などは土日にも行ってほしい。
● 防犯のカメラの設置状況と効果はどうなっている。
● 街灯も元々ある場所はLED化され明るくなっているが、そもそもの数自体が少ないためもう少し街灯を増やしてほしい。
● 災害に強い町づくりをしてもらいたい。
● 安全な住みやすい場所であってほしい。
● 緊急時、災害時にあったとき、慌てて連絡が出来ないと思います。なので、何かボタンを押すと、連絡が出来る物が各家庭に欲しいと思います。若い人はどうか分かりませんが、私なんかは特に欲しいです。
● 公道への私物のはみ出し置き、駐車、駐輪は防災の障害になると思います。
● 避難場所やサービスなどの情報を常にみんなが周知できるように掲示板などに常に掲示しておくとか。忘れやすいので。
● 防災対策の拡充、強化。
● 町の安全については、現状満足出来ていると思われそうですが、気を抜くことなく町全体の安全につき一層の注意を付けて増々住み良い町にすることをお願い致します。
● 住みやすいと感じたのは道路の歩きやすさと思っていて、以前は歩道の真ん中に糞の放置されていたものが、チョークマークや飼い主に呼びかけるなどした結果でしょうか、見かけることが少なくなり、暗い夜道で足元をあまり気にしなくて良くなりました。これも住みやすくなったのだと感じましたので、このような小さくても地道に生活しやすくなる取り組みを続けてほしいと思いますし、あとはできるだけ街灯を増やして明るくしてほしいのと、美容室を利用するのに歩道に乗り上げ駐車する違法車や、公道のスケートボードや爆音バイクがこわいのでいなくなってほしいです。
● 少子高齢化が進んでいるから、災害時の高齢者の避難についての政策が必要だと思います。
● 地震の風水害等の災害に対するソフト・ハード両面での対策の実施。
● 町全体での防災訓練やシミュレーションを行っても良いのではないかと思います（避難所の運営方法をどうするか等を考える機会を設ける等）。
● 南海トラフ等の地震の確率が高く、地震がいつ起こるか不安がある。防災対策や準備するべきこと、起こった時の地域の人とのかかわり方、役場の対策状況等、よくわからないことが多い。
● 能登半島地震の報道を見て感じたことは適切な行動と判断ができる人材が必要です。高齢者（障害者）になれば給水場所にも行きたくても行けません。重くて水さえ持てません。どのような支援をして下さるか。よろしくお願い致します。
● 不審者など。パトロール。防犯カメラ。道路きれいにする。
● 地域福祉とは直接関係ありませんが、安心・安全のため、地域での交通ルール・交通マナーの啓蒙活動を強化して欲しい。基本的なことを守れない人が多すぎる。

<交通・道路・移動について>

● 交通整備を進めてほしい。通学路が道路と一緒にしている。
● マンションや戸建てなど島本町の人口が増えているのに道が整備されておらず危険を感じる。（例：水無瀬駅前から役場へ向かうためのコープ前の交差点や西国街道 他）

2. 調査結果

● 交通量が多いにもかかわらず歩道のない道がある。小さい子やお年よりが安心して歩けるようにしてほしい。
● 道路(歩道)の整備
● 歩道を作る(西国街道のところ)。
● おしゃれな石畳風な歩道はデコボコが多く足の悪い高齢者はとても歩きにくいです。
● 道路が幅、地面共すっきりと歩き易い動き易い道になってほしい(ミラーの設置)。交通手段、タクシー等必要な時間帯に無い。例えば駐車、駐輪場所がない。
● 歩道と道路のさかい目が急勾配な所やせまい所が多く、つえの方や車いすの方が危なそうな印象を受けます。
● 例えば、①自転車での「ながらスマホ」、自転車での右側や中央走行 ②夜間歩行の際の黒っぽい服装 ③横断歩道が近くにあってもショートカットする ④道の反対側に歩道があるのに、あえて歩道のない方を歩く等。特に、高齢者への啓蒙を。
● J R 島本駅前の開発は良いが、道が不便。先に道を作るべきだったと思う。青葉ハイツからの高架下が通りにくくなったため、高齢者は苦勞しています。自転車のとび出しの危険防止だとは、わかっていますが、あんなに狭くしなくてもよいのでは。それから、線路ぞいの道をもっと広げてほしいです。
● この街は全国的にも住み易いとは感じますが、マンションの高層化には反対です。これ以上の人口増より道路の整備を強く希望します。
● 最近歩道と道路のつぎ目の段が気になります。自転車でもあぶないかなと思うところがあります。電動車イスや、ベビーカーは、つらくないでしょうか、車の量が増えたので、歩道のない道はこわいです。
● 最近、住宅(マンション、一戸建て)建設が優先されて道路も踏切も狭いのに、自家用車を持つ若い人が増え外出するのが不安です。ちゃんとした道路を確保した上で建築許可を出すようお願いしたいと思います。老人でも自然を楽しむことができるのんびりとした町になってほしいですね。
● 島本駅周辺では、大規模集合住宅の建設が進んでおり、人口増加が見込まれ、交通量も増えると思います。特にJ R 線路を横断できる箇所というのは限られており、道路幅も狭く、人の行き来も多い印象です。信号機の整備や、道路の拡幅、歩道の確保を進めていかなければ、必ず事故が起きると思います。
● 島本町が一番住みよい所です。住宅が多くなりましたが尺台、東大寺、自然がいっぱいで良い所です。歩道を歩いているとよく斜めになっている所が多いので直してほしいです。
● 道路整備が未だ不十分。
● 阪急水無瀬と水無瀬病院へ行く最短コースに横断歩道がない。リハビリに通う人達のためにも横断歩道を設置したらと思う。
● 人の育成も大切だが、島本町の場合新しい家やマンションができてくるが、道路の整備をまずやらなければ災害が起こる前に色んな所で交通渋滞を起こすのが目に見えているし、事故なども増えるであろうと心配。福祉にもつながることと思う。
● マンションの乱立で景観が悪くなっている。特に交通量が増えているので、歩行者・自転車等に危険なので、交差点等点検や対策が必要！
● 水無瀬⇄島本駅に向かう、コープ(生協) & キムラ精肉店前の横断歩道の件でご質問します。(アスファルトと鉄ぱんが半分の歩道になっている場所)→段差が生じていますが、陥没する心配はないですか…!?

● 路線バスを存続させて下さい。
● 車が通る道が狭いところが多く、子育てしていて怖い思いを何度かしています。道路を広く出来ないのであれば、危ない道をこのように避けて通るのがいいよ！というマップなどがあれば大変助かります！
● 広い歩道の設置。
● 高齢化が進み、おひとりでシルバーカーを押して買い物をする方をよく目にします。暑い日も寒い日も雨の日も行かなくてはなりません。ご自身で歩ける方は、運動にもなりますし良いことだと思うのですが、休む場所が無くその場でしゃがんで休んでおられる方もいます。狭い道幅にベンチを作るなど難しいかと思いますが、少し腰を掛けて休める場所などあればと思います。
● 高齢者が増えて歩道でもひやりとさせられることがあります。自転車のレーンを整備したり、横断禁止の場所をもっとはっきりわかるようにして、運転している側も安心して走行できるようにしてほしいです。
● 西国街道の歩道の整備又は交通の制限（誰もが安全に歩ける町）。
● 駐輪場代を 100 円/24 時間に戻してほしい。
● 町にはバスが少ないと思う。ＪＲや阪急がありますが駅へ向かう手段が徒歩か自転車です。病院へ行くのも同じです。そして狭い道が多い。昔ながらの家があるので仕方ないが、建て直す時に道路用に土地を確保して欲しい。特に山崎駅へ向かう道路は歩行者、自転車、バイク、車が多く危ない。山崎駅北側のＪＲの資材置場を関電社宅横の線路沿いの様に歩行者と自転車が余裕で通行出来るよう整備して欲しい。
● 町の無料バスを 50 円か 100 円位にできないかな。本当に困っている様子は見られない(もう少し自分の足でうごいてほしい健康のために)。
● 徒歩圏内のスーパーが、閉店しました。高齢の両親も今は自分達で食料や生活用品を調達できているが今後の将来のことを考えると心配です。商業施設から出ている巡回バスが無くならないよう支援したり移動販売などを行って欲しい。
● 島本町は、ＪＲが横切っているため、ハシゴ消防車や大型トラックなどの大きな車両が通れる道が役場から楠公通りに抜ける高架道路しかありません。もし地震などで高架道路が通れなくなった場合、消火活動や物資の輸送などに支障をきたすと思います。高架道路が使えなくなったことを想定してもう一つ大きな車両が通れる道を整備することを要望いたします。
● 道路の整備をしてほしい。道が狭かったり、歩道がなかったり、段差が多くバリアフリーではない。
● 西側の開発について、開発後 171 号線へ抜ける車はほとんど、町役場前の高架を通ることになるかと思います。すでに健康モール前の信号で渋滞が発生していたり、騒音や排気ガスで迷惑しておりますので、解消をお願い致します。
● 道路が悪く歩きにくい。段差が多い。ガタガタしている所が多く、歩道がせまく手押し車で通れない。町内バスがほしい。(外出する機会がふえると思う) タクシーを増やしてほしい。
● ふれあいセンターへのバスはなぜ高齢者だけなのか疑問です。0 歳児健診などで使用されている絵が古い。待ち時間が長い。役場・ふれあいセンターへの行きやすい道を作してほしい。
● ふれあいバスも、料金がかかっても、市営バスよりも気軽に乗れて、家の近くにも停まるし、誰でも乗れるようにするようによければいいなと思う。
● 福祉ではありませんな！ここ数年ＪＲマンボウトンネルを通る自転車を降りて、押していない。子ども、大人、老人、前後に子どもを乗せた母親。皆乗ったまま通って行きます。柵を増やしたようです

2. 調査結果

が…。注意したいけど、今は逆ギレされるので恐くてできません。高槻市かなび公園等みたいに、押さないと通れない柵を設けてほしいです。人口増加とマナー違反がイコール。広報、学校、自治体に、マナー周知してほしい。大規模マンションが完成すれば目もあてられなくなりそうです。

<公共施設について>

- ふれあいセンター駅から遠い。わざわざ行くまでの程が大変。駅近に置くべき。これから地域を充実させるには駅周辺を充実すべき（若い人は車もてない、高齢者は負担が大きい）。
- 小学校→中学進学時の分割校問題を解消する。
- 東大寺公園の充実。
- 役場が駅から遠い。
- 公的施設（保健所・警察署）。生活するのに不可欠なサービスが他の市町村のぶら下がりとなっていること（特に茨木保健所は相談しても島本町民はとりあってくれないという印象）。2万人も人口がいるのだから地元に健康を支える保健所がほしい。
- 新しいマンション等、人口のことを考えると良いことかも知れないが、この地域には福祉施設が少なすぎ、病院も水無瀬病院しかない。コロナの時には、大変だったと思う。もっと福祉サービスにも力を入れるべきである。高齢者は増えているのだから、充実することを望みます。又、学校、中学も2校しかないですし、高校も1校だけです。今後子ども達の将来のことを考えて何か対策を考えわかりやすいことがみんなに浸透すべきです。高齢者はネット社会が苦手なので、そのあたりも考えて欲しいです。
- 島本町の図書館が充実していない。分館もなく蔵書数も少ない。大学等の機関もなく、欲しい本や読みたい本も少ない。図書館をより充実させて生涯教育の体制も魅力的な町になってほしい。
- 誰もが利用できる広いスペースの自習室をつくってほしい。
- 町営プール、体育館などの充実。人口ばかり増やしてどうするのか？
- ふれあいセンターをもっと自由に利用できるようにしてほしい。家で家族が居るなかで集中して学習できないときに、無料でしかも一人席のようにしきりのある個人スペースでの学習するスペースがない。空いている部屋を開放してください。向き合って勉強はできません！
- 全く違う分野かと思いますが、日曜日に図書館を利用しましたら人、子どもさんの多さに驚きました。住宅の増加、人口の増加にともない、当然かと思いながら。ぜひ、図書館建設をお願いしたいです。
- マンションが増えて人口も増えそうなので、町立体育館を大きく新しいものにして、他所からも参加できる大会が開けるサイズのものであればいいと思う。
- 最近公園の草刈りをしていただいたのか綺麗になり子どもが遊びやすいです。ありがとうございます。お砂場は猫がうんちをしてしまうようなので何か対策をしていただくか、砂場の消毒を希望します。シャルマンコーポにある蛸の滑り台がとても危険だと思います。子どもが怪我をしたことがあります。
- 保健センターの業務拡充（保健所が遠いため）。
- 誰もが気軽に訪れることが出来る施設、集える場所を増やす。子どもなら、児童館、大人も気軽に集える集会所や、お茶が飲める所などを作る。
- 半世紀以上島本町に住んでいますが町並みはかなり変化しました。時代の流れで仕方がないと思いますが、宅地開発等は地権者任せにせず、豊かな自然を守るため、もう少し町が関与してもいい

のではと思います。また子どもが遊べる場所をもう少し充実して欲しいです。特にプール（町営）は必要では無いでしょうか。こういう場所が人と人をつなげる機会になると思います。

<まちづくり全般について>

● 誰もが住みやすい状態がどんな状態かを、皆がイメージすること。
● 誰もが住みやすいのはできないと思います。
● 今でも十分住みやすいまちだと思いますが、今後より良くなるように期待しています。自分にもできることがあれば可能な限りは協力したいと思います。
● 誰もが住みやすいまちづくりは、現実として無理だと思う。実際、島本町でも隙間・狭い土地でのマンションが建ち増えている。住民が意見を言っても、法律を変えないと、いくらいつても時間などの無駄にすぎない。誰がやるんですか？
● 島本駅の西側開発に伴って人口増が考えられ、その人口増に対して行政のプラン。特にインフラ対策はどうなっているのか？道路は旧道のままで車の増加に対して道路が狭すぎる。
● 川底・道路の整備、亀裂、ひび割れ、穴のあいたコンクリート。アスファルト。歩道系の段差、でこぼこを平らに。道、広場、雑草の処理。1か月に1回ぐらい手入れしてほしい。セメント、コンクリートしてない。土の水路。島本町は、まだ住みやすい方の町だと思います。
● ハード面 ①電柱をなくす ②道路幅を広げる ③高圧鉄塔をなくす ④阪急水無瀬駅前の再開発（芦屋や洗練された街を参考にすれば良い） ソフト面 ①あきらめずに情報発信しつづける。
● 在るものを大事にしていくことが肝要だと思います。島本町はこじんまりしていて顔が見える距離、自然が多く、静かだけど、京都・大阪にアクセスがよい。
● 中心部に一極集中しない町の開発を行い、自然と共存出来る様な町づくりを行ってほしい。淀川の河川敷、水無瀬川上流の山間部を利用し自然とふれ合える町づくりを望みます。
● 人口増加による交通面や買い物、医療機関利用時の不便さが不安。また、歩道の自転車通行も、歩道が狭い場所では事故が発生しそうで怖い。保育・教育施設の利用者が増える一方で、働く人が減ったり、足りていないので町として、島本町で働きたいと思わせるような処遇を設定すべき。何に、どのように、町民にとってメリットがあることが明確なことに税金を使って欲しい。今は何をされているのかわからなくて、今後への不安がある。
● 駅前開発など町づくりの大きな企画無しに個別に許可を与えることがどれだけ町づくりの妨げになっているか役場の職員は自覚して欲しい。防災公園や児童の遊び場、緑豊かな空間づくりこそ福祉の基本である
● 町の転入による人口増加や年齢構成を踏まえた、計画的な都市整備。古く危険な道路環境の改善。駅前の立地を活かした活気ある商業施設への改革、誘致。とくに阪急水無瀬駅周辺。子育て世代の転入が増えているが、子育てしやすい住環境ではないため。
● 雨が降っても買い物しやすい大型ショッピングセンターを駅前に誘致する。
● アルプラでもイオンでも、活気ある商業施設、もしくはフードコートを作してほしい。日頃から気軽に歩いていける場所があると、自然と地域となじむ。
● 店舗（飲食店等）の誘致。
● 島本駅構内にコンビニがほしい。ドリンクだけの小さなものでいい。自販機でもいい。改札の中に何か飲み物が買える場所がほしい。島本駅の改札と人の数が合っていない。朝のラッシュ時は改札内に入れても混みすぎていて階段を降りられないのでとても困っている。

2. 調査結果

● 島本町にカフェをつくってほしい。
● 要望：マンションは不要、チェーン展開しているカフェやファーストフード等希望。
● もう少し飲食店や娯楽施設を誘致して頂きたい。
● 最近、若年層が増えてきて、小さいお子さんが居る家庭が増え、あちこちで新築戸建てやマンションの建設が盛んなように思います。大型スーパーや複合施設があれば町内外問わず需要があると思いますので、設立して頂きたいです。
● 家やマンションばかり建てず、他市町民や他団体が利用出来る体育館や広場、公園などを作ったり、子どもたちが遊べる場所を作るなど、土地の活用方法を考えて欲しい。
● もう少し公園の整備をすべきかと思いました！
● これから島本町も人口が増えていくので子どもから大人までさまざまなニーズに合ったイベントの開催があれば街の魅力も増すと思います。商店街の活性化も必要です。買い物、外食を近隣市町に行くのではなく島本町に魅力あふれる店があればいいと思います。現に数店ありますが、もっと望みます。
● マンション等の住み場所は増えているが、ゆっくり食事ができる場所（飲食店）や、生活用品（特に、洋服や家電、おもちゃ等）が買えるお店が町内にほとんどないので、困っている。あっても品数が少なく、選ぶ楽しみもあまり感じられない。
● マンションが多すぎる。別のものも作ってほしい。高いマンションがたくさんできたので山が見えなくなって残念。
● あちらこちらに大きなマンションができて、これからたくさんの方が越して来られると思います。昔から住む人と新しい人が交流できるような場所や機会があればなと思います（しまもとぐるっとマーケットもとても良いと思います！）。空き家の目立つ地域も多いので、それらを生かしたサロンなど、個人的には子どもがいるので子連れで入りやすい飲食店が増えてほしいです。今後に期待しています！
● 今以上にマンション建設は必要ないと思う。
● マンションの増加で人口も増加、もっと課題が増えると思います。マンション建設の制限が必要ではないでしょうか。
● これ以上の住宅増設はやめてほしい。増えた分の対策、対応はできますか。人口増ももう十分。
● 島本町は自然が多いことが良い点であったが、無駄な開発が進んで、住環境が悪化しているように感じる。これ以上開発は必要ないと思う（特に島本駅周辺は以前ようなれんげ畑が無くなって寂しい）。
● マンションが増え住民が増えることで、インフラの不足や地域の関わり合いが減ってくると思う。島本町の良さの住みやすさや温かさが失われつつあると思うので、その辺りの見直しが必要だと思う。
● マンションをたくさん作るのではなく、自然をもっと大切にしてほしい。なぜなら周りに自然がある方が心が落ち着くし見ていて楽しいから。
● マンションを建てすぎだと思います。人が入らないのに、建てる許可をする意味が分かりません。町民の人数はそれほど大きく増減していないのに、マンションをたくさん建てる理由を教えてください。もし無いのなら、小・中学校への支援、生活が困難な方への支援など、困っている人に手を差しのべるためのお金に使ってほしいです。商業施設や飲食店を建てる方が町の経済は良くなると私は思います。

- もうこれ以上マンションを建てるな、自然をこわすな！

<アンケートについて>

- 具体的な数値に基づいた意見収集も必要と思う。島本町人口3万人、勤務地島本町への意識調査も必要と思う。医療等ケースワーカー、労働者、教師等。
- アンケートを活かして町が本当に本腰を入れて取り組んでいただきたい。
- アンケートを取るだけでなく、意見や要望を積極的に取り入れ、住みやすいまちづくりを進めてください。
- その他欄が小さく意見を書きづらかったです。

<その他・町政全般について>

- 文化的な取組（歴史史跡などの保全や住民へのけいもうなど）が近隣市町村に比べ劣っている。例えば大河ドラマ放映に因んだのぼりやイベントなど大山崎、長岡京、向日市、茨木市等熱心だが島本町はゼロ！
- 形だけ名前だけの金食い組織は無くして、実績のある組織、個人に支援出来る制度（監視）が必要。必要な時に同じ目線での協力。
- ゴミすてなど、自治会にまかせるのではなく、役場がすべて、管理・運営すべき。自治会は、しょせん一般人のあつまり、わがまま、特定のいい人だけが役を引き受けてくれている。生活に関することは、自治会ではなく、役場で狭い地域毎に担当を割り当て管理しては…
- ゴミの出し方を守って欲しい。回収されなかったゴミ袋を出した人が自主的に引きあげるべきなのに放置したままで困ることがある。
- これだけ物価も値上がりして、生活も大変になり年金も65歳までもらえず、生活しにくい中、島本町は水の値段が高すぎて…。聞くと高槻とか2か月分で島本町の1か月分になるとか。
- 社会的弱者に優しい自治体施策の実現をできるところから進めていただきたい。
- まちの保健室のような活動。
- 郵便受に地域の民生委員の方の一覧表と活動のチラシが入っていたので、保存しておきます。中学校区問題で、来年から青葉地区の子供は二中まで通学とのことで実際小5の孫が歩いて見ると30分少々かかった。遠すぎる。孫は訳ありで二中になると問題が多く出て来るので、何とか一中に行けないものか、理由書とか提出して。
- 以前自治会長をしていたが、自治会は役場の御用聞きではない！何もかも自治会に振ってくるな！まずは役所がしっかり自分達で納めろ。なぜ島本町という小さい地域にこだわるのか？保健所は茨木、警察は高槻、電話番号は京都、小さい図書館、無くなったままのプール・キャンプ場。議員や役人の存続の為だけの島本町存続は止めて、早く高槻市と合併してもらえ。それが一番の防災であり、災害後の早い復旧に繋がる、今のままでは取り残されるぞ。
- 各所で自治会組織が成り立たなくなっているようだが、住民自治活性化のために新しい試み（「くじ引き民主主義」の実践、各種ボランティアの活用など）をして行ってほしい。行政はサービスを提供し住民は受ける側、という関係性を克服していく必要がある。
- 今の町長さんになって島本町も変わってきたように思います。私も役場にはずいぶんお世話になり本当に感謝しております。息子を通じてですけど、役場との距離が近くなったように思います。役場

2. 調査結果

までの距離が、坂があるために出来たら、島本町の分室みたいな所があればもっと行きやすいと思います。
● 行政から依頼を受けている企業、個人、さらにNPO団体などへの公金支出をしっかりとチェックしてほしいです。会計士などによる公的な監査と罰則指導を徹底して、血税を有意義に活用してもらいたいです。
● 支援が必要な高齢者への対応や、何事も子ども優先の施策を進めるのではなく、何人も平等に行政サービスが受けれる町政を展開して欲しい。そう意味では納税者の1人として現状に全く納得していません。
● 住民サービスの充実。
● 地域住民のつながりをより深めようと、2017年に誕生した町の公式マスコットキャラクター「みづまろくん」のサポーターとして、イベントへの出動やSNSでの広報などをボランティアで行っているが、着ぐるみ貸し出しのハードルが高いことや、土日にあずからないといけないこと、職員の代わりに出すのに、書類手続が必要等、島本町のキャラクターなのに、役場の行事などでしか使われていない現状。もっと住民も使いやすい体制づくりを進めてほしい。
● 島本町については年配者が多く高齢者福祉に力を入れていた印象でした。近年は住宅開発が進み、町の人口の急速な増加が考えられる中、今後一人当たりの福祉サービスの低下やその水準維持のための増税などを懸念しています。こう言った点について町からの丁寧な説明を望みます。
● 島本町は環境だけが良い！議員は何をしているのか伝わらない。町内や議員に期待もないが、ただ言えることは住宅、住民ばかり増加させ、税収入はたいして増加せず、今後、子ども、高齢者にかかる費用は増額、福祉分野のことよりも町内に税金以外の収入が入る仕組みを考えるべき。収入があれば福祉分野にも余裕を持てる。
● マナーやルールを守らない人がいるのが残念。タバコのポイ捨て。犬猫のフン片付け。近所以外の人のゴミ置き。もっと大きな視野でみると高さ制限のないマンションの乱立。町政が関わった所は成功しているが…。もっと町政の介入が必要と思われます。土地の寄付者は、住み良い町を望んでいると思います。
● 木造の固定資産税が金沢市と比べて倍になっている。評価基準を再点検して欲しい。
● 島本町役場の人々はとても明るく親切だと思います。今後共、窓口に来た町民に対して「誠心誠意」で対応していただきたく、よろしくお願いします。
● 町の職員が「住民のために」働く意識をもって行動することで、住民の気持ちがひとつになっていくと思います。「島本町はいいところである。職員さんがいきいきとしているのだから」と。
● 町行政や関係団体が本気でこの問題を考え、現実的な実行課題に取り組んでいくことが何より大切に思う。実際に一人でも二人でも困っている住民を助けること、そんな町づくりを町全体に広げることが期待したいです。
● 急激に町が活性化していて、すばらしいと思う反面、高齢者や既存の住民へのサービスが低下している気がします。長く住みたい町、すべての世代が幸せで元気な町であることが、島本町の魅力になっていくと思います。外から呼び込むことばかりに力を注ぐのではなく、今ある人物・資源を大切にしてください。
● 生活保護を受けている方が裕福そうに感じるが見直しの時期、職業の相談等積極的に働きかける必要があるのではないか。

- | |
|--|
| ● 北区から転居してまいりました。とても住みやすく温かい場所だと感じています。いつも有難うございます。 |
| ● 2019 年～2023 年 9 月末まで海外赴任をしておりその間が分らず回答が出来ない。今後は、島本町への興味を持って暮らして行きたい。 |
| ● 犬の飼い主さんの散歩のマナーが悪い。ふんの持ち帰り、民家の玄関先でオシッコさせないなど守られていないことが多く、迷惑している。 |

3. 資料（アンケート調査票）

しまもとちょう ちいきふくし かん ちょうさ 島本町の地域福祉に関するアンケート調査

きょうりょく ねが
ご協力のお願い

《インターネットでの回答方法》 2月20日（火曜日）までにお願ひします。

パソコンやスマートフォンで下のURL（または右 調査用ID・パスワード）の2次元コード）にアクセス後、IDとパスワードでログインしてください。（IDとパスワードは無作為に付与しており、個人が特定されることはありません。）

【URL】 <https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/shimamotofukushi/chiiki/>

スマートフォン用



みなさまには日頃より町政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。
島本町では、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりのため、「第4期島本町地域福祉計画」「第1期島本町自殺対策計画」に基づくさまざまな取組を進めてきました。しかし、人口減少社会と超高齢社会の進行、地域のつながりの希薄化、深刻化する社会的孤立の増加などにより、地域を取り巻く問題が複雑化・複合化しています。

このたび計画の見直しにあたり、住民の方を対象に、近所づきあいや地域活動に関するアンケート調査を実施することとなりました。

調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和6（2024）年2月 島本町

調査票のご記入にあたって

- このアンケート調査は、15歳以上の住民から無作為に1,500人を抽出し、調査票を発送しています。調査は無記名で行い、回答はすべて統計的に処理するため、個人が特定されることはありません。
- ご本人のお考えをお聞きたいので、できるだけご本人がご記入ください。ご本人のご記入が困難な場合は、ご家族などがご本人のお考えをお聞きの上、代理でご記入ください。
- この調査票では、調査票が郵送された宛名の方を「あなた」とお呼びしますので、令和6（2024）年1月1日現在のあなたの状況についてお答えください。
- 回答は、選択肢に○をつけてお選びいただく場合と、文章などをご記入いただく場合があります。注意書きに従ってご回答ください。
- 回答は、鉛筆やボールペンでご記入ください。
- ご記入いただいた調査票は、2月20日（火曜日）までに同封の返信用封筒に入れて（切手を貼らずに）投かんしてください。ご協力の程よろしくお願い申し上げます。
- 障害などにより回答が困難な方は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

■アンケート調査に関するお問い合わせ先

しまもとちょうやくば 島本町役場 福祉推進課（役場1階⑦番窓口）
〒618-8570 島本町桜井二丁目1番1号
電話：075-962-7460 FAX：075-962-5652



しまもと公式
マスコットキャラクター
「みづまるくん」

1 あなた及び世帯のことについて

問1 あなたの性別は。あてはまる番号に○をつけてください。社会生活上の性別で記入ください。

ひとつだけに○

- 1 男性 2 女性 3 答えたくない

問2 あなたの年齢をお答えください。（数字を記入）

令和6（2024）年1月1日現在で、満（ ）歳

問3 あなたはどこの小学校区にお住まいですか。
小学校区がわからない方は地区名を丁目までお答えください。

ひとつだけに○

- 1 第一小学校区 2 第二小学校区 3 第三小学校区
4 第四小学校区 5 小学校区がわからない

⇒（記載例：桜井二丁目など ）

問4 あなたの世帯の家族構成について、お答えください。

ひとつだけに○

- 1 回答者ご本人のみ 2 夫婦のみ
3 夫婦と子 4 夫婦と親
5 親・子・孫（三世代）※四世代以上を含む 6 母と子、または父と子
7 その他（ ）

問5 あなたの家族の中で、次のような方（あなた自身を含みます）はいますか。

あてはまるすべてに○

- 1 乳幼児 2 小学生
3 中学生 4 高校生
5 65歳以上の方 6 介護を必要とする方
7 障害のある方 8 いずれもない

問6 あなたは、現在の小学校区に住むようになってからどのくらいになりますか。

ひとつだけに○

- 1 5年未満 2 5年以上10年未満
3 10年以上20年未満 4 20年以上

2 悩み・相談について

問7 日頃の生活で、あなたがとくに不安を感じていることや悩みは何ですか。

あてはまるすべてに○

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 自分や家族の健康のこと | 2 自分や家族の老後のこと |
| 3 教育や進路のこと | 4 育児に関すること |
| 5 介護や福祉サービス利用に関すること | 6 収入など経済的なこと |
| 7 働くこと（就職・失業） | 8 地域での人間関係のこと |
| 9 家庭内の人間関係のこと | 10 学校や職場での人間関係のこと |
| 11 住宅のこと | 12 地域の防犯のこと |
| 13 地震や風水害など災害のこと | 14 地域での移動や通院手段のこと |
| 15 地域での買物（場所）のこと | |
| 16 その他（ | ） |
| 17 特になし | |

問8 あなたは悩みやストレスを感じたときに、どう考えますか。

		ひとつだけに○				
		そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	そう思わないあまり	そう思わない
ア	助けを求めたり、誰かに相談したいと思う	1	2	3	4	5
イ	誰かに相談をすることは、恥ずかしいことだと思ふ	1	2	3	4	5
ウ	悩みやストレスを感じていることを、他人に知られたくないと思う	1	2	3	4	5
エ	誰かに悩みを相談することは、弱い人のすることだと思ふ	1	2	3	4	5
オ	悩みや問題は、自分一人で解決すべきだと思ふ	1	2	3	4	5

問9 あなたは不安や悩みを感じたときに、以下の人々に相談すると思いますか。

		ひとつだけに○		
		相談する	わからない	相談しない
ア	家族や親族	1	2	3
イ	友人や同僚・上司	1	2	3
ウ	学校の先生	1	2	3
エ	近所の人（自治会の役員なども含む）	1	2	3
オ	かかりつけの医療機関（医師、看護師、薬剤師など）	1	2	3
カ	民生委員児童委員	1	2	3
キ	役場など公的な相談機関	1	2	3
ク	地域包括支援センター	1	2	3
ケ	社会福祉協議会（以下、「社協」という） （地区福祉委員会、コミュニティソーシャルワーカー*も含む）	1	2	3
コ	チャットやLINEなどのSNS*・インターネットなどの相談窓口	1	2	3
サ	その他（具体的に_____）	1		
■ア～サに該当しない場合、次のいずれかに当てはまるものがあれば○をつけてください。				
	相談する人がいない	1		
	どこに相談すればよいかわからない	1		

※コミュニティソーシャルワーカー：個人の悩みや地域の困りごとを地域に出向いて一緒に考える地域の相談員。高齢者、障害者、ひとり親家庭など、社会的支援が必要な方の相談に応じる人

※SNS：Social Networking Serviceの略で、人と人のつながりを促進・サポートするコミュニティ型の会員制サービス

問10 あなたは相談窓口や福祉サービスなどの情報を十分に得ることができていますか。

ひとつだけに○	
1 十分得ることができている	2 だいたい得ることができている
3 あまり得ることができていない	4 ほとんど得ることができていない
5 わからない	

3 あなたの暮らしや近所づきあいについて

問11 あなたは、どのような近所づきあいをされていますか。

ひとつだけに○

- 1 近所の仲の良い人とよく行き来している 2 会えば親しく話をする人がいる
3 あいさつ程度がほとんどである ⇒問12へ 4 近所づきあいはほとんどない ⇒問12へ

【問12は、問11で「3」「4」に○をつけた方におうかがいします。】

問12 あまり近所づきあいをされていないのはなぜですか。

あてはまるすべてに○

- 1 仕事などで家を空けることが多く、知り合う機会がない 2 近所づきあいはわずらわしいので避けている
3 近所づきあいはしたいが、つい消極的になってしまう 4 近所づきあいはしたいが、仲間に入れてもらえない
5 普段留守の家が多いなど、そもそも近所づきあいのほとんどないところである
6 最近引っ越してきた
7 その他（ ）

問13 あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。

ひとつだけに○

- 1 ない 2 ほとんどない 3 ときどきある 4 常にある

問14 お住まいの地域に孤立している人や気がかりな人がいますか。

ひとつだけに○

- 1 いる ⇒問15へ 2 いない 3 わからない

【問15は、問14で「1」に○をつけた方におうかがいします。】

問15 地域で孤立している人や気がかりな人に対して何かしていますか（しましたか）。

あてはまるすべてに○

- 1 気にかけて見守っている 2 相談にのったり、手助けをしている
3 役場や社協、専門機関などに相談している 4 地域の人などに相談している
5 支援したいが本人や家族などから拒否がある 6 どうすればよいのかわからない
7 その他（ ）

問16 日頃の生活で不安や悩みがあるとき、地域で孤立している人や気がかりな人に気づいたとき、どのような仕組みがあると解決に向けて行動ができるとおもいますか。

あてはまるすべてに○

- 1 役場や社協で多様な相談を総合的に受け付けてもらえる
- 2 身近な地域で気軽に相談できる場所がある
- 3 福祉の専門職などが地域に出向いて相談にのってくれる
- 4 地域住民がオンラインで相談できる地域専用のウェブサイトやSNSを設ける
- 5 その他（ ）

問17 地域での助け合いを活発にするために、どのようなことが最も重要だと思いますか。

ひとつだけに○

- 1 近隣や地域における温かな人間関係（信頼関係）の構築
- 2 地域の自治会や子ども会、年長者クラブなどの活動をもっと活発にしていく
- 3 地域活動やボランティア活動に関する情報提供の充実
- 4 地域活動のリーダーやボランティアの養成
- 5 学校教育や社会教育での福祉教育の充実
- 6 交流の機会となる地域の行事の充実
- 7 地域での助け合い活動は必要ない
- 8 わからない
- 9 その他（ ）

問18 あなたは、地域での交流の場やイベント※に参加することがありますか。

ひとつだけに○

- 1 よく参加する
- 2 たまに参加する
- 3 あまり参加しない ⇒問19へ
- 4 まったく参加しない ⇒問19へ

※島本町には、地域での交流の場やイベントとして以下のようなイベントがあります。

ふれあいフェスタ、障害者週間ふれあいバザール、文化祭、島本夏まつり、しまもと社協まつり、しまもと手づくりコミュニティ市、農林業祭、青少年健全育成大会、町民スポーツ祭、ワクワク！しまもと環境学校、町内一斉清掃、各種自治会行事、いきいきサロン、子育てサロン、その他

【問19は、問18で「3」「4」に○をつけた方におうかがいします。】

問19 参加していない理由は何ですか。

あてはまるすべてに○

- 1 興味のあるイベントや活動がない
- 2 人とのかかわるのが苦手
- 3 参加したいがどのようなイベントや活動があるかわからない
- 4 時間が合わない、時間的な余裕がない
- 5 経済的な余裕がなく、参加ができない
- 6 知り合いがいらないため参加しにくい
- 7 関心がない
- 8 その他（ ）

3. 資料（アンケート調査票）

問20 コロナ禍以前（令和元（2019）年度）と比べて外出の回数が減っていますか。

ひとつだけに○

- 1 とても減っている 2 減っている 3 あまり減っていない 4 減っていない

問21 コロナ禍において、近所づきあいや地域のつながりに変化はありましたか。

ひとつだけに○

- 1 良くなった 2 まあまあ良くなった 3 変わっていない
4 やや悪くなった 5 悪くなった

4 まちの安心や幸せにつながる活動について

問22 あなたは、福祉に対して関心がありますか。

ひとつだけに○

- 1 非常に関心がある ⇒問23へ 2 どちらかといえば関心がある ⇒問23へ
3 どちらかといえば関心がない 4 まったく関心がない

【問23は、問22で「1」「2」に○をつけた方におうかがいします。】

問23 あなたは、どのような分野に関心がありますか。

あてはまるすべてに○

- | | |
|---------------------------|----------------|
| 1 高齢者に関すること | 2 障害のある人に関すること |
| 3 児童・子育てに関すること | 4 ひとり親家庭に関すること |
| 5 自殺対策に関すること | 6 再犯防止に関すること |
| 7 財産管理や虐待防止など（権利擁護）に関すること | 8 地域福祉に関すること |
| 9 生活保護・生活困窮者支援に関すること | 10 その他（ ） |

問24 あなたは、日頃、福祉について学ぶ機会がありますか。

ひとつだけに○

- 1 ある ⇒問25へ 2 あまりない 3 ない

【問25は、問24で「1」に○をつけた方におうかがいします。】

問25 それはどのような機会ですか。

あてはまるすべてに○

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 町の行事・講座 | 2 学校での教育など |
| 3 社協の行事・講座 | 4 地区福祉委員会の活動 |
| 5 福祉サービス事業所の行事・講座 | 6 自治会の行事 |
| 7 国や大阪府などの行事・講座 | 8 インターネット、テレビ、マスコミ |
| 9 その他（ ） | |

問26 あなたは現在、地域活動やボランティア活動に参加していますか。

ひとつだけに○

- 1 参加している
- 2 以前に参加したことがあるが、現在参加していない
- 3 まったく参加したことはないが、今後参加したい
- 4 まったく参加したことはなく、今後参加したいとは思わない
- 5 その他（ ）

問27 あなたが参加している、もしくは参加していた地域活動の分野をお答えください。
参加していない方は、今後参加したいと思う地域活動の分野をお答えください。

あてはまるすべてに○

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1 高齢者の支援(見守り・配食など) | 2 障害のある人の支援(介助・点訳・手話など) |
| 3 子育ての支援(見守り・交流の場など) | 4 子どもの学習支援など |
| 5 健康づくり | 6 地域の清掃・美化や地域おこし |
| 7 消防・防災、災害時の支援 | 8 交通安全・防犯 |
| 9 自然環境保護・リサイクル | 10 趣味や生涯学習・スポーツ |
| 11 青少年の育成や支援 | 12 国際交流・国際協力 |
| 13 地域の祭りや伝統行事など | 14 地域住民の交流の場や居場所づくり |
| 15 再犯防止に関すること | 16 特になし |
| 17 その他（ ） | |

【問28は、問26で「2」「3」「4」に○をつけた方におうかがいします。】

問28 あなたが地域活動に参加していない理由は何ですか。

あてはまるすべてに○

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 仕事や家事・育児などで忙しいから | 2 一緒に参加する人がいないから |
| 3 地域の行事や活動に興味がないから | 4 地域以外での活動に参加しているから |
| 5 地域でやりたい活動がないから | 6 自治会などに入っていないから |
| 7 参加の方法がわからないから | 8 参加のきっかけがないから |
| 9 家族の協力や理解が得られないから | 10 人間関係が難しそうだから |
| 11 体力的に無理だから | 12 その他（ ） |

5 生活困窮者※の支援について

※生活困窮者：仕事や家庭、健康、社会的孤立など様々な問題によって経済的に困っていたり、そのおそれがある方

問29 あなたは、現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

ひとつだけに○

- | | | |
|------------|------------|---------|
| 1 大変苦しい | 2 やや苦しい | 3 ふつう |
| 4 ややゆとりがある | 5 大変ゆとりがある | 6 わからない |

問30 あなたは生活困窮者の問題について、どのような支援が必要だと思いますか。

あてはまるすべてに○

- | | | |
|----------------------|--------------|---------|
| 1 就労支援 | 2 生活再建のための貸付 | 3 住居の確保 |
| 4 家計管理など生活力を高めるための支援 | 5 学習支援 | |
| 6 進学に関する費用の支援 | 7 医療費の支援 | |
| 8 その他（ | | ） |

6 緊急時・災害時の対応について

問31 あなたの、防災に対する日頃からの取組や、災害などの緊急時の対応について、おうかがいします。

		ひとつだけに○		
		はい	いいえ	わからない
ア	日頃から地域の防災活動に参加していますか	1	2	
イ	地域の自主防災組織（自主防災会など）に入っていますか	1	2	3
ウ	災害時の避難場所について知っていますか	1	2	
エ	隣近所の方で、自力避難が困難と思われる人（ひとり暮らし高齢者や障害のある人など）を知っていますか	1	2	
オ	災害などの緊急時に、避難所への誘導などの手助けが必要ですか	1	2	3
カ	災害などの緊急時に、高齢者や障害のある人など、配慮が必要な人の避難などの手助けができますか	1	2	3
キ	「個別避難計画※」を知っていますか	1	2	

※個別避難計画：災害時に自力避難が困難な重度障害者・要介護高齢者などについて、避難場所や支援者・要配慮事項などを個別に定める計画

問32 あなたは、地震や水害などの災害が起こったときに、ほかの人の避難を支えていきたいと思いますか。

ひとつだけに○

- 1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらともいえない
4 あまりそう思わない 5 そう思わない

問33 災害時に頼りにしたいと思う人や、地域の機関・団体はどれですか。

あてはまるすべてに○

- | | | |
|----------|----------------|------------|
| 1 家族・親族 | 2 友人・知人 | 3 近所の人 |
| 4 自治会 | 5 自主防災組織 | 6 民生委員児童委員 |
| 7 役場 | 8 社協 | 9 警察・消防 |
| 10 わからない | 11 その他（ ） | |

問34 地震や水害などの災害に対して、地域で最も必要だと思う備えは何ですか。

ひとつだけに○

- 1 隣近所での住民同士の日頃のつながり合いと助け合い
2 高齢者や障害のある人など、支援を必要とする人たちへの支援体制の整備
3 隣近所で、避難場所や避難方法を話し合って決めておく
4 防災教育・訓練の実施 5 心肺蘇生法や応急手当などの救急講習会の開催
6 特に備えは必要ない 7 その他（ ）

7 こころの健康づくりについて

問35 自殺について相談できる窓口や支援者として、知っているものはありますか。

あてはまるすべてに○

- 1 役場 2 こころの健康相談※ 3 保健所 4 ゲートキーパー※
5 SNSやチャットによる自殺防止の相談 6 その他（ ）

※こころの健康相談：保健所の精神保健担当の相談員や精神科医による相談（電話・来所）

※ゲートキーパー：悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人

問36 自殺対策は、自分自身に関わる問題だと思いますか。

ひとつだけに○

- 1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらともいえない
4 あまりそう思わない 5 そう思わない

問37 自殺を防ぐために、どのような対策が有効だと思いますか。

あてはまるすべてに○

- | | |
|----------------------------|------------------|
| 1 自殺の実態を明らかにする調査・分析 | 2 ゲートキーパーの養成 |
| 3 地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い | 4 自殺予防に関する広報・啓発 |
| 5 チャットやLINEなどSNSによる相談機関の充実 | 6 子どもや若者の自殺予防 |
| 7 いじめを苦にした子どもの相談先の確保 | 8 危険な場所・薬品の規制など |
| 9 自殺対策に関わる民間団体の支援 | 10 適切な精神科医療体制の整備 |
| 11 職場におけるメンタルヘルス対策の推進 | 12 自殺未遂者の支援 |
| 13 自死遺族などの支援 | 14 その他（ ） |

8 再犯防止対策※、成年後見制度※について

※再犯防止対策：犯罪や非行の再発を防止するため、犯罪や非行をした人の立ち直りを支える取組

※成年後見制度：認知症や知的障害、精神障害などにより判断能力が不十分な人の権利・財産を守る制度

問38 再犯防止に関する民間協力者や組織で、あなたが知っているものはありますか。

あてはまるすべてに○

- | | | |
|----------|-----------|-----------|
| 1 保護司※ | 2 協力雇用主※ | 3 更生保護施設※ |
| 4 その他（ ） | 5 どれも知らない | |

※保護司：犯罪や非行をした人たちの立ち直りを地域で支える民間ボランティア

※協力雇用主：犯罪をした人などを雇用し、または雇用しようとする民間の事業主

※更生保護施設：矯正施設の出所者や保護観察中の人に宿泊場所・食事を提供するなどの民間支援施設

問39 再犯防止のために、どのようなことをすべきだと思いますか。

あてはまるすべてに○

- | | |
|---|--------------|
| 1 高齢者、障害のある人などが刑務所など出所後に適切な福祉サービスにつながる | |
| 2 雇用が確保されること | 3 住宅が確保されること |
| 4 学校などと連携し修学・立ち直し支援をおこなうこと | |
| 5 住民に対して、「社会を明るくする運動※」など再犯防止について啓発活動を行うこと | |
| 6 再犯防止や依存症対策に取り組む協力者や団体に対して支援を行うこと | |
| 7 その他（ ） | |

※社会を明るくする運動：犯罪・非行の防止と犯罪をした人などの更生について理解を深めるための運動。

問40 あなたは、成年後見制度を知っていますか。

ひとつだけに○

- | | |
|------------------------------|-------------------|
| 1 どのような制度が大体知っている | 2 どのような制度が少し知っている |
| 3 名称は聞いたことがあるが、どのような内容かは知らない | 4 まったく知らない |

9 今後の地域福祉分野の施策について

問41 今後、島本町が取り組むべき地域福祉分野の施策として、どのような施策を優先して充実すべきだと思いますか。

ひとつだけに○

- 1 ボランティアなどの地域活動参加の促進や支援
- 2 地域活動のリーダーやボランティアなどの人材の養成
- 3 身近なところでの相談窓口の充実
- 4 住民が共に支え合う仕組みづくりへの支援
- 5 何らかの援助が必要になっても在宅生活が続けられるサービスの充実
- 6 地域での生活や福祉サービスに関する情報提供や案内の充実
- 7 学校などでの福祉教育の充実
- 8 災害時における高齢者や障害のある人などへの支援の充実
- 9 その他（ ）

問42 誰もが住みやすいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望がございましたらご自由にお書きください。

以上でアンケート調査は終わります。ご協力ありがとうございました。

この調査票を「返信用封筒」（切手は不要）に入れて、

2月20日（火曜日）までにポストに投かんしてください。

（※調査票や封筒には、名前や住所を記入しないでください）

島本町の地域福祉に関する アンケート調査報告書

令和6（2024）年3月

発行 島本町 （健康福祉部 福祉推進課）
郵便番号 : 618-8570
住所 : 大阪府三島郡島本町桜井二丁目1番1号
電話 : 075 - 961 - 5151
ファックス : 075 - 962 - 5652
